



ラテンのノリの曲、というのだろうか。スタートから、エキゾチックな雰囲気漂う。日本にも、ダンス曲は多いが、この曲には新しい感じ、新鮮味が感じられる。PVには、それらしい世界で、憑かれたように踊り狂う、ユーミンと現地風の男たちが。次第に盛り上がってゆく、高揚感が、快い。

(詞・曲 松任谷 由実)

骨まで溶けるよな テキーラみたいなキスをして 夜空もむせかえる 激しいダンスを---

(収録プロフィール)

松任谷 由実 (まつとうや ゆみ、1954～ ) は、日本のシンガーソングライター、作曲家、作詞家。荒井由実 (あらい ゆみ) の名で活動していたが、1976年の結婚とともにアーティスト名も改姓。ペンネームは呉田軽穂 (くれた かるほ)。東京都八王子市出身、世田谷区岡本在住。立教女学院高校、多摩美術大学美術学部絵画学科日本画専攻卒業。

\* 今なお日本のポップ・シーンでトップの地位に君臨しつづける女王・松任谷由実、通称ユーミン。73年に荒井由実として『ひこうき雲』でデビューを果たす。細野晴臣率いるキャラメル・ママの都会的センスに溢れたバックিংと彼女のリッチでファッショナブルな世界観は、歌謡曲/四畳半風フォーク色だったポップ界に新たな価値観を呈示した。また76年に松任谷正隆(キャラメル・ママ～ティン・パン・アレイ)と結婚したことにより強力なブレーンを得た彼女は二人三脚での活動を開始し、より大衆的なポップスの名曲を創りだしていく。

\* 「14番目の月」シティ・ポップスの第一人者としての地位をユーミンが確立したアルバム。歌を聞いて情景が浮かんでくる「中央フリーウェイ」は、しっかりとロケハンまでしてつくった曲。見事に70年代の青春しているアルバム。

\* 「YUMING BRAND」荒井由実だったころのユーミンのベスト。ユーミンの第1期黄金時代ともいえるフレッシュな感性と独持のユーミン・サウンドが美しくマッチした名曲ぞろいで、上品でさわやかなメロディはいつ聴いても新鮮な印象を受ける。懐かしき時代の息吹を伝える名コンピレーション。

\* 「WINGS OF WINTER, SHADES OF SUMMER」ユーミンというアーティストの真骨頂を見たような気がする。それほど素晴らしいトータル・アルバムだ。リゾートを離れても、日常に戻っても、決して色あせることなく心の奥でそっと鳴り続ける、そんな穏やかな力を持っている。メロディも本当に瑞々しい。

80年代に入ると、時代をリードする先導者としてミリオン・セラーを連発、若いカップルの恋愛、ライフスタイル―サーフィン、スキーなどをテーマにしたユーミン・ブランドを確立。OL層を中心にファッション、恋愛の教祖として熱狂的な支持を得た。90年代に入ってもその勢いは衰えず、ワールド・ミュージックやエスニック風味を取り入れるなどの新境地を見出し、ラテン・テイストの「真夏の夜の夢」、アルバム『カトマンドゥ』が大ヒットを記録。

豪華なステージ・セットやゴージャスなサウンド・プロダクションに目を奪われがちな彼女だが、すぐにメロディを口ずさめる楽曲こそが、メガ・ヒットの要因であり、かつ最大の魅力である

といえよう。

夫はアレンジャー、作曲家、音楽プロデューサー、自動車評論家の松任谷正隆。ラジオなどで正隆について語る時は「松任谷」「まるまつ」「おとうさん」と呼んでいる。

1988年のアルバム『Delight Slight Light KISS』以降は8枚連続のミリオンセラーを連発。

彼女が始めた“見せる”ステージは、1978年自転車に乗って登場する『大衆的時事歌劇』に始まり、本物の象が出た『OLIVE』・マジックを取り入れた『MAGICAL PUMPKIN』・エレベータを設置した『BROWN'S HOTEL』・噴水ショー『SURF & SNOW』・30メートルの竜に乗った『水の中のASIAへ』など年々エスカレート。億単位の金をかけ、内外の最新技術を積極的に取り入れた、コンサートの枠を超えた新たな一大エンターテイメントになっていった。当時のインタビューでも、「レコードで儲けた分、コンサートで夢と一緒にファンの方にお返しするのが役目」と語っていた。「若者のカリスマ」、「恋愛の教祖」などと呼ばれ、1980年代はまさにユーミンの時代だった。「中産階級の手が届く夢」を歌って時代の波に乗ったユーミンだったが、1990年代に入ると精神世界や民族的な音楽に着目。『満月のフォーチュン』『真夏の夜の夢』『輪舞曲』などを生み出す。

1996年、旧姓荒井由実の名で活動を行う。セルフカバーシングル『まちぶせ』を発売。また、当時の仲間のミュージシャンを集めて、「Yumi Arai The Concert with old Friends」を開催した。このライブアルバム発売に伴い、年末リリースのアルバムが数ヶ月遅れた。これ以降、日本の恒例行事とまで呼ばれたサイクル（冬のアルバム発売～夏までツアー）が若干緩やかになったが、「カリスマはもういい。これからは好きな音楽をやる」と宣言した彼女は、以後も精力的に作品を制作。ステージはますます大掛かりになり、1999年・2003年にはロシアのサーカスチームとコラボレートした制作費50億円のコンサート「シャングリラ」を開催。前代未聞の興行として話題になる。2007年にはシリーズ最後を飾る「シャングリラIII」を開催。

2009年、2月5日から16日まで恒例の苗場コンサートを開催。インターネットでもライブを配信。4月にニューアルバム「そしてもう一度夢見るだろう」をリリース後は、4月10日から10月3日まで(全61公演)全国コンサートツアー「TRANSIT」を開催。

#### シングル

1984年2月1日 VOYAGER～日付のない墓標～ 青い船で

21 1985 メトロポリスの片隅で パジャマにレインコート

22 1987 SWEET DREAMS SATURDAY NIGHT ZONBIES

23 1989 ANNIVERSARY～無限にCALLING YOU ホームワーク

24 1993 真夏の夜の夢 風のスケッチ

25 1994 Hello, my friend Good-bye friend

26 1994 春よ、来い

27 1995 輪舞曲 ( Rond ) Midnight Scarecrow

28 1996 まちぶせ

29 1996 最後の嘘 忘れかけたあなたへのメリークリスマス

30 1997 告白 Moonlight Legend

31 1997 Sunny day Holiday 夢の中で～We are not alone, forever

32 1999 Lost Highway Spinning Wheel

33 2000 PARTNERSHIP So long long ago

34 2001 幸せになるために TWINS

35 2001 7 TRUTHS 7 LIES～ヴァージンロードの彼方で Song For Bride

TUXEDO RAIN

ANNIVERSARY

36 2003 雪月花 Northern Lights

37 2005 ついてゆくわ あなたに届くように

38 2006 虹の下のどしゃ降り Smile again

39 2007 人魚姫の夢 Au Nom de la Rose

アーティスト に提供

アン・ルイス 作詞作曲 『甘い予感』

五十嵐夕紀 作詞 『6年たったら』 『丘の上の十番地』

石川セリ 作詞作曲 『手のひらの東京タワー』 『川景色』

稲垣潤一 作詞作曲 『オーシャン・ブルー』

April 作詞作曲 『Finally』

絵夢 作詞 『くもりガラス』

カルロス・トシキ&オメガトライブ 作詞作曲 『時はかげろう』

『Like a Dolphine』 『Golden Town』

キム・ユナ 作曲 『春の日は過ぎゆく』 (映画「春の日は過ぎゆく」主題歌)

桐ヶ谷仁 作詞 『暮れ色の媚薬』 『誰よりも』

『DEPARTURE』

桑田佳祐 & His Friends 作詞 『Kissin' Christmas (クリスマスだからじゃない)』 (日本テレビ系「Merry Xmas Show」テーマソング)

小林麻美 作詞作曲 『恋なんてかんたん』 『幻の魚たち』

『EROTIQUE』 『移りゆく心』

西城秀樹 作詞作曲 『2Rから始めよう』

ザ・スクエア 作曲 『黄昏で見えない』

沢田研二 作詞作曲 『静かなまぼろし』

元ちとせ 作詞作曲 『ウルガの丘』

ヒデとロザンナ 作詞 『追想』

ブレッド&バター 作詞作曲 『海岸へおいでよ』

森山良子 作詞作曲 『きのうに乾杯』 『どこへも行かないで』

レイジー 作詞 『カムフラージュ』 『クイーンにふさわしい』

1994年、発売。この曲には、元気のよい方の、中島が存在する。大きなスケールと波動で、心を強く捉える効果をもっている。また、誰が歌っても、それなりの味わいを、出し易い曲でもある。

(詞・曲 中島 みゆき)

君が涙のときには 僕はポプラの枝となる 孤独な人につけこむようなことはいえなくて 君を泣かせた あいつの正体を---

(収集プロフィール)

中島みゆき（なかじま、1952-）は、北海道生れ、帯広市出身のシンガーS。失恋歌とラジオ番組などでの明るい語り口とのギャップで1980年代前半に大きな人気を博し、現在も根強い支持を受ける。

幼年期 - デビュー前

祖父は帯広市議会議長なども務めた中島武市、父・眞一郎は産婦人科医。札幌市に生まれ、5歳のときに岩内に引っ越し、11歳までを岩内で過ごす。その後帯広に移り、帯広小学校を卒業。帯広第三中学校に入学。1966年の夏には体調不良の母親が実家で一時療養するのに合わせて山形市に移り市立第六中学校に通うが、高校受験のため4ヶ月で帯広に戻る。その後、帯広柏葉高校を経て、藤女子大学文学部を卒業。

帯広柏葉高校3年生の時、文化祭で初めてステージを踏む。この時歌ったオリジナル曲は、「鶉の唄」である。大学時代は、放送研究会に所属し、ローカルラジオ局でスタッフのバイトなどをする一方、北大フォークソングのメンバーとも交流を持ち、活発に音楽活動を展開し、「コンテスト荒らし」の異名をとった。1972年には、「フォーク音楽祭全国大会」に出場し、「あたし時々おもうの」で入賞している。（なお、この時の音源は大会実況版としてLP化されている。）なお後年、本人はコンテストに出場したのは（交通費や弁当代が支給されるので）、バイト代わりであったと述べている。大学卒業後は帯広に帰り、家業を手伝う傍ら、アマチュア活動を続ける。喫茶ジャズオーディオのマスター、渡辺晃が主催した「自由集団」の企画で多くのステージを踏み、デビュー前に地元では既に多くのファンを獲得していた。（デビュー以前、オリジナル曲は既に100曲以上。）

デビュー - 1970年代後半

1976年4月、ファースト・アルバム『私の声が聞こえますか』を発表。その後現在まで、1年につきアルバム約1枚のペースでコンスタントに作品を発表。同年には研ナオコに提供したシングル『あばよ』が大ヒットし、ソングライターとしての名を世間に知らしめる。翌年には歌手としても『わかれうた』が70万枚を超えるセールスを記録し、ミュージシャンとしての地位を確固たるものにした。

歌手としてのブレイク曲「わかれうた」が収録されていた1978年発表の4枚目のアルバム『愛していると云ってくれ』には「世情」という楽曲が収められている。この作品は後年にTBS系ドラマ『3年B組金八先生』の劇中に使用されて大きな話題を呼び、中島の初期の代表曲のひとつとな

っている。

#### 1980年代

1979年、ニッポン放送『中島みゆきのオールナイトニッポン』（月曜1部）がスタートし、番組においての軽妙な語り口が大きな人気を集めた。1980年代前半にはミュージシャンとして更に大きな人気を集めており、1981年のシングル『悪女』はオリコンのシングルチャートで彼女にとって2度目の1位を獲得。

#### 1990年代

1990年代の日本の音楽業界では、テレビドラマやCMとのタイアップによってミリオンセラーを記録するシングルが後を絶えなかったが、その中において中島も例に漏れず、『浅い眠り』をはじめとする3枚のミリオンに恵まれている。この3枚のいずれもテレビドラマの主題歌として起用された楽曲であり、なかでも安達祐実主演の日本テレビ系列『家なき子』の主題歌として書き下ろされた1994年の『空と君のあいだに』は147万枚ものセールスを記録する大ヒットとなった。1983年発表のアルバム『予感』収録曲「ファイト!」との両A面扱いで発売されたこのシングルは、現時点での中島にとっての最大級のベストセラー。また、この時期のアルバムはシングルほど成果を上げるわけではなかったものの、それでも1980年代後半よりも安定した成績を収めた（『EAST ASIA』から『パラダイス・カフェ』までの5作は全て20万枚以上のセールスとなっている）。

#### 2000年代以降～

2000年には25年に渡って在籍したポニーキャニオンを離れ、当時創設されたばかりで自らが取締役・主要株主として経営にも参画するミニ・メジャーのレコード会社、ヤマハミュージックに移籍。

\*発売当初、このシングルは全くと言っていいほど話題にならなかった。しかし、『プロジェクトX』の人気の高まるとともに注目され、アルバム『短篇集』に、1曲目が「地上の星」、ラストが「ヘッドライト・テールライト」という構成で収録された。

2005年12月28日には『プロジェクトX』の最終回に出演。歌詞以外はほとんど声を発することなく、スタジオで同番組エンディングテーマ「ヘッドライト・テールライト」を熱唱し、カリスマ的存在を再びアピールした。

1990年代前半から本格的に行うようになった海外でのレコーディングは2000年代からは主流となり、近年では、アレンジ等にベックの父親として知られるデヴィッド・キャンベルや、ヴィニー・カリウタ、マイケル・トンプソンなどといった有名スタジオ・ミュージシャンを迎えて毎年アルバムを制作するのが恒例となっている。

1998年に一旦休止した「夜会」は2000年から再び不定期で行われるようになり、2006年の「Vol.14 24時着00時発」は、東京においてはこれまでのシアターコクーンではなく青山劇場で、大阪では初めてシアターBRAVA!において上演された。

また同年には、TOKIOに提供した「宙船」の作詞が評価され、第48回日本レコード大賞の作詩賞を受賞した。

#### 歌詞

中島みゆきの曲には、日常風景の一部を切り取り、そこを行き来する男と女や働く人々をテーマにし、その一人一人にスポットライトを当て、その心情を曲にのせるものが多い。非常に巧みな比喩表現を用いており、聞き手によってそれぞれ異なった意味を受け取ることができる。また、普遍的なテーマを歌詞にしていることも多い。例えば、1991年発売のアルバム『歌でしか言えない』収録曲の「永久欠番」。この曲は、「人は誰しも唯一無二の存在である」ということをテーマにした曲で、中学校用の教科書に引用されている。

また、「見返り美人」や佐田玲子に提供しセルフカバーした「くらやみ乙女」のように、悲劇に内包される喜劇性を最大限に強調したユーモラスな詞も存在する。中島みゆきの作品世界を自己パロディ化したような内容でもある。

### 歌唱法

基本的に、深いブレスと力強い声質を生かして朗々と歌い上げる。曲によって、また曲の中でも情景や詩が含む感情によって、いくつもの声色を使い分けている。例として、「地上の星」と「ヘッドライト・テールライト」の歌いまわしの違いが挙げられる。同じアルバムの中でももっと声質の大きく異なる曲が収録されることも多い。歌っているときの声と普段の喋り声とのギャップも著しい。

1984年、中島のコンサートツアー「明日を撃て！」のパンフレットに寄稿したユーミンは、「私がせっかく乾かした洗濯物を、またじと一っとしめらせてしまう、こぬか雨のよう」と中島の音楽を評し、「でも、そうやってこれからも一緒に、日本の布地に風合いを出していきましょう」と締めくくっている。一方、中島は自身の著書『愛が好きです』の中でユーミンのことを「尊敬している」と語っている。

また、ライバルでは無いが『谷山浩子のオールナイトニッポン』（木曜二部）にたびたび出演していた。谷山浩子にあみんの「待つわ」を無理やりデュエットさせられた事もある。

### オリジナル・アルバム

私の声が聞こえますか（1976）

みんな去ってしまった（1976）

あ・り・が・と・う（1977）

愛していると云ってくれ（1978）

親愛なる者へ（1979）

おかえりなさい（1979）

生きていてもいいですか（1980）

臨月（1981年3月5日）

寒水魚（1982）

予感（1983）

はじめまして（1984）

御色なおし（1985）

miss M.（1985）

36.5℃（1986）

中島みゆき (1988)  
グッバイ ガール (1988)  
回帰熱 (1989)  
夜を往け (1990)  
歌でしか言えない (1991)  
EAST ASIA (1992)  
時代-Time goes around- (1993)  
LOVE OR NOTHING (1994)  
10 WINGS (1995)  
パラダイス・カフェ (1996)  
わたしの子供になりなさい (1998)  
日-WINGS (1999)  
月-WINGS (1999)  
短篇集 (2000)  
心守歌-こころもりうた (2001)  
おとぎばなし-Fairy Ring- (2002)  
恋文 (2003)  
いまのきもち (2004)  
転生 TEN-SEI (2005)  
ララバイ SINGER (2006)  
I Love You, 答えてくれ (2007)  
シングル  
あした／グッバイガール (1989)  
with／笑ってよエンジェル (1990)  
トーキョー迷子／見返り美人(2nd Version) (1991)  
誕生／Maybe (1992)  
浅い眠り／親愛なる者へ (1992)  
ジェラシー・ジェラシー (1993)  
時代／最後の女神 (1993)  
空と君のあいだに／ファイト！ (1994)  
旅人のうた (1995)  
たかが愛 (1996)  
愛情物語／幸せ (1997)  
命の別名／糸 (1998)  
瞬きもせず (1998)  
地上の星／ヘッドライト・テールライト (2000)  
銀の龍の背に乗って／恋文 (2003)

帰れない者たちへ／命のリレー('04夜会ヴァージョン) (2006)

一期一会／昔から雨が降ってくる (2007)

VHS&DVD

A FILM of Nakajima Miyuki (1991)

夜会1990 (1991)

夜会 VOL.3 KAN(邯鄲)TAN (1992)

夜会 VOL.4 金環蝕 (1993)

ドキュメント夜会 VOL.5 花の色はうつりにけりないたづらに わが身世にふる ながめせし間に (1994)

夜会 VOL.6 シャングリラ (1995)

夜会 VOL.7 2/2 (1996)

FILM of Nakajima Miyuki II (1997)

夜会 VOL.8 問う女 (1997)

夜会 VOL.10 海嘯 (1999)

THE FILM of Nakajima Miyuki (2000)

夜会の軌跡 1989～2002 (2003)

夜会 VOL.13 24時着0時発 (2004)

歌姫 LIVE in L.A. (2004)

ユーミンと同じく、全盛期は過ぎてしまったのかも知れないが、いまだに多くの人々に、喜びと天啓を与えてくれる方である。この曲は、深い悩みのあるときに聴くと、励まされる唄である。力強い曲調と、大きな浪漫に溢れた歌詞の世界。日本の、悩める人々を励まし、夢をもつ人々に、それとなくアドバイスを散りばめ。まさに、素晴らしい、というしかない曲である。

(詞・曲 中島みゆき)

男には男のふるさとがあるという 女には女の---あの日々は消えても まだ夢は消えない 君よ歌ってくれ----

(収集プロフィール)

中島みゆき（なかじま みゆき、1952年2月 - ）は、札幌市出身のシンガーソングライター、ラジオパーソナリティ。1975年にシングル「アザミ嬢のララバイ」でデビュー。暗く重い作風とラジオ番組などでの明るい語り口とのギャップで1980年代前半に大きな人気を博し、現在も根強い支持を受け続けている、日本を代表する女性シンガーソングライターの一人。公式ファンクラブ名は「なみふく」である。

2006年、第56回芸術選奨 文部科学大臣賞を受賞した。「コンサートツアー2005」が評価されてのこと。シンガーソングライターとしては初の受賞者。

また同年には、TOKIOに提供した「宙船」の作詞が評価され、第48回日本レコード大賞の作詩賞を受賞した。

2007年8月から新たに設立されたヤマハミュージックアーティストがマネジメントが行う。同年秋には2年ぶりの全国ツアー「コンサートツアー2007」が行われた。

2009年11月3日、紫綬褒章を受章。受賞に際して、うれしい気持ちを「棚から本マグロ」と表現した。中島曰く、「ふつう、何か頂けそうでも辞退する（考える）ところだが、褒章はふつうではないため、すぐに返事をした」という。

2010年 10月から2011年1月まで3年ぶりの全国ツアー「中島みゆきTOUR2010 - 2011」を開始27公演9会場で行われている。今回からツアーメンバー、スタッフでTwitterを始めた。

楽曲

メロディ

覚えやすいメロディーラインもあるが、息継ぎがし辛い曲も多い。四分の三拍子で構成された楽曲も多数見受けられる。

歌詞

中島みゆきの曲には、日常風景の一部を切り取り、そこを行き来する男と女や働く人々をテーマにし、その一人一人にスポットライトを当て、その心情を曲にのせるものが多い。非常に巧みな比喩表現を用いており、聞き手によってそれぞれ異なった意味を受け取ることができる。また、普遍的なテーマを歌詞にしていることも非常に多い。例えば、1991年発売のアルバム『歌でしか言えない』収録曲の「永久欠番」。この曲は、「人は誰しも唯一無二の存在である」ということをテーマにした曲。

対照的に、工藤静香に提供した「MUGO・ん...色っぽい」や西田ひかるに提供した「きっと愛がある」のように軽いノリの詞も存在する。ただし、この2曲に関しては、いずれもCMのキャッチコピー（「MUGO・ん...色っぽい」 - “ん、色っぽい”（カネボウ）、「きっと愛がある」 - “アイがある”（三菱電機））にひっかける方が望ましいと中島が指示を受けていた経緯がある。

また、「見返り美人」や佐田玲子に提供しセルフカバーした「くらやみ乙女」のように、悲劇に内包される喜劇性を最大限に強調したユーモラスな詞も存在する。中島みゆきの作品世界を自己パロディ化したような内容でもある。

### 歌唱法

基本的に、深いブレスと力強い声質を生かして朗々と歌い上げる。曲によって、また曲の中でも情景や詞が含む感情によって、いくつもの声色を使い分けている。例として、「地上の星」と「ヘッドライト・テールライト」の歌いまわしの違いが挙げられる。同じアルバムの中でももっと声質の大きく異なる曲が収録されることも多い。歌っているときの声と普段の喋り声とのギャップも著しい。なお、転調が得意であるため、転調する曲が多い。例として、「浅い眠り」と「空と君のあいだに」が挙げられる。（途中で転調している）

### 記録

オリコンで4つの年代に渡ってシングルチャート1位を獲得した唯一のソロ・アーティストでもある。

1970年代：わかれうた（77年）

1980年代：悪女（81年）

1990年代：空と君のあいだに（94年）、旅人のうた（95年）

2000年代：地上の星（03年）

アルバム・シングルを併せたCD・レコードのトータルセールスでは、2005年までの時点で2131万枚。女性ソロ・ミュージシャンとしては歴代8位。女性シンガーソングライターとしては5位。オリコンアルバムチャートでベスト10入りした枚数では、松任谷由実、松田聖子に次いで歴代3位。

地上の星がオリコンウィークリーチャート100位以内に連続してチャートインした週数では歴代1位（2005年現在）。

50代で週間オリコンシングル一位を記録した唯一の女性歌手であり男性でもサザンオールスターズ（桑田佳祐のソロも含む）と石原裕次郎と小田和正（歴代最年長記録）しか記録していない大記録である。

アルバムの参加者を見ると、多様なアーティスト達の顔が見える。玄人筋によると、そのため荻野目洋子の世界は、やや統一性が欠け、松田聖子や中森明菜まで、届かなかったのでは、と言う説があるという。私は、そんなものかナァと、思うしかないが。でも多様な経験は、きっと先へ行って大きな花を咲かす、肥やしになるのでは、とも思う。歌唱力では、ある領域では、この2人を超えている彼女。今後に、期待したい。

さて、この曲は、オリジナルは外国曲。私が初めて、日本語で耳にしたのは、西田佐知子によるカバー版。特有の気だるさと、それに相反するようなラテンのビートとリズム。当時かなりのヒットとなって、4、5年の間、テレビやラジオから、よく流れていた。それ以前にも、原語とフルバンドによって、何度か聴いてはいたが。

1985年前後、名のある女性歌手によって、リメイクされたはずだが、詳細は浮かんで来ない。そして、荻野目版。乗りやすく、キレのある、リズムとメロディー。柔らかで、ときに低めで、爽やかな美しいアルト。ときに高めの、蜜の蕩けるような歌唱。

昔 アラブの 偉いお坊さんが 恋を忘れた 哀れな男に 痺れるような コーヒー モカマ  
タリ---やがて心 浮き浮き とっても素敵 このムード たちまち男は---

(収集プロフィール)

荻野目 洋子（おぎのめ ようこ、1968年12月-）は日本の歌手。千葉県柏市出身。堀越高等学校卒業。ヴィジョンファクトリー（旧・ライジングプロ）所属。

実姉は女優の荻野目慶子。夫はプロテニス選手の辻野隆三。

\*80年代に青春を謳歌した者なら誰もが憧れたディーバである。既存のアイドルのイメージを覆す高い歌唱力/小柄ながらもキレのあるダンスで、アイドル黄金時代に明菜とも聖子とも違う存在感を放った。「ダンシング・ヒーロー～Eat You Up～」 「六本木純情派」といった大ヒット曲を聴いてみるがよい。めくるめくシンセ・ドラム(懐かしい---)にのって、パンチの効いたヴォーカルを聴かせる彼女はまさしくダンシング・ヒーロー。そう、荻野目洋子こそ80's歌謡の世界にダンスの要素を取り入れた第一人者なのである。

そんな彼女だからこそ90年代に入っても、米国の大物プロデューサー、ナラダ・マイケル・ウォルデンやクラブ・シーンで活躍する大沢伸一など、畑違いのアーティストにプロデュースを依頼したのも頷ける話だ。

ニューヨーク・ソウルを手がけたエンジニア、デイヴ・ターリントンを迎えたサウンドは、クラブ寄りのアッパーなポップス。マンデイ満ちるのバックিং・ヴォーカルで参加。

素晴らしいオリジナルな声を持つがゆえに、ピタッとハマるサウンド探しにイメージ・チェンジを繰り返してきた彼女。ここではゆったりしたソウル風味のクラブ・サウンドに身を任せ、声を素材として使う気持ち良さを追求してる。

このところ往年のアイドルが大人のヴォーカリストとして復帰することが多く、このボサ・ノヴァ・アレンジによる名曲カバー集も意外なほど完成度が高い。ポリスのヤスティーヴィー・ワンダーのがボサ・ノヴァなんて考えもつかないが、これが実に心地よい。

## 概要

1968年に千葉県柏市に生まれ、父親の「子供は自然の中で育てる」という方針により埼玉県比企郡嵐山町に移り住み、千葉県佐倉市で小学校高学年・中学時代を過ごす。

小学生時代に、当時の番組『ちびっこ歌まねベストテン』でチャンピオンになったことでプロの道へとスカウトされ、小畑和美（ミミ）、荻野目洋子（ルミ）、大森絹子（クミ）による3人グループ「ミルク」を結成、1979年4月にはCBSソニーより『ザ・あれから いちねん』という曲でレコードデビュー。ただし、ミルクとしての活動は小学生の間だけであった。

その後、中学生時代にキティ・フィルム製作の映画『シヨンベンライダー』のオーディションを受けたのがきっかけで、1983年（中学3年）にキティ・フィルム製作のフジテレビ系のアニメ『みゆき』のヒロイン若松みゆき役の声優として活動。声優の仕事は、ソロでの歌手デビュー後も、アニメ映画『バリバリ伝説』やテレビ『ウゴウゴルーガ』のプラネットちゃんなどを行なった。アニメ『みゆき』が終了後の1984年4月3日、『未来航海－sailing－』でビクター音楽産業よりソロデビュー。その後シングル、アルバムを着実にリリースし、多くのテレビ出演やイベント等を精力的にこなすなど、当時の新人アイドル歌手としては比較的順調に活動していたが、ビッグヒットにはなかなか恵まれなかった（この時期のシングル「恋してカリビアン」は、野球・サッカー（元西武ライオンズ・福岡ダイエーホークスの秋山幸二、セレッソ大阪の森島寛晃選手）などの応援歌として広く使われている。）。

1985年11月発売の『ダンシング・ヒーロー（Eat You Up）』の大ヒットによりトップスターの仲間入りを果たす。以後は何曲もヒットを続け、1986年から1989年まで4年連続で日本レコード大賞の金賞を受賞。ユーロビートを世間に広めた象徴的存在となる一方、1988年には当時としては異例なことに、アメリカのブラック・コンテンポラリー界の超大物ナラダ・マイケル・ウォルデンをプロデューサーに迎えてアルバム『VERGE OF LOVE』を制作するなど、特定の音楽スタイルにとらわれない活動を続ける。そうした音楽活動のかたわら、アイドル・アーティスト・タレントとしてCM・バラエティー番組（たとえば『とんねるずのみなさんのおかげです』におけるコント「貧乏家の人々」や卓球対決（荻野目洋子が中学時代に卓球部に所属していたことから）等）などでも幅広く活躍。

頭の回転が早く、トーク番組やコーナーでは出されたパスに対して確実にボールを返す為、ビートたけしは「荻野目ちゃんは頭いいからね」と賞賛した事がある。『スーパージョッキー』や『たけし・所のドラキュラが狙ってる』などで、その才覚を表している。

女優としての活動では、1986年にTBSの『早春物語』、1987年のTBS『赤ちゃんに乾杯!』、1989年のフジテレビ『こまらせないで!』などで主演を務めて主題歌も歌った。NHKのドラマには、1990年の連続テレビ小説『凜凛と』、1993年のドラマ新銀河『トーキョー国盗り物語』、1995年のドラマ新銀河『名古屋お金物語』などがある。

アイドル時代は、堀越高校の先輩で同期の、故岡田有希子と一番仲が良かったと、さまざまな番組で言っている。

2001年に堀越高校在籍時の同級生のプロテニス選手辻野隆三と結婚（当時妊娠4か月）。その後は2004年の第二子出産など2児の育児に専念していたが、2005年10月19日発売のインディーズ系

コンピレーションアルバム「COVER LOVER vol.2 ～BOSSA de DISCO～」にゲスト参加し歌手活動を再開。2006年2月22日に1980年代の洋楽ヒットソングをカバーしたアルバム「VOICE NOVA」を発売。

2006年3月16日に自身のブログにおいて第三子を妊娠し、2006年8月10日には無事出産したことを発表した。

#### モットー

(実るほど頭を垂れる稲穂かな) 作詞家の先生に教えられたモットーを大切にしている。現在の主力はアメーバブログに移動してしまったが、自身の運営しているホームページ(1999年～現在)でのファンメールに、限りはあるがひとつひとつ全文を取り上げて、自身がきちんと答えていたほどファン想いで真面目で謙虚である。メールを投稿すると「メールは必ずお読みします。メッセージありがとうございました。」などの文面も見られた。

この際、「はじめまして」のファンメールは、ほぼ取り上げられてお返事がついていた。

子育てに対しては、荻野目家から伝えられた感性とモットーを強く持つ(荻野目慶子、著書『女優の夜』参照)

#### エピソード

姉の荻野目慶子出演の映画『獄門島』を見学に行った小学生時代、突如監督から、回想シーン役での出演を依頼され映画初出演をする。

#### シングル

未来航海ーSailingー (1984年4月)

“荻野目洋子”としてのデビュー曲

さよならから始まる物語 (1984年7月)

ディセンバー・メモリー (1984年11月)

無国籍ロマンス (1985年2月)

恋してカリビアン (1985)

心のままに～I'm just a lady～ (1985)

ダンシング・ヒーロー (Eat You Up) (1985年11月)

フラミンゴ in パラダイス (1986)

Dance Beatは夜明けまで (1986)

六本木純情派 (1986年10月)

湾岸太陽族 (1987年3月)

さよならの果実たち (1987年6月)

北風のキャロル (1987)

ストレンジャーtonight (1988)

スターダスト・ドリーム (1988)

DEAR～コバルトの彼方へ (1988)

ヴァージ・オブ・ラヴ (1989)

湘南ハートブレイク (1989)

ユア・マイ・ライフ (1989)  
ギャラリー (1990)  
井上陽水作詞・作曲  
少年の瞳に... (1990)  
美女と野獣 (1991)  
ねえ (1991)  
STEAL YOUR LOVE (1992)  
コーヒー・ルンバ (1992年5月)  
ロマンティックに愛して (1992)  
夢みるPLANET (1993)  
TOKYO GIRL (1993)  
ロマンセ (1993)  
PASSAGES OF TIME (HOT NEW VERSION) (1993)  
Mystery In Love (1993)  
今日から始めよう (1994)  
「荻野目洋子&村田和人」名義  
恋のハレルヤ (1994)  
幸福への時間 (1995)  
明日は晴れる！ (1995)  
LOOK UP TO THE SKY (1997)  
Make It On My Own (1997)  
from my Garden (1997)  
WE' LL BE TOGETHER (1999)  
Feeling (1999)  
「荻野目洋子&小野正利」名義  
LOVE (2001)  
アルバム  
ティーンズ・ロマンス (1984)  
フリーズアの雨 (1985年3月)  
貝殻テラス (1985年9月)  
ラズベリーの風 (1986年4月)  
ハートビート・エクスプレス (1986)  
ミニ・アルバム  
NON-STOPPER 荻野目洋子“The BEAT”Special (1986)  
初のオリコン第1位獲得アルバム  
246コネクション (1987)  
CD-RIDER (1988)

「NON-STOPPER」に続いて2度目のオリコン第1位獲得

VERGE OF LOVE (1988)

ヴァージ・オブ・ラヴ (1989)

FAIR TENSION (1989)

KNOCK ON MY DOOR (1990)

TRUST Me (1991)

流行歌手 (1992)

NUDIST (1992)

SCANDAL (1994)

chains (1997)

VOICE NOVA (2006)

ユーチューブ等で、7、8曲試聴してみた。やはり、その独特のギターテクニクがいい。流れるようなアウトラインに、さまざまな手法の細かな刻みがはいて、快い。外見からは、予想のつかない、深い奥行きを持っているアーティストである。

(収集プロフィール)

布袋 寅泰 (ほてい ともやす、1962年2月-) は、群馬県高崎市出身の日本のミュージシャン、ギタリスト。

\*88年、アルバム『ギタリズム』でソロ・デビューを果たす。この求道的なスピリットに満ちた硬派ロック・アルバムは、当時としてはめずらしい全編英詞による極めてアーティストィックな作品であった。翌89年には、吉川晃司とのロック・ユニットCOMPLEXを結成し、1stアルバムをリリース。吉川特有の巻き舌歌唱法と、布袋のハード・エッジ・ギターが、ポップ・ミュージックという範疇のなか、ケンカ寸前にまで絡み合うスリリングな仕上がりに。計2枚のアルバムを残し、90年に惜しまれつつ解散。その後、ようやく実質的なソロ・キャリアをスタートさせ、「ビート・エモーション」「スリル」「ポイズン」と、作家性と大衆側に接近したポップ性が見事に同居した楽曲を続々とリリース。ストイックなロック・ミュージシャンであると同時にヒット・メイカーとしての才能も開花させていった。

\*自分の信じるカッコよさに忠実だというのは凄いことですよ。そして基本は豪快だけど、そのギターは実にクレヴァーで繊細で奥が深いのだ。

\*活動25周年のメモリアル盤となるVS(ヴァーサス)アルバム。うなり、弾けまくるギターが名だたる参加アーティストたちの個性と相まって、すさまじい聴きごたえに！ 先行シングル(2)(6)(9)でも予感させためくるめく音世界に、全編を通じて圧倒されるはず。

\*ポップとエキセントリックの「二律背反」で引き合っているような作品ながら、むろん聴きやすくゴージャスなエンタテインメントCDだ。大半は歌メインの曲だが、だからこその艶やかで多彩なギター・プレイもたっぷり。全ドラムは中村達也が担当している。

\*2007年1月に東京・品川のCLUB EXで行なわれたアンプラグド・ライブ。彼の弾くアコースティック・ギターのざらっとした感触がライブ感そのままに伝わってくる。ドラムやピアノのジャズっぽい即興がギターや歌を際立たせる

#### 活動概観

1981年、BOØWYのギタリストとしてデビューし、BOØWYでの活躍でギタリストとしての地位を確立する。BOØWY解散後はソロ活動の他、吉川晃司とのユニット・COMPLEX、他ミュージシャンへの楽曲提供など幅広い活動をしている。また、レコーディングではギターだけでなく、ベース、ドラムス、キーボードも演奏する。ソロ作品の代表曲は『さらば青春の光』、『POISON』、『スリル』など。

また、海外ではHOTEL名義で、イギリス、ドイツなどでアルバムをリリースしている。「最新のHOTELが最高のHOTEL」がモットー。

1981年に氷室京介らと共に暴威 (後に「BOØWY」と改名) というバンドを結成。翌1982年に

リリースしたアルバム『MORAL』にてプロデビューする。バンド時代は自身のスタイル（『8ビート』の『カッティング』など）が確立されていった時期であるといえる。『B・BLUE』、『ONLY YOU』、『MARIONETTE』などその過程においてBOØWYの代表曲。

初期の活動と平行して、演劇型アプローチのロックバンド、AUTO-MOD（他に、高橋まこと、PERSONZの渡邊貢らが在籍）に在籍。

BOØWYでの活動を終えて、氷室京介が1988年7月にソロデビューしたのに続き、半年後の同年10月にソロ1stアルバム『GUITARHYTHM』をリリースし、ソロ活動を開始。藤井丈司・ホッピー神山とのコラボレーションによるギターとコンピュータの融合で歴史に残る斬新なアルバムとして注目された。イギリスにおいてシングルを発表するも注目されることはなく、同年12月に吉川晃司とCOMPLEXを結成し、シングル『BE MY BABY』でデビュー。

COMPLEX休止後は一貫してソロ活動に専念する。ミュージシャンであるだけでなく、音楽プロデューサーとして今井美樹、相川七瀬、TOKIO、藤井フミヤ、JILL（PERSONZ）や江角マキコなどのアーティストに楽曲を提供したり、『新・仁義なき戦い』や『KT』、『キル・ビル』などの映画音楽も手掛ける。また『新・仁義なき戦い』や『サムライ・フィクション』等では俳優としても活躍。その長身と強面を生かし、永瀬正敏とのコマーシャルにも出演。

1996年にはマイケル・ケイメンからのオファーでアトランタオリンピックの開会式に出演。1994年の奈良東大寺でのイベント「AONIYOSHI」をきっかけに交流を深めたケイメンとギターとオーケストラとの融合作品『GUITAR CONCERTO』に参加したり、『THANK YOU & GOOD BYE』のプロデュースをケイメンに依頼した事もあった。

## 人物

プロテスタント系キリスト教主義学校の新島学園高校中退。この中退というのは学校側から髪型を指摘されたことが原因によるものである。

楽曲製作に関しては、作曲を優先（曲先）にする。ギターリフから作ったもの、ベースリフから作ったもの、メロディから作ったもの、リズムパターンから作ったものとバラエティに富んでいる。

## 活動履歴

### 1979年

A'ROCK本選会に入賞し、上京する。その後、氷室京介(当時は狂介)らと共に暴威（後のBOØWY）を結成。

### 1981年

5月11日 新宿ロフトにてBOØWYとして初のライブを行う。以後ここを拠点にライブ活動を開始。

### 1982年

3月21日 BOØWYのギタリストとしてアルバム『MORAL』でデビュー。

### 1988年

4月4日・5日 『“LAST GIGS”』東京ドーム2daysでBOØWYとしての活動を終了。

10月5日 アルバム『GUITARHYTHM』をリリースし、ソロデビュー。

10月26日・11月15日 初のソロライブ『GUITARHYTHM LIVE』全2公演。

12月 吉川晃司とのユニット、COMPLEXを結成。

1989年

1月11日 VHS『GUITARHYTHM』リリース。

4月8日 COMPLEXとしての1stシングル『BE MY BABY』リリース。

1990年

12月12日 マキシシングル『Déjà-Vu』リリース。以後、ソロとして本格的に活動。

1991年

6月29日 シングル『BEAT EMOTION』リリース。

8月6日 『GUITARHYTHM REPRISE』富士急ハイランド。

9月27日 アルバム『GUITARHYTHM II』リリース。

1992年

3月25日 ライブVHS『GUITARHYTHM active tour'91-'92』リリース。

7月22日 シングル『LONELY★WILD』リリース。

1993年

7月28日 シングル『さらば青春の光』リリース。

1994年

3月30日 シングル『サレンダー』リリース。

1995年

1月25日 シングル『POISON』リリース。

10月18日 シングル『スリル』リリース。

1996年

1月24日 シングル『ラストシーン』リリース。

6月4日・5日 デビッド・ボウイのJAPAN TOUR オープニングアクトを務める。5日の公演のアンコールで、デビッド・ボウイと「ALL THE YOUNG DUTES」で競演。

8月4日 マイケル・ケイメンの依頼により、アトランタオリンピックの閉会式のセレモニーにてフロント・ギタリストを務める。

1997年

8月1日 シングル『CHANGE YOURSELF!』リリース。

1998年

1月28日 シングル『THANK YOU & GOOD BYE』リリース。

1999年

5月12日 シングル『NOBODY IS PERFECT』リリース。

2000年

11月25日 映画『新・仁義なき戦い』に豊川悦司とともに主演（日本アカデミー新人賞受賞）、音楽監督も担当。

2009年

2月18日 アルバム『GUITARHYTHM V』リリース。

## 備考

強面とは裏腹の明快な人物で、NHK-FM『ミュージック・スクエア』木曜日分のパーソナリティを務めた（1990年-1993年）際などは、自分の好きな古今東西の音楽（ジャンルはロックに留まらない）を流れるようなトークを合間にはさみつつかけ続けるスタイルで、多くのリスナーを獲得した。またCM出演もイメージ通りのハードなものからどこか自分を茶化しているようなコミカルなものまで様々である。

### オリジナルアルバム

GITARHYTHM (1988年10月5日)

GITARHYTHM II (1991)

GITARHYTHM III (1992)

GITARHYTHM IV (1994)

King & Queen (1996)

SUPERSONIC GENERATION (1998)

fetish (2000)

SCORPIO RISING (2002)

DOBERMAN (2003)

MONSTER DRIVE (2005)

SOUL SESSIONS (2006)

AMBIVALENT (2007)

GITARHYTHM V (2009)

### シングル

DANCING WITH THE MOONLIGHT (イギリスでのみリリース。1989年4月)

Déjà-vu(限定盤) (1990年12月)

BEAT EMOTION (1991)

YOU (1991)

LONELY★WILD (1992)

さらば青春の光 (1993)

サレンダー (1994)

薔薇と雨 (1994)

POISON (1995)

スリル (1995)

ラストシーン (1996)

命は燃やしつくすためのもの (1996)

CHANGE YOURSELF! (1997)

バンビーナ (1999)

LOVE JUNKIE (2000)

### 楽曲提供

今井美樹 Miss You(1994年)、PRIDE(1996年)など多数 作詞・作曲・編曲

藤井フミヤ ハートブレイク(1995年) 作曲・編曲

TOKIO 愛の嵐(1999年) 作詞・作曲

この曲に取り組む、アーティストの多くが、苦しく切ない感じを出そうとしている。

(詞・曲 奥田民生)

僕らは離ればなれたまに会ってたまに会っても話題がない---いつの間にか僕らも 若いつもりが年をとった 暗い話にばかり やたらくわしくなったもんだ---

(収集プロフィール)

ユニコーン (UNICORN) は、日本のロックバンド。1986年に結成し、1993年に解散。2009年に活動再開した。

85年、広島にて結成しその2年後、アルバム『ブーム』にてデビューを飾る。89年の大ヒット曲「大迷惑」を収録した3rdアルバム『服部』より、徐々にその音楽的才能/造詣の深さが顕在化し『ケダモノの嵐』『ヒゲとポイン』にて、さらにその屈強なるアーティスト性に拍車がかかっていく。

奥田のフェイヴァリットである後期ビートルズを意識したサウンド・プロダクツ、シリアスな中にも遊び心を忘れない詞世界、鬼才トッド・ラングレンを思わせる珠玉のメロディ・ライン……。こうして当代随一のポップ・ミュージック集団へと華麗なる変貌をとげていったのだ。しかし、続く『スプリング・マン』制作途中に西川が脱退。アルバム完成後1993年9月に解散を発表。解散から15年後の2009年元旦に奥田、阿部、手島、堀内、川西の5人がオフィシャルサイトで新年の挨拶ムービーで再結成を発表。アルバム『シャンブル』のリリースと全国ツアーを行うことを明らかにした。

#### 概要

1986年に広島県広島市にて結成。1987年メジャーデビュー。初期の音楽プロデューサーは笹路正徳。「バンドブーム」の中心的グループでTHE BLUE HEARTS、THE BOOMと共にバンド御三家とも呼ばれた。またルックスの良さからJUN SKY WALKER(S)と並んで、当時の音楽雑誌でもグラビアページを組まれるバンドであった。バンド名は、イギリスのロックバンドT・レックスのアルバム『ユニコーン』に由来 (T・レックスのファンだった手島の発案による) している。初期の楽曲はいわゆる80年代ヴィジュアル・ロックそのものであったが、中期～後期の作品は独特のくだけた歌詞、良い意味で力の抜けたメロディーとリズムが特徴的なコミカルなバンドへと変化していった。音楽性の違うメンバー全員が作曲をしたり、深夜のバラエティ番組に出演する意外性など、他のバンドにはなかなか出せない独自の味がある。代表曲は『大迷惑』『働く男』『すばらしい日々』など。

1993年9月に解散。解散後はソロや新たなバンドでの活動、他のミュージシャンのプロデュース等、各方面で活躍。

解散から15年後の2009年元旦、奥田、阿部、手島、堀内、川西の5人がそろい新年の挨拶ムービーが特設サイトで公開される。5日後、同サイトで新作の発売とライブツアーを行うことを発表。15年ぶりではあったが、再結成や復活などの発言はなく、スタッフなどは「15年ぶりの仕事始め」と表現するなどして、活動を再開した。マネージメントは、解散前にもマネージャーだった原田

公一（現在、Hit&Run代表）が務める。

\*弾けた縦ノリのビートとドラマティックなメロディが一体となった、個性あふれるサウンドが楽しめる。奥田民生のエネルギッシュなヴォーカルが魅惑的だ。

\*名曲「メイビー・ブルー」をはじめ、パンクやロックをベースにした重厚なサウンドをポップに聴かせるという妙技が堪能できる。

メンバー

川西幸一（かわにし こういち）

バンドリーダー。ドラムス担当。1959年10月一、広島県呉市出身。89年頃から脱退まで、西川幸一の名で活動。

1993年、アルバム「スプリングマン」レコーディング中に、バンドの方向性の相違により脱退。

2009年、ユニコーン再結成発表にてバンドメンバーに復帰。

奥田民生（おくだ たみお）

ボーカル、サイドギター担当。愛称はタミオ。1965年5月一、広島県広島市出身。

手島いさむ（てしま いさむ）

リードギター、ボーカル担当。1963年8月一、愛知県生まれ広島県育ち。

堀内一史（ほりうち かずし）

ベース、ボーカル担当。愛称:EBI(えび)。1965年10月一、広島県広島市出身。

阿部義晴（あべ よしはる）

キーボード、ボーカル担当。愛称は阿部B(あべびー)。1966年7月一、山形県出身。

旧メンバー

向井美音里（むかい みどり、1965～ 、広島県出身）

キーボード担当。

1988年、2度目のツアー終了後、健康上の理由で脱退。1989年、堀内一史と結婚し2児の母となるが、98年に離婚。2002年、音楽業界から離れる。

略歴

1986年

3月 川西が中心となってメンバーを集め、2度の勧誘を経て最後に奥田が加入し「ユニコーン」を結成。

12月 CBSソニーオーディション決勝にて合格。

1987年

3月30日 メンバー上京。

10月21日 1stアルバム『BOOM』でメジャーデビュー。

1988年

1月31日 向井が健康上の理由から脱退。以後のレコーディングとツアーには、阿部義晴がサポートメンバーとして参加。

5月25日 阿部が正式加入。

1989年

4月29日 1stシングル『大迷惑』リリース。

6月1日 3rdアルバム『服部』リリース。

1990年

7月21日 3rdシングル『働く男』リリース。

1991年

10月25日 7thシングル『ヒゲとボイン』リリース。

1993年

1月21日 西川幸一、脱退をファンクラブ号外にて発表。同年2月6日付で正式脱退。

4月21日 9thシングル『すばらしい日々』リリース。

9月21日 ニッポン放送「オールナイトニッポン」にて解散を発表。

解散後

1993年

5月21日 ヒストリービデオ『MOVIE7 THE VERY RUST OF UNICORN VIDEO Vol.2』リリース。

1996年

11月1日 企画シングル『雪が降る町 "more bell mix"』リリース。

1997年

2月21日 未収録のライブ映像を集めた『MOVIE 8 THE ANOTHER SIDE OF LIVE』リリース。同時にクリップ集のMOVIE「2 1/2」「5 1/2」を紙ケースにより再リリース。

1999年

1月30日 SONY企画ベスト『UNICORN STAR BOX』リリース。

2000年

7月5日 『MOVIE6』、『MOVIE7』DVDで再発。

2003年

3月19日 ライヴビデオ『MOVIE2』から『MOVIE8』DVDで再発。

2005年

映画『ヒナゴン』の主題歌に「すばらしい日々」が採用される。

活動再開

2007年

7月頃、ユニコーン時代のスタッフ通称:Jメンの結婚式で川西を除く4人が余興で数曲演奏、この時に各メンバーの成長と皆が現役であることに感化された阿部が年末、川西に5人での新曲作りをもちかける。

2008年

1月 新年会にて5人が久々に集結。堀内と手島はこのとき初めて再結成をもちかけられ快諾。その数ヶ月後にデモテープを持ち寄って鑑賞会が行われた。

5月 レコーディング開始。メンバー各ソロ活動をはさみながら、極秘裏に進められた。

2009年

元旦 特設サイトにて挨拶ムービー公開。メルマガ登録者へ年賀状が届く。

1月5日 シングル、アルバム、全国ツアーの概要が発表される。

1月30日 『ミュージックステーション』に16年ぶりのテレビ出演。新曲「WAO!」と「すばらしい日々」をオリジナルメンバーで初披露。

2月4日 10thシングル『WAO!』リリース。

2月18日 7thアルバム『シャンブル』リリース。

#### シングル

大迷惑（1989年4月）

デーゲーム（1989）（「坂上二郎とユニコーン」名義）

働く男（1990）

命果てるまで（1990）

スターな男（1991）

ブルース（1991）

ヒゲとボイン（1991）

雪が降る町（1992）

すばらしい日々（1993、マキシシングルとして再発：2006年3月）

雪が降る町 ~more bell mix~（1996）

WAO!（2009）

#### オリジナルアルバム

BOOM（1987年10月）

PANIC ATTACK（1988）

服部（1989）

ケダモノの嵐（1990）

おどる亀ヤプシ（1990）

ハヴァナイスデー（1990）

ヒゲとボイン（1991）

SPRINGMAN（1993）

シャンブル（2009）

#### 結成の経緯

手島はライブハウスでバイトしつつ多数のバンドを掛け持ちし、本気でメジャーに出る事を志していた。

バンドを止めサラリーマンとなった川西に奥田からレディのサポートドラマーを頼まれ参加。バンド熱が戻った川西は新たなバンドを結成すべく手島に声をかけたが「サラリーマンと組む気は無い」と言われ脱サラし勧誘成功。

手島が目をつけていたベーシスト堀内を勧誘。実は川西の後輩だった。

レディを解散した奥田は、友人のベーシストと新たなバンドを作ることを約束していた。そのため、川西からの最初のオファーを断ったのだが、そのベーシストが勝手に別のバンドをやり始

めたため、二度目のオファーでユニコーンへの加入を決意した。

#### デビュー後

アルバム『服部』発売当時、全国の服部さんをライブに招待する企画があり、日本武道館の客席に「服部様ご一行」と垂れ幕がかかった一角を設け服部姓のファンが集結した。

阿部はライブツアー『嵐の獣』の公演中にカンフーのパフォーマンスに失敗し脱臼。すぐさま病院に運ばれ、公演は途中で中止となる。振替公演では中止になった後の曲目から演奏された。

バンドブーム期に数あるバンドの中でも独特の雰囲気を持っていた為、氷室京介をして「最近のバンドで唯一いいと思うのはユニコーンだけ」と言わしめた。

#### 解散経緯

アルバム『スプリングマン』レコーディング中にリーダーの川西が脱退。サポートドラマーを迎えツアーに出るもその後のミーティングで「もうやることがない」、「ネタぎれ」などの理由で解散が決定。解散ライブは「相応しい曲がない」との理由で行わず、オールナイトニッポンで演奏した「すばらしい日々」が最後の演奏となった。

#### 解散後

川西は2001年1月25日、長男とともに消火活動と人命救助を行い、警察より表彰されている。その後のロックバンド、ミュージシャンに与えた影響は大きく、ゆずや、小淵健太郎（コブクロ）、藤巻亮太（レミオロメン）、SEAMO、志村正彦（フジファブリック）、キンモクセイ、マキシマムザ亮君（マキシマムザホルモン）、POLYSICS、髭（HiGE）等の近年活躍しているミュージシャンが、その影響を公言している。

#### 再始動

最初にメンバーが集まった新年会の際、手島は他のメンバーよりも遅れてやってきた。手島が来たときにはすでに再始動が決定していたという。なお、再始動については唯一手島のみ「いつかやると思って準備していた」と積極的だったが、川西・堀内は「再始動はないと思ってた」との見解を示し、奥田は「やる、やらないという考え自体全くなかった」との見解だった。

## 華の平成名歌200 第 10 巻 : 旅立ちの日に 芹洋子・トワ・エ・モワ・ダークダックス・外川陽子・SMAP・井上あずみ・秋川雅史ほか

すでに、公的な有名楽曲となっている。作られた経緯もドラマがあるし。何より、楽曲の仕上がりが、素晴らしい。多くのアーティストが歌っているが、私は秋川雅史が気に入っている。荘重な歌唱と雰囲気、この曲の理念に合っている、と思う。

(詞・小嶋登 曲・坂本浩美)

白い光の中に 山なみは萌えて 遥かな空の果てまでも 君は飛び立つ---いま 別れのとき 飛び立とう 未来信じて 弾む若い力---

(収集プロフィール)

旅立ちの日に(たびだちのひに)は1991年(原曲は1991年に作られ同年に初演)、埼玉県秩父市立影森中学校の教員によって作られた合唱曲・卒業ソング。作詞は当時の校長小嶋登。作曲は音楽教諭の坂本浩美(現・高橋浩美)。編曲は多くの合唱曲を手掛けている松井孝夫。今では、原曲の変口長調の他にハ長調など、たくさんの調で歌われている。

『仰げば尊し』や『巣立ちの歌』、『贈る言葉』などから代わり、小中高の卒業式において全国で最も広く歌われている卒業式の歌となった。その影響力の強さからテレビ番組(情報ライブEZ!TV)でも取り上げられ、2007年にはSMAPがCM曲として歌った。ただし、CDとしては発売されず、音楽配信のみとなっている。

### 曲の誕生について

当時校長だった小嶋(作詞)は、荒れていた学校を矯正して歌声の響く学校にすることを目指し、合唱の機会を増やした。最初こそ生徒は抵抗したが、音楽科教諭の坂本(現・高橋)と共に、粘り強く努力を続けた結果、歌う楽しさによって、学校は明るくなった。そしてその集大成として『旅立ちの日に』が生まれた。

「歌声の響く学校」を目指して3年目、坂本は「卒業する生徒たちのために、何か記念になる、世界にひとつしかないものを残したい」との思いから、作詞を小嶋校長に依頼した。校長の小嶋は自らが退職するその年に歌詞を書いた。坂本はその歌詞を受け取ると胸にかかえるようにして音楽室に向かい、15分後にはメロディーが出来上がっていた。1991年2月下旬のことであった。最初はたった一度きり、「3年生を送る会」で教職員たちから卒業生に向けて歌うための、サプライズ曲のはずであった。

しかしその後、この曲は歌い継がれ、しばらくは、その学校だけの合唱曲であったが、まわりの小中学校でも使われだしたことで、現在では全国の学校で歌われているにいたった。今までの卒業式の歌とは違い、親しみやすい歌詞が共感されている。当初は先生方が歌ったが、その翌年からは生徒が歌うようになり現在に至る。松井編曲のものには、混声三部版、混声四部版、女声三部版、同声二部版がある。

### 備考

秩父市は功績を称え、作詞作曲した2人に「ふるさと文化賞」を贈った。また秩父市では毎日午前12時と午後5時に市内の防災放送で音楽を鳴らしているが、2009年3月1日より12時の曲として

この曲が採用されている。

原曲および混声三部版・混声四部版は変口長調。同声二部版は変口長調またはハ長調、女声三部版はハ長調である。混声三部版・同声二部版はサビ以外で各パートの動きが分かれるところはないが、混声四部版・女声三部版ではサビ以外にも各パートの動きが分かれるところがある。また、混声四部版のサビには「オー」のオブリガートもある。

\* 芹洋子が2005年3月24日に発売した同名のシングルにカバーしたものが収録されている。こちらはイ長調である。

\* フォーク・デュオの「トワ・エ・モワ」が2006年1月18日に発売したアルバムに収録。

フジテレビ系列情報番組『情報ライブEZ!TV』で取り上げられ、反響を呼びDVDブック化された。

『EZ!TV』で取り上げられたあと、2006年3月、日本テレビ系列情報番組『THE・サンデー』などでも取り上げられた。

\* ダークダックスが2006年10月に発売したアルバム「遼遠（りょうえん）・謡遥（ようよう）・半世紀」にカバーしたものが収録されており、以降リサイタルでのレパートリーとしている。

\* 外川陽子が2007年2月14日に発売したシングル「Together」にカバーしたものが収録されている。調はト長調である。

2007年3月15日に日本テレビ系列情報番組『ズームイン!!SUPER』のコーナー「バードウォッチング」で認知度を調べた結果95%であった。ちなみにその日は影森中学校の卒業式であった。

2007年4月1日放送の『笑っていいとも!増刊号』で放送された月曜日の放送終了後のトークで香取慎吾が歌い始めると一緒に歌う客もいるほど広く浸透している。

\* 井上あずみが2007年12月19日に発売したアルバム「出会いと旅立ちの歌」でカバー。コンサートで歌うこともある。

\* MARIAが2008年2月6日にリリースした『ゆらり桜空...』のカップリング曲としてカバー。編曲は明石昌夫で、原曲のイメージは壊さない程度にややロック調になっている。

\* 2008年3月5日にredballoonの通算5枚目のシングルとしてリリースされた。

\* 中国人女性歌手のジェイド・インが2008年2月発売のインディーズ・デビューアルバム『七彩音色～なないろねいろ～Prologue』でカバー。

2008年3月放送の『SMAP×SMAP08春の豪華スペシャル!!!』で、SMAPが子どもたちの混声合唱団とともに歌った。

\* 秋川雅史が2008年に発売したアルバム『千の風になって(秋川雅史)～一期一会～』でカバー。

\* 中孝介が2008年に発売した『春』のカップリング曲としてカバー。

\* 2009年には東京ディズニーシーのCMソングとして使われている。

## 参考

卒業式ソング取材班著 『「旅立ちの日に」の奇蹟』 ダイヤモンド社 2005年2月 ISBN 4478950512

広く知られているのは、この曲だけだが、中村の持つ音楽性は、もっと評価されていいだろう。何かを拒むと、次からは拒否されてしまう、と言った近頃の風潮。中村には、その側面もあるだろう。力強いパワーは、元気のない2000年代を、活気づけてくれそうな気がする。

(詞・曲 高橋研)

ドライバース・シートまで横なぐりの雨 ワイパーきかない--そんなあいつのささやきにさえ う  
なずけない心がさみしいだけ---

(収集プロフィール)

中村あゆみ(なかむら あゆみ、1966～)は、福岡県出身のロックミュージシャン。明治大学附属中野高校定時制中退。二度の結婚歴があるが、現在は一児の母で、シングルマザー。一時、芸名を晏由美に変更していた。

\*活動を再開し精力的にライブを行なっている中村あゆみ。あのハスキー・ヴォイスはまったく衰えをみせず、ロック・スピリッツあふれる歌声を聴かせるが、伊勢正三との共作もありフォークっぽい曲が多いのが今回の特徴。

\*「翼の折れたエンジェル」で一世を風靡した中村あゆみが2004年のイベント出演、ロックンロールのノリはそのまま、ハスキー・ヴォイスに磨きがかかり大人のロックに仕上がっている。

\*運動部の選手を主人公にした「応援団長」そのものの曲、彼女の健康イメージから背伸びした「大人の」ラヴ・ソングが同居。

\*シンセサイザー類を含めた新しい方法論を導入し、バラエティに意欲的に取り組んでいる。曲によってはヴォーカルの不安もあるが、新しい扉を自らの手で、という試みは買える。

たとえ自作曲でなくとも、実に自然に自分のものとして体現できる。そんな作品に恵まれてきた彼女、プロデューサーでもある高橋研に続いて、本作ではエコーズの辻仁成(当時)が詞曲を提供。内省的な(ところもある)もうひとつの顔が見えてくるアルバム。

\*新たな挑戦という部分もありそう。いわゆる8ビートのストレートなバンド・サウンドだけではなく、けっこう練り込まれていてアダルトな、今までの彼女のイメージにはないような曲もあったり。ターニング・ポイントなのかな。

歌唱の幅は相変わらずあまりないけど、「肝っ玉おねえ」ぶりがそれを補って余りあるあゆみサン。前作に続く全曲自作詞で、ヴォーカルのノリにも若干の前進が認められる。

\*ひと世代にだけ向けた刃のように聴こえる。それが良くも悪くも彼女の持ち味だろう。マニュアルに従うことにクソくらえすることがパワーの元になっているような彼女なのに、自身がいちばん変わることをしないように思えて止まない。歌詞の改善を頼む。

\*かき鳴らされるアコースティック・ギターとバレーボールの試合と完璧にリンクした歌詞がガッチリとひとつになった楽曲に、美しく年輪を重ねた中村の声が圧倒的な説得力を与えている。

\*ハスキー・ヴォイス・クイーンの中村あゆみもカバーに挑戦。カバーは選曲とアレンジがキモだが、映画やドラマの主題歌が多いのが特徴。しっとりとしたアレンジが多く、どの曲も中村あゆみの歌になっている。

## 略歴

1984年9月5日に高橋研プロデュースによるシングル「MIDNIGHT KIDS」でデビュー。1985年4月21日にリリースした3枚目のシングル「翼の折れたエンジェル」が日清カップヌードルのCMに起用されて大ヒットを記録する。

1985年8月31日に日比谷野外音楽堂でREBECCAとジョイントライブをしたのをきっかけに毎年8月31日は「AYUMIDAY」とし、日本武道館などでスペシャルライブを行っていた。

代表曲には、「翼の折れたエンジェル」のほかに、翌1986年「ちょっとやそっとじゃCAN'T GET LOVE」、1989年「ともだち」などがある。その他、プロレスラー・鈴木みのるに入場曲「風になれ」を提供している。

1987年には育て親である高橋研の元を離れ、自作曲を作るようになる。

1994年以降人気は低迷し、レコード会社もハミングバードレコードからポリドール、ポニーキャニオンへと次々と移籍するようになり、リリースも途絶えメディアから姿を消してしまう。

2004年に加山雄三のイベントに出たことがきっかけで歌手活動を再開。

2008年7月23日にファースト・カバーアルバム『VOICE』がソニー・ミュージックダイレクトからリリースされる。

2008年10月22日キリン ストロングセブンCM曲に「翼の折れたエンジェル ストロングバージョン」が起用される。

2008年11月23日「翼の折れたエンジェル ストロングバージョン」を収録した【VOICE plus】がリリース。

### サポートメンバー

鎌田ジョージ：ギター

石井治朗：ベース

富岡義広：ドラム

杉山圭一：キーボード

### AYUMIDAY

1985年8月31日に日比谷野外音楽堂でREBECCAとジョイントライブをしたのをきっかけに毎年8月31日は「AYUMIDAY」とし、日本武道館などでスペシャルライブを行っていた。

1985年 日比谷野外音楽堂

1986年 神宮球場

2006年 厚木サンダースネーク（9月2日）

### シングル

Midnight Kids／Million Nights （1984.09）～TBS系ドラマ「やさしい闘魚たち」主題歌

悲しみのセンセーション／ぼくのスノビズム （1984.12.16）～ビタワンCMソング

翼の折れたエンジェル／100粒の涙 （1985）～日清食品カップヌードルCMソング

A BOY／涙のTwistin' Heart （1985）～12インチ限定シングル

真夜中にラナウェイ／朝が来るまでRock'n Roll （1986）

ちょっとやそっとじゃCAN'T GET LOVE／Three Time Looser （1986）～カネボウ'86夏キャ

## ンペーンCMソング

- ONE HEART／SAVE ME (1986)
- Rolling Age／Wild Child Boundのテーマ (1987)
- Still／R&BにWoo-NASARETE (1987)
- Precious friend／Take Me To Kids Nights (1988)
- Only You／フェンスの向こうへ (1988)
- ともだち／ボクのガールフレンド (1989)
- メインストリート／19 BLUES (1989) ～'89カナダドライジンジャーエールCMソング
- LIKE A FIRE／長い夜(INSTRUMENTAL) (1990)
- It's All right／パラダイス (1990)
- BROTHER／We Will Get Together (1990) ～MIZUNOスーパースターCMソング
- HERO／LIVE LIVE LIVE (1991.03.27) ～MIZUNOスーパースターCMソング
- JinJinJin／夜明けのLove Song for You (1992.09.23) ～MIZUNOメガヘルツCMソング
- LADY BOOGIE／Tears of Diamonds (1993)
- MIDNIGHT HALLELUJAH／やせっぽっちのジョニーE.(Live Version)』 (1993)
- 空飛ぶ魔法のジュータン／ナチュラルリスト (1994)
- Shining Love／I Can't Get You Off My Mind (1994)
- キライになれない／雨の日の花のように (1995) ～アニメ「魔法騎士レイアース」主題歌
- 風になれ (1995.09.01) ～パンクラス鈴木みのる選手入場テーマ曲
- エデン／ジェットコースター (1996) ～第一製薬CMソング
- Venus／螺旋 (1997)
- I'm NUDE／Day&Tears (1998) ～IBCCMソング
- 風になれ／where is my Hero (2004) ～パンクラス鈴木みのる選手入場テーマ曲
- Sa-ah !／Glory way (2005)

## アルバム

- Midnight Kids (1984年10月)
- Be True (1985)
- VOICE plus (2008)

めざす方向や、声質も作り出す世界も、やはり大塚博堂に近いテイストのある歌手である。実際に、博堂の曲をかなりカバーしている。ただ、原に、博堂や永井龍雲、鈴木一平のような頑固な一途さが薄い分、より広い歌の世界への柔軟性があるようだ。それが歌い手にとって、いい事なのかどうかは即断はできないが。「日暮れたら」などの歌謡曲に近い歌を唄っても、十分な聞きごたえがある。「みぞれ雨」「さよならを言わせて」のようなバラード風の曲が、声質に合っているようだ。この曲は、伴奏がエキセントリックで面白く、歌としてもかなり深いものがある佳曲である。

(詞・鈴木綾乃 曲・堀江童子)

感じる心 捨ててしまえたら どんなに楽に なれるでしょう 離れていった 心の透き間  
溢れる涙が 押し寄せる 時間が流れても 何にも変わらぬ 子供のままで いさせてください---

(収集プロフィール)

原大輔(はら だいすけ、1954～ )は、千葉県八日市場市出身の歌手。

1976年フォークデュオ、レイラとしてデビュー。その後、江夏一樹、高梨雅樹と芸名を変える。高梨雅樹時代に、テレビアニメ「新竹取物語 1000年女王」主題歌「コスモスドリーム」を歌う。1983年、原大輔と名を変えて、「秋冬」(中山丈二の遺作、7名による競作)をリリース。その後は、中山の友人である作曲家の堀江童子とともに仕事をしていた。また、レイラ時代にジョイントライブをした関係で、大塚博堂にも造詣が深く、13回忌追悼歌「総天然色の日々」も歌ったり、メモリアルイベントに出演することも多い。

\*「原大輔全曲集」大人の歌謡曲。原はその大人の鑑賞に耐え得るだけの歌唱力をきちんと備えている。感情の抑制がほどよく効いて、とくに、ピアノシモでの語りかけるようなテクニックは素晴らしい。歌詞の読みも深く、それだけ表情が細かく豊かになっている。

\*都会暮らしの寂しい心情を歌った作品が揃った全曲集。大塚博堂や谷村新司のような似たタイプの人のカバーまで、選び抜かれた楽曲。美声とていねいな歌い方は好感もてる。

\*「恋おんな」彼のヴェルベット・ヴォイスと歌唱力が堪能できる、女心を切々と歌った哀愁ソング。

江夏一樹

熱くなれ～ヴー・レー・ヴー～(ABBA「VOULEZ-VOUS」のカバー)

遠い明日(映画「遠い明日」主題歌)

高梨雅樹

コスモスドリーム

空から星が降りてくる(子鹿物語)

原大輔

シングル

秋冬/恋唄遊び

恋暮色

流されて

終止符

どうぞお元気で/輝きを共に連れて

戯れに/黄昏

晩秋

つらいけど

めぐり逢い紡いで

TIMELESS LOVE～時を超えて～

わが妻よ/総天然色の日々

はじめて都会に来た日のように

すすきの午前0時

恋おんな

みぞれ雨

ナイトパブ

明日に向かって/お願いこのまま（原大輔&ハローブラザーズ）

ジグソーパズルの絵のように

お酒ください/北の町札幌に雪が舞う

Last Fright～with My Dream～

夢見る頃を過ぎても（with岡本侑子）

秋韻

男と女の部屋/望郷

アルバム

秋冬

恋暮色

つらいけど

原大輔全曲集

旅のはじまり

あの日々に帰りたい

山下の曲を聴いていると、なぜだかエッコラエッコラ、という感じに囚われる。歌唱のクセなのだろうか。都会的で軽快なメロディーの中に、このエッコラの調子が現れ、また同化して行く。それと彼女の曲は、エンディングが来ても、終らないまま、いつまでも続いて行く感じがする。この感じは不思議で、ほかにあまり例を見ない。この点だけでも、山下は稀有なアーティストである。

(作詞：山下久美子 / 作曲：布袋寅泰)

tonight 星の降る夜に 願い事がただひとつだけ叶うなら---ソーダ水の中 はじけて飛ぶ恋心 受け取って下さい 七色の夢---

(ウィキペディアより)

山下 久美子 (やました くみこ、1959～ ) は、日本の歌手。

大分県別府市出身。1980年にシングル『バスルームから愛をこめて』でデビュー。その後、『赤道小町ドキッ』や『Tonight (星の降る夜に)』などのヒット曲で知られる。

渡辺プロダクションが、若者のニューミュージック指向を高めようと立ち上げたNON STOPプロジェクトの一員である (他のメンバーは、大塚博堂・太田裕美・桑江知子・ルイス・ララ)。1985年に当時BOØWYのギタリストであった布袋寅泰と結婚。布袋の作曲した楽曲を多数リリースするが、1997年に離婚。

2000年にはシングルマザーとして双子の姉妹を出産した。

80年代には、その熱狂的なパフォーマンスにより“総立ちの女王”なる異名を取った。

\*80年に「バスルームから愛をこめて」でデビュー。精力的なライブ活動の結果、82年の「赤道小町ドキッ」がヒットを記録し、人気に火が点く。ハスキー&キュートなヴォーカルでロック色の濃いポップスを歌う彼女は、当時のミュージック・シーンにおいて非常に新鮮に映った。その後も、「こっちをお向きよソフィア」(83年)、「瞳いっぱい涙」(85年)などをスマッシュ・ヒットさせ、やんちゃ娘たちの代弁者的存在になる。また、自作自演のアーティスト全盛の時代に、彼女はあえて作家の曲をチョイス—細野晴臣/大沢誉志幸/康珍化ら錚々たる面子が作品を提供した。その辺のスタンスが、ロック・シンガーというよりポップ・シンガーと評された所以だろう。

\*80年代後半ともなると、当時の夫であった布袋寅泰と二人三脚での活動が話題を呼び、90年代には海外レコーディングやセルフ・プロデュースなど新たなアプローチを展開してみせる。そして00年、デビュー20周年を迎えた彼女は、佐野元春や桑田佳祐らをゲストを迎え、セルフ・カバー・ベスト・アルバム『THE HEARTS』を発表。そこには、豪華なゲスト陣をバックに、歌うことを心の底から楽しんでいる彼女がいる。

25周年ベスト・アルバム。80年の懐かしいデビュー曲「バスルームから愛をこめて」や「赤道小町ドキッ」「ビタミン」ほか、レアな掘り出し曲まで全16曲をタップリと収録。パワーあふれる山下久美子のキュートな魅力がたっぷり。黄金のレーベルも豪華絢爛。

作家・篠田節子とのコラボレーションによる「SHORT STORY CD BOOK」仕様。大半が

自作となる収録曲は、しっかりとしたビートで展開されつつもせつなさをたたえ、物語と融合した独特の世界観を味わわせる。

\*よしもとばななの書き下ろし短編小説が入り、山下本人がその朗読をしてさらに歌う。その絶妙なシンクロがまるで、ショート・ストーリーの舞台を見るようだ。また、バート・バカラックが日本人アーティストへ初めて書き下ろした「PAINT IT BLUE」も話題。

\*全体に成熟したユツタリ感が流れていて、いい雰囲気仕上った。グイグイ押してくるのではなく、聴き手を包み込むような空気が感じられ、まさに「今まで生きた日々が助走」だったことを実感している本人の気持ちが伝わってくる。

プログラムされた攻撃的なビートなど、新機軸もあるが、歌の表情は達観したようにおだやか。歌詞はすべてラブ・ソングで、リアルすぎる別れの歌や、新しい希望の歌など、聴布袋寅泰の手を離れ、静かにたゆとう水の如きゆったりと落ち着いたサウンドに。当時の彼女の年齢ならでは、という素晴らしい出来に仕上がっている。

彼女の主に初期の代表曲が収録された、ベスト盤。またそれは彼女がヒット曲を連発していた時期にもあたるので、それこそ懐かしいヒット・ナンバーのオン・パレード。「胸キュン」「総立ち」といった言葉で語られた、彼女のピチピチした歌声が堪能できる。

\*布袋寅泰とサイモン・ホールにプロデュースされたアルバム。作品ごとにどンドンラクにのびのびと唄うようになっている彼女の、唄う楽しさに満ちている。オトナになることはステキなことだという気になる。迷っているコトのある女性の音楽療法にも。

\*ほとんどがロンドンで録音され、シャープなリズムと彼のギターが活躍するビートのある曲やバラードなど多彩なサウンドが楽しめる。それでも女の子らしい詞と歌がポップだ。

ロックンロールをベースにしながら、50年代のポピュラー・サウンドの手法をとり入れたりして、バラエティーに富んだアルバム。山下久美子のキュートな歌声は心地良いまでにドリーミーな雰囲気をつくっている。

山下久美子のコロムビアにおける10年間の軌跡は80年代ジャパニーズポップスの軌跡でもある。キュートなポップス・シンガーとして[1](1)でデビューした後、ニューウェイヴやエスニックといったケレン味ある世界とオーソドックスな世界との行ったり来たり。新しいパワーポップの世界をダンナ(布袋寅泰)と一緒につかんだゾーと。個人的には近田春夫+筒美京平の「とりあえずニューヨーク」が81年らしくてスキ。

\*ルイードから渋谷公会堂へとステップアップした時代の思い出が優しく蘇ってきた(歌詞を断片的に挿入してる?)。といっても、歌唱法は、あの頃から比較すると基本を守りつつもサラっとしてる。内助の功を音楽で表現した深みのある仕上げ。

バラード・コレクション。学園祭の女王、総立ちのクミコなどと呼ばれていた彼女だけど、レコードはオールディーズっぽいポップスの香りがプンプンしていた。

## 略歴

1980年 - 日本コロムビアよりシングル『バスルームから愛をこめて』でデビュー。

1982年 - シングル『赤道小町ドキッ』がヒットし、過激なライブパフォーマンスにより「総立ちの久美子」の異名を得る。

1985年 - BOØWYのギタリストだった布袋寅泰と結婚。

1996年 - TBS系のテレビドラマ・その気になるまでで、離婚歴のあるキャリアウーマン、馬場千春役を熱演。（翌年の離婚という経緯を考えると、実に含蓄に富むストーリー、役柄だった）

1997年 - 布袋寅泰と離婚。元々、山下の友人だった今井美樹と布袋が不倫したのが原因と言われている（フジテレビ系の『笑っていいとも!』にて山下は今井を友達として紹介している）。なお、布袋は今井と1999年に再婚した。

2000年 - シングルマザーとして双子の姉妹を出産した。

2006年 - リサーチカフェに出演（Yahoo!動画でも配信）。

#### シングル

バスルームから愛をこめて（1980）

ワンダフルcha-cha（1980）

トヨタ・ターセル/コルサCMソング

恋のミッドナイトD.J.（1981年2月1日）

とりあえずニューヨーク（1981）

雨の日は家にいて（1981）

赤道小町ドキッ（1982）※2006年8月 夏目ナナ、2008年8月6日 中川翔子によりカバー  
マラソン恋女 [MARATHON WOMAN]（1982）

こっちをお向きよソフィア（1983）

LOVIN' YOU（1983）

モーニング・ベルならしてよ（1984）

瞳いっぱい涙（1985）

星になった嘘（1985）

FLIP FLOP & FLY（1986）

BOY-FRIEND（1986）

GIRL-FRIEND（1986年7月21日）

SINGLE（1986年10月1日）

REINCARNATION（1987年3月1日）

リリース（1987年7月1日）

MELODY（1987年10月21日）

微笑みのその前で（1988年5月21日）

Tonight（星の降る夜に）（1991年3月6日）

IBYE BYE（1992年5月27日）

真夜中のルーレット（1992年8月12日）

いっぱいキスしよう（1993年5月19日）

ごめんね太陽（1993）

BABY DON'T CRY（1993）

宝石（1994）

DRIVE ME CRAZY (1994)  
永遠の夏 (1995)  
CLOSE YOUR EYES (1995)  
手のひらの星屑 (1996)  
TOKYO FANTASIA (1996)  
ベジタリアン (1997)  
FOUR SEASONS (1998)  
ワタシノナミダ (1998)  
奇跡の恋 (1999)  
恋が死ぬ / ビタミン (2002)  
アルバム  
バスルームから愛をこめて (1980)  
ダンシン・イン・ザ・キッチン (1980)  
雨の日は家において (1981)  
抱きしめてオンリィ・ユー (1982)  
Baby Baby (1982)  
LIVE (ライヴ) (1983)  
Sophia (1983年7月21日)  
SWEETS (1983年12月16日)  
re-SWEETS (1983年12月16日)  
アニマ・アナムス (1984)  
And Sophia's back (1985)  
BLONDE (1985年11月21日)  
1986 (1986年10月21日)  
POP (1987年7月21日)  
ACT RESS (1987年12月1日)  
Baby alone (1988年6月21日)  
Three into One (1988年12月1日)  
Stop Stop Rock'n Roll (1989年2月1日)  
JOY FOR U (1991年4月19日)  
LIVE JOY FOR U (1991年11月6日)  
Sleeping Gypsy (1992年6月24日)  
Cosmic Love (1992年9月30日)  
CENTURY LOVERS (1993年8月30日)  
ULTRA POP 1 (1994年1月26日)  
ULTRA POP Limited LIVE (1994年1月26日)  
LOVE AND HATE (1994年10月25日)

LOVE AND HATE LIVE at BUDOKAN (1995)

SUCCESS MOON (1995)

SMILE (1997)

SING A SONG (1998)

LOVE ROCK (1999)

THE HEARTS (2000)

SOULS (2001)

ある愛の詩 (2002)

歌う女 歌わない女 (2003)

壁のない世界 (2004)

ちっぽけなすべて (2004)

25th Anniversary Best & Premium Songs (2004)

Duets (2005)

テレビドラマ

その気になるまで (1996年、TBS) 馬場千春 役 (レギュラー出演)

書籍

ある愛の詩 (2002年、幻冬舎)

ちいさいおはなし (2005年、スタジオワープ)

てんしのたんじょう (2005年、スタジオワープ)

## 児島 未散：ジブシー

中東やヨーロッパを想わせる歌詞の内容に、ソフトなラテン風の曲調。実は、雑誌の写真からの連想なのだが。そこに、ヒロインの想いが、自己投影されていく。別れを、ポジティブに乗り越えるタイプの人もあるし、この曲のヒロインのように、街の情景や事象、何かへの自己投影に、癒しを求めていく人もいる。私は、ポジティブに向かおうとしながらも、結局は、ズルズルとこのヒロインのように、長い惑いの日々を送ることになってしまう。その揺れ動く心に、この唄は、深く入り込んでくるのだ。

(詞・魚住勉 曲・馬飼野康二)

昨日から降りつづく雨の日は読みかけのページから---謎めいた女と 男達がふりかえるよ だれよりも寂しい-----

(収集プロフィール)

児島 未散（こじま みちる、1967年4月～ ）は、歌手、女優。父は俳優の宝田明、母は1959年度のミス・ユニバース優勝の児島明子である。東京都出身。

成城大学卒業後、1985年7月「セプテンバー物語」でデビュー。オリジナルビデオ「卒業プルーフ」出演でも話題。1991年に発売したシングル「ジブシー」が浅野温子出演のシャンプーのCMソングに起用されて大ヒットした。またTBS系ドラマ『3年B組金八先生』第4シリーズにも教師役で出演した。

夏の終わりの浜辺を裸足でかける女のこ、なイメージのあった児島未散。村田和人や松原正樹の曲は、夏の陽差しのなごりを感じさせる響きと潮風の香があります。彼女のヴォーカルに残る少女の香気がキュートさを増しています。

松本隆&林哲司の強力コンビの手による80年代カレッジポップスに乗った、線は細くとも澄んだ声が魅力的。

小粋に洒落てヨーロッパ気分のラヴ・ソングを。そんな背伸びした女のこの姿を歌っている。女性ファッション誌のグラビアをながめつつ見る夢の物語を展開しながら、当時22歳の彼女に残るあどけなさをうまく出しているし、女のこのしたたかさも感じさせる。

彼女の歌に出てくる主人公たちはどんなにつらいことがあっても「希望」を持ち続けようとする。

よく通る澄んだ声が魅力の未散。まだあどけないヴォーカルを存分に楽しめる初期の作品集。なぜか、晩夏の歌が多く、海の登場率も高い。ユーミン的恋愛(小田和正の撮る映画的世界でもよい)に憧れるお嬢さん方は必聴の1枚。

彼女は恋が始まりそうなとき、終わりそうなときに聴きたくなる人かもしれない。でも例えば同じ条件の尾崎亜慶や杏里になれないのはなぜ。サウンド感のおしゃれを磨くより着眼点を変えて、当たり障りのあること、をしてみたらどう？

浅野温子出演のシャンプーのCMで「謎めいた女と～」と歌っているのはこの人だったのね。全体のトーンがまとまっていて、1編の恋愛小説を読んだような気持ちになったぞ。しかし、この人は言葉が明瞭なのが気持ちいいですね。爽やかです。

\*現在は渡米して一時的に引退している。

#### アルバム

Best Friend (1985年9月5日)

MICHILLE (1986年9月21日) (児島未知瑠名義)

KEY OF DREAMS (1989年12月5日)

ジプシー (1991年4月21日) ※児島未散最大のヒット曲

floraison (1992年3月25日)

喜びの朝のために (1992年10月21日)

Everlasting -結婚- (1993年5月25日)

デジャヴ (1994年12月21日)

#### シングル

夢の手前で (1989年8月5日・20349)

悲しくなんて (1989年12月5日・20354)

ジプシー (1990年12月21日・VPDB-20395)

一歩ずつの季節 (1992年1月29日・PIDL-1045)

新しい一日のために (1992年10月)

恋愛映画は終わり (1993年2月)

めまい (1993年5月)

Heaven (1993年12月21日・PIDL-1089)

そばにいられたなら (1994年11月10日・PIDL-1113)

ひとりじゃもういられない (1995年11月22日・TMDL-2)

この曲は、誰が作ったのかが知らなくても、曲を聴いて、中島みゆきの特徴がよく出ているので、分かる人は多いだろう。私はこの曲の、全体に乾いた感じと、軽く後戻りするような感じのリズムと、トリッキーなメロディーが好きである。

(詞・曲 中島みゆき)

シーツの波間にあなたを探していた---解き放して私を早く 縛らないで私を早く あなたなしで生きる未来の 淋しさから自由にしてよ なんにもわかっていない人ね---

(収集プロフィール)

工藤 静香(くどう しずか、1970～ )は、日本の歌手、タレント。元おニャン子クラブのメンバー。夫は木村拓哉(SMAP)。

東京都西多摩郡羽村町(現・羽村市)出身。日本音楽高等学校中退。

\*元セブンティーン・クラブ/おニャン子クラブ会員No.38/生稲晃子、斎藤満喜子との“うしろ髪ひかれ隊”/二科展連続入選など、デビューから現在まで何かと話題の絶えない、工藤静香。

ハの字眉毛の困った表情と、逆二等辺三角形のトンガリ・フェイスは、なぜだかつツパリ君たちに人気が高かった。『夕焼けニャンニャン』最終回に「禁断のテレわからなくてもパシー」でソロ・デビューした彼女は、「MUGO・ん...色っぽい」でブレイク。髪を茶色くブリーチし、メイクを濃くし、とツパリ人気に迎合したルックスで、歌/ドラマ/CMに引っ張りダコとなった。ツパッっていても好きな人の前では何も言えなくなるような女の子を主人公とした一連のヒット曲は、当時の少年少女たちのピュアなハートを確実にゲット。おニャン子世代の代弁者として祭り上げられた。

以降も話題を振り撒きながら、着実にキャリアを重ねていき、94年のアルバム『Expose』では、“愛絵理”のペンネームで作詞を全曲担当。それは、彼女の「アイドルからアーティストへと脱皮宣言」といってもいい意思表示だった。

晴れて30才になり、歌手としてベテランの域に入った工藤静香。“抱かれない男ランキング”不動の首位を守るキムタクとの電撃入籍後、女兒2人を出産してからは音楽活動から遠ざかりながらも、自らデザイン/プロデュースを手掛けるアクセサリー・ブランドを立ち上げるなど、多彩な才能を発揮。結婚当初こそ、熱狂的なキムタク・ファンからの暴言やいやがらせもあったようだが、アーティストとして、女性として、そして母として、歳を重ねるごとに美しさに磨きがかかる彼女に、次第に同性からの支持が集まるようになっていった。

\*精力的に活動する中島みゆきの提供によるナンバーで、力強さを感じさせる楽曲とバラードを収めた両A面シングル。アレンジは瀬尾一三が担当。

グッと抑えた歌唱にヴォーカリストとしての工藤静香の「本気」を感じる。けれんに走らない堅実なアレンジもよい。

\*アイドルとして圧倒的な存在感を放った初期、さまざまなスタイルの楽曲を消化し、ヴォーカリストとして開花した中期、家族や恋人など幅広い愛を自分の言葉で伝え続ける近年と、奮戦の歴史が詰まったベスト。

愛憎渦巻く昼ドラ「麗しき鬼」の主題歌。シンプルでタイトなバンド・サウンドと流麗なストリングスのうえで歌われるのは、雨の夜に募っていく、愛しき人への強い想い。いつまでも変わらぬ、フェロモン系ヴォーカルが印象的。

## 略歴・人物

ミス・セブンティーン～おニャン子クラブ時代

幼少期を羽村市で過ごす。小学生の時には劇団「東俳」に所属。

1984年第3回「ミス・セブンティーンコンテスト」に出場（同コンテストの同期には国生さゆり、渡辺美里、松本典子、網浜直子、斉藤さおりなどがいる）。翌1985年1月、木村亜希、柴田くに子（後の森丘祥子）と「セブンティーンクラブ」を結成しCBSソニーからレコードデビューするも、2枚のシングルを発表し解散。

高校へ進学した1986年5月、『タヤけニャンニャン』番組スタッフの勧めでおニャン子クラブのオーディションを受け合格、会員番号38番となる。既に歌手活動をしていたことやモモコクラブのメンバーであったことが知られたが、突出した玄人っぽさを見せることは無く、クイズ等で見せる「バカキャラ」や「ヤンキーキャラ」で注目されるようになる。10月には渡辺満里奈のソロデビュー曲「深呼吸して」で生稲晃子とともに「with おニャン子クラブ」としてバックコーラスを担当する。

1987年5月7日、生稲晃子・斉藤満喜子とユニット「うしろ髪ひかれ隊」を結成。5月21日に発売のおニャン子クラブ8枚目のシングル「かたつむりサンバ」ではフロントボーカルに抜擢されるなど、終焉に向かっていたおニャン子クラブの中で人気、知名度を上げていく。

## ソロデビュー以降

『タヤけニャンニャン』最終回の1987年8月31日、「禁断のテレパシー」でソロデビュー。その後ヒット曲を連発し、1980年代後半から1990年代前半を代表する女性歌手の一人となる（浅香唯・中山美穂・南野陽子らと"アイドル四天王"と呼ばれた）。特に1989年は「恋一夜」「嵐の素顔」「黄砂に吹かれて」と50万枚以上の大ヒットを連発した。「黄砂に吹かれて」はオリコン6週連続1位の記録を持っている。

2000年～2002年、YOSHIKIが主宰するレコード会社「EXTASY RECORDS」に所属。

## 結婚～現在

2000年11月、SMAPの木村拓哉と結婚。結婚後、工藤と木村は工藤の両親と同居している。

2007年8月31日には、ソロ・デビュー20周年を迎えた。

## 中島みゆきとの関わり

\*工藤自身「中島みゆきさんほど憧れる人はいない」と語っている。中島と初対面したのは20歳頃で、音楽雑誌に掲載された対談であった。工藤は、そのときの印象を「すっごく華奢な人だなんて」「なんか地面から浮いているイメージ」と語っている。中島も工藤との友情を大切にしており、工藤にあてた音声インタビューの中で「あなたと出会えたことが私にとっての宝物です」と語った。これを聞いた工藤は、感激のあまり嬉し涙を見せた。

デビューから工藤のバックバンドを務めていたミュージシャンは、ほとんどが中島みゆきのバックバンドを務めており、そして当時工藤の曲のほとんどを作っていた後藤次利も、中島とはかつ

てバックバンドだけでなく、編曲やプロデューサーとして組んでいたミュージシャン仲間の一人でもあった。

1996年11月7日に発売されたシングル「激情」ではこれまで詞のみの提供だった中島が詞だけではなく、曲も提供するようになり、編曲も瀬尾一三が担当している。これ以後の工藤への提供曲はすべて中島作詞・作曲、瀬尾編曲のものである。

シングル

タイトル 発売

1 禁断のテレパシー 87.08 愛が痛い夜

2 Again 87

3 抱いてくれたらいいのに 88

4 FU-JI-TSU 88 作詞で中島みゆき初起用

5 MUGO・ん...色っぽい 88 群衆 カネボウ化粧品 '88秋 キャンペーン曲

6 恋一夜 88 箱根彫刻の森美術館 イメージ曲

7 嵐の素顔 89

8 黄砂に吹かれて 89

9 くちびるから媚薬 90

10 千流の雫 90

11 私について 90

12 ぼやぼやできない 91

13 Please 91

14 メタモルフォーゼ 91

15 めちゃくちゃに

泣いてしまいたい 92

16 うらはら 92

17 声を聴かせて 92

18 慟哭 93.02.03 コール CX系月9 『あの日に帰りたい』 主題歌

19 わたしはナイフ 93

20 あなたしかいないでしょ 93

21 Blue Rose 94

22 Jaguar Line 94

23 Ice Rain 94

24 Moon Water 95

25 7 95

26 蝶 96

27 優 96

28 激情 96

29 Blue Velvet 97

30 カーマストラの伝説 97

31 雪・月・花 98

32 きらら 98

33 一瞬 98

34 Blue Zone 99

35 深紅の花 00

36 maple 02

37 Lotus -生まれし花- 05

38 心のチカラ 05

39 Clavis -鍵- 06

40 雨夜の月に 07

41 NIGHT WING／雪傘 08

オリジナルアルバム

タイトル 発売日

1 ミステリアス 88

2 静香 88

3 JOY 89

4 カレリア 89

5 rosette 90

6 mind Universe 91

7 Trinity 92

8 Rise me 93

9 Expose 94

10 Purple 95

11 doing 96

12 DRESS 97

13 I'm not 98

14 Full of Love 99

15 Jewelry Box 02

16 月影 05

その当時、メディアでの扱いと、一般の受け手とのあいだに、かなり温度差があった気がする。一部に、熱狂的なファンはいたけれど。私は、彼等のテイストは、かなり好きだった。乾いたアメリカン・ポップスを感じさせる、数々の曲。聴いても、すぐに忘れてしまう曲が多かったけれど、音楽性からいって、仕方のないことだろう。ドロドロした歌謡曲と、対極にあるような世界。アッケラカンとして、ジメジメを突き抜けた世界。

(詞・曲 小西康陽)

今朝はじめて鏡を見て気がついたの Um あなたに恋してるの----

(収集プロフィール)

ピチカート・ファイヴ(1984年~2001年3月)は、日本の音楽グループ。

\*野宮真貴、小西康陽によるポップ絵巻「ピチカート・ファイヴ」。84年に小西を中心とする4人で結成され、細野晴臣プロデュースによる12インチ・シングル「オードリィ・ヘップバーン・コンプレックス」でデビューを果たす。その後、88年から90年までオリジナル・ラヴの田島貴男が在籍し、91年のアルバム『女性上位時代』から野宮が加入。90年代に日本の音楽シーンを席捲した「渋谷系」の最重要ユニットとして注目を集め、同時に精力的なワールド・ツアーの実績により、海外からも高い評価を得る。また、94年にはアメリカのマタドール(個性派揃いで有名なレーベル)からもリリースを開始した。

バート・バカラックに代表されるA&Mサウンドへの憧れがひしひしと感じられる初期の作品から、70年代ソウルへの接近を見せた田島時代まで。こういった小西の際限ない音楽嗜好。ソフト・ロック/ボサ・ノヴァ/ハウス/GSといったさまざまなスタイルを、マニア的視点から洗練されたセンスで解体/再生し、それを野宮のポップなヴォーカルと完璧なファッション戦略で具現化

。01年元旦、新世紀の幕開けを飾るアルバム『さ・え・ら・ジャポン』を発表。松崎しげるなどゲスト陣を交え、音楽シーンに新モードを提案。

渋谷系を代表するデュオ。小西康陽と親交の深いDJやミュージシャンが、彼らの音源をエディットし、ミックスした遊び心満載。

結成当初から解散まで、ピチカート・サウンドの頭脳&ポップス・センスを担った小西康陽自らが数々の名作の中から選曲。

「HAPPY END OF THE WORLD」

DJによるDJのためのトラックを満載し、クラブ使用アイテムという新たな方向を提示した作品。

「ボサ・ノヴァ2001」

小山田圭吾をプロデューサーに迎えて制作され「渋谷系」なるジャンルを作った作品。

\*ファッション、音楽、パッケージとすべてに斬新。

活躍中の須永辰緒によるリミックス集。スノップでありながらも息苦しいまでの空間に閉ざされた元ネタが、逆にメロディ・センスの素晴らしさを浮き彫りにするミックスへと開かれる様はまさに「あっぱれ」の一言。

\*21世紀最初のリリースとなるのは、カバーあり、シングル・ヒット曲ありの豪華なアルバム。テーマはずばり「日本」だ。根強い「近未来ヴィジュアル系」のイメージを一蹴する新鮮な1枚。

クラブ対応OKなJBLの第2弾は、夏向けなブライト・ヴォーカル・チューン。ピチカートらしい夏を演出してくれるノン・ストップe.p.だ。

ミッシェル・ポルナレフの名曲をハッピー・チャームにカバーした「tout,tout pour ma cherie」。小西らしい遊び心が随所に仕掛けられたダンサブルな五つのトラックはどれも彼のDJモードが音に見事に反映されたものばかりだ。魅惑のディスコティック。

元来編集と再構築で成立している彼らの曲を、もう一度別アルバムとして編集し、再構築するという行為は、ピチカートにもっとも似合う。

宇宙旅行のための壮大なトリップ・ナンバーとなった「PORNO 3003」はメディテーション効果も絶大だ。

メロコア・バンドによるピチカートへのトリビュート、バンド・スタイルによるセッション作。

「シネ・テクノ」でコンパクトな魅力でいっぱいの初期ピチカートは、野宮時代しか知らないファンにもぜひ。すべてのピチカートの要素はここにあるから。

#### 「月面軟着陸」

全23曲というこれでもか攻撃。それだけでまず圧倒させる。個性と個性が対決してバンドの個性が立方体に水を注ぐがごとく膨大な量にそのカサを増す、そんな1枚だ。田島貴男の脱退皮を直前にして、相変わらずヘンな気にさすピチカートだった。

正統派のポップ(文化としての)感覚をこれほどオモチャにしているアルバムは久しぶりだ。ジャケットから曲名、曲の背景に垣間見せるポップ性は、ある種の教養主義的でさえある。聴き手のセンスとマス・メディア文化への教養と遊び感覚を選別する。

#### 「女王陛下のピチカートファイブ」

正統派のポップ(文化としての)感覚をこれほどオモチャにしているアルバムは久しぶりだ。ジャケットから曲名、曲の背景に垣間見せるポップ性は、ある種の教養主義的でさえある。聴き手のセンスとマス・メディア文化への教養と遊び感覚を選別する。

#### 「Couples」

A&M系のエヴァーグリーン・サウンドを見事に再現したハイ・センスのシティー・ポップス。

#### 「overdose」

グルーピーとスターダムとヒップとオーバードーズ。今回のピチカートは「最新型のロック」な仕上がり。

#### 「BOSSA NOVA 2001」

遂に時代が追いついたか、怒涛の勢いでノリまくるピチカートの最新作。この作品で野宮真貴が初めて小西康陽の頭脳プロデュースを超え、彼女自身がピチカートそのものとなった気がする。スノッブに完璧さを追求するライブは必見です!

#### 「sweet pizzicato five」

野宮真貴のアイドル性とギミックに満ち満ちたポップ指向が見事に共鳴したお洒落なポップスを

展開するピチカートの新作。コズミックなイメージが気持ちいいソウル～ハウス的なビートと、キャッチーで下世話なファンキーなサウンドが堪能できる。

#### 「女性上位時代」

多種多様なサンプリングを駆使した短期集中型の音作りは、さながら雑誌かFM。早い、安い、うまいの3拍子。

1990年代の日本において一世を風靡した「渋谷系」と呼ばれる系統に属し、その音楽性のみならずファッションなどの面でも評価が高かった。自らを「ハッピー」、「キャッチー」、「グルーヴィー」、「ファンキー」といった言葉で形容。日本における人気・知名度は必ずしも低くはなかったが、そのファン層は比較的限定されていた。その活動はアメリカや欧米諸国にまで及び、このグループを知らない日本人にとっては「意外なほど」海外での知名度は高かった。劇場版『チャーリーズ・エンジェル』（'00年）で「トゥイギー・トゥイギー～トゥイギー対ジェイムズ・ボンド～」が流れた。

#### 1984 - 1990

1984年、小西康陽、高浪慶太郎、鴨宮諒、佐々木麻美子の4人をオリジナルメンバーとして結成。当初はドラマーの宮田繁男（のちのオリジナル・ラヴ ドラマー）を加えた5人の予定だったが、4人で「ピチカート・ファイヴ」を名乗ることとなった。

1985年、元YMOの細野晴臣プロデュースによりシングル「オードリィ・ヘプバーン・コンプレックス」でテイチクよりデビュー。

1987年にファーストアルバム『Couples』をリリースするが全く売れず、『月面軟着陸』（1990年）とアルバムを次々と発表して一部関係者の間では話題となるが、どれも商業的には失敗に終わった。

#### 1991 - 1999

元ポータブル・ロックの野宮真貴を3代目ボーカルに迎える。

その名が広く知られるようになったのは1993年にリリースした「スイート・ソウル・レビュー」によってである。

1994年にはミニアルバム『5x5』をアメリカのMatador Recordsからリリースして北米デビューを果たし、続いてリリースされたアルバム『MADE in USA』も全世界での売上げが20万枚に達した。同年9月にもアルバム『Overdose』をリリースするが、このアルバム発表前に高浪が脱退し、小西、野宮の二人で活動していくことになる。

1995年2月からはアメリカおよびヨーロッパの14都市でツアーを行い、成功を収める。

#### 1999 - 2001.3.31

2001年1月1日、21世紀最初でオリジナルとしては最後のアルバム『さ・え・ら ジャポン』をリリース。『東京』から視野を広げて『日本』をテーマとしたありとあらゆる楽曲が詰め込まれたアルバム。

しかし、2001年3月をもってピチカート・ファイヴが解散すると急遽発表される。

#### 解散後

ソニー時代のベストアルバムとオリジナルアルバムの再発売盤がリリースされるなど、再評価の

高まりが見られる。

メンバー

小西康陽（ベース、キーボード、ボーカル）

フロントマン的存在。大半の楽曲において作詞・作曲を担当。

高浪敬太郎（ギター・ボーカル）

オリジナルメンバーの一人。1994年に脱退。

佐々木麻美子（メインボーカル）

オリジナルメンバーの一人、初代ボーカリスト。1987年に脱退。

鴨宮諒（キーボード）

オリジナルメンバーの一人。1987年に脱退。

田島貴男（メインボーカル）

1988年、2代目ボーカリストとして加入。加入当時既にオリジナル・ラブで活動していたため、これと掛け持ちする形になった。1990年に脱退。

野宮真貴（メインボーカル）

1990年、田島貴男に代わって3代目ボーカリストとして加入。解散までメインボーカルを務めた。

シングル

ノン・スタンダード

オードリィ・ヘプバーン・コンプレックス（1985年8月）

イン・アクション（1986年1月）

CBS・ソニーレコード

ラヴァーズ・ロック（1990）

日本コロムビア

スウィート・ソウル・レビュー（1993）

東京は夜の七時（1993）

ハッピー・サッド（1994）

スーパースター（1994）

陽の当たる大通り（1994）

悲しい歌（1995）

ベイビィ・ポータブル・ロック（1996）

メッセージ・ソング（1996）

イツ・ア・ビューティフル・デイ（1997）

モナムール東京（1997）

PORNO 3003（1997）

大都会交響楽（1997）

恋のルール・新しいルール（1998）

きみみたいにきれいな女の子（1998）

ウィークエンド（1998）

HEAT WAVE

プレイボーイ・プレイガール (1998)

ダーリン・オブ・ディスコティックe.p. (1999)

ノンストップ・トゥ・トーキョーe.p. (1999)

パーフェクト・ワールド (1999)

東京の合唱 (2000)

12月24日 (2000)

オリジナルアルバム

CBS・ソニーレコード

Couples (1987)

Bellissima! (1988)

女王陛下のピチカート・ファイヴ (1989)

月面軟着陸 (1990)

日本コロムビア

女性上位時代 (1991)

スウィート・ピチカート・ファイヴ (1992)

ボサ・ノヴァ2001 (1993)

オーヴァードーズ (1994)

ロマンティック96 (1995)

ハッピー・エンド・オブ・ザ・ワールド (1997)

プレイボーイ・プレイガール (1998)

HEAT WAVE

PIZZICATO FIVE (1999)

さ・え・ら ジャポン (2001)

人それぞれに、エアーポケットに入ってしまう歌手が、何人かいるようだ。私にとっては、小畑実、島津ゆたか、日野美歌、谷山浩子、渡辺真知子などと並んで、永井はそういう歌手だった。その存在は十分承知しているし、好きな曲も結構あるのだが、いざとなると忘れている。ここにも、ずっと前に取り上げるはずだったのだが、今日になってしまった。最近では、永井の曲を、なぜか演歌系の歌手たちが、何曲かカバーして、世の好評を得ている。

初期の「星月夜」は、珍しく少し激しい曲調。でも、私は好きである。「ひと握りの幸福」(1978)、「つまさき坂」(1979)、「道標(しるべ)ない旅」(1979)、「儂(ゆめ)物語」(1980)などは、彼らしい、ほのかな明るさと哀愁をおびた、静かな曲調のなかに、少年の日々や、青春の一ページや回想、想い、淡い恋などが語られる。「青春を旅する若者よ 君が歩けば そこに必ず 道はできる」の名フレーズは、多くの若者を励まし続けてきた。

地味なうえに、好き嫌いの、かなり分かれる歌い手であろうが、永井の存在意義は、今後ますますその重要性を増していくだろう。

網戸越しの夜風が 肌に冷たく感じる 星月夜の夜は なぜだか寂しくなる あの人に逢いたいと----

(収集プロフィール)

永井 龍雲(ながい りゅううん、1957～)は福岡県出身のシンガーソングライター。福岡県立豊津高校卒業。

2002年にシングル化されて好評の坂本冬美「うりずんの頃」など、作家としても高い評価と人気を集めるシンガー・ソングライター。

\*ライブ・ツアー「永井龍雲「唄語り」」における「酒の歌コーナー」からの抜粋曲を収録。「暖簾」などの代表作に、新曲を1曲追加収録した内容充実のミニ・アルバム。

龍雲と同世代の中年にさしかかった夫婦の情感が静かに歌われていく「カトレア」。青春の思い出と過ぎ去った歳月への戸惑いを何気ない情景に託して歌っているいくつもの歌。青春時代には想像さえできなかった中年になった自分の想いがさり気なく歌われる大人の歌。

\*ポップン出身のシンガー・ソングライターの97年の作品。超ベテランとしていい意味で「変わらない」日本のフォークの世界を聴かせる。「こういう歌しかうたいたくない」という意志を、ムダのないバックギンが支える。

叙情派フォークを歌い続ける永井龍雲、78年のデビュー・アルバムがQ盤として復刻された。澄んだ美しい声で、時に淡々と、時に明るく歌うさまは今も魅力的だ。それにしても、このサウンドのアナログ感、今はどうやっても出せないだろう。

叙情派フォークの代表歌手として活躍したシンガー・ソングライターが79年に発表した代表作の初CD化。大村雅朗のアレンジ、スタジオ・ミュージシャンで固めたサウンドに取り立てた個性はないけど、清貧さを漂わせたメロディックな佳品が並ぶ。

デビューして17年になる龍雲も、さすがに洗練されてきたようで、優しさを分かりやすい形にして提示している。ここでも、さまよう青春の尻尾を切り捨てられないでいる歌をうたっている

のが、龍雲らしいところ。軟弱さの彼方に必死さが垣間見えるのだ。

90年に発売された「BOOK-CD」の「トルバドールを気取って」に新曲を加えて「再生」されたもの。地味な活動を続けるうちに、何やら時代が勝手にこの人にすり寄ってきたみたいだ。個人的には中西康博のアレンジの方が龍雲らしいかなと思う。

女々しいと言われるほど切ない気持ちを素直に歌っている。キュンと胸をしめつけられる思いを、龍雲の優しくのびるヴォーカルはロマンチックに伝えている。「砂浜」には妙に懐かしく思えるポップ感覚が活かされていたのを確認。

#### 略歴

1978年キャニオンよりデビュー。1979年5枚目のシングル『道標（しるべ）ない旅』がスマッシュヒット。1989年五木ひろしの『暖簾』の作詞で第22回日本作詞大賞「優秀作品賞」受賞。1992年日本コロムビアに移籍。有名なビートたけしのオールナイトニッポン木曜1部後の2部の担当をしていた。

#### シングル

想い（1978.3）

星月夜(1978.8)

ひと握りの幸福（1978）

つまさき坂（1979）

道標（しるべ）ない旅(1979)

悲しい時代に（1980）

夢（ゆめ）物語（1980）

桜桃忌～おもいみだれて～（1981）

カリフォルニア伝言（1981.8.5）

たそがれ（1982.7.21）

マイ・ハート～虹を追う二人～（1984）

ハート・ブレイク（1984.6.21）

いとしき人よ語れ（1985.8.21）

駅から始まる物語（1986.7.5）

今度 生まれて来るとしたなら（1992）

捨て猫（1993）

飛鳥（1994）

真夏のカクテル（1994）

恋の花（1996）

帰郷（1996）

蘇る夏（1997）

夢の灯り（1998）

当世酒場唄（1999）

鳥のようなもの／遠い人（2002）

セイリング マイ ウェイ／君よ 強くなれ (2002)

アルバム

龍雲ファースト (1978.5.25)

発熱 (1979.2.21)

暖寒 (1979.10.21)

夜・風・雨 (1980.7.21)

風炎 (1981.5.21)

風のカクテル (1982.9.21)

STAND BY (1984.2.21)

或る時 (1985.10.5)

砂漠 (すな) の道 (1992.4.21)

捨て猫 ～トルバドールを気取って～ (1993.6.21)

カトレア (1994.6.21)

激流 (1997.4.19)

龍雲ベスト'97 (1997.5.21) ベストアルバム

永井龍雲 唄語り「酒」 (2000.11.18)

Slow down (2001.5.10)

永井龍雲ベスト・コレクション 龍雲1978～1986 (2002.1.21) ベストアルバム

25色の肖像 (2002.11.21)

風樹 (2004.3.10)

沖縄物語 (2006.1)

一連の詐欺疑惑などで、大きくイメージダウン。私は彼等の音楽は、嫌いではない。むろん金銭面は節約して、人に迷惑をかけないように励まねばならないが。

プログレに位置付けされる事が多いが、私は彼等の基底にユーロビートを感じる。つまり、流行やすく廃れ易い、という宿命を持った音楽である。確かにすぐ飽きるが、暫くするとまた聴きたくなる。小室Fの退潮は、ちょうどいま引き潮で凧の状態にあるのでは、と思う。焦らずに、リベンジを。

(詞・神沢礼江 曲・小室哲哉)

時代さまよう天使たち 夢と翼を引きかえに さめた欲望満たすけど---

(収集プロフィール)

TM NETWORKは、小室哲哉（シンセサイザー）、宇都宮隆（ボーカル）、木根尚登（ギター）の3人で構成される音楽ユニット。

1984年4月にデビュー。1990年、「TMN」にリニューアル後、メジャーデビュー10年目となる1994年4月21日に活動終了。1999年には再びTM NETWORKとして始動。現時点でのシングル、アルバムの売上げ総数は公称1,600万枚を突破。

\*globe、安室奈美恵などのコンポーザーとして有名な小室。84年、「金曜日のライオン」でデビュー。当時としては珍しくコンピュータを全面にフィーチャーした画期的な楽曲。

転機が訪れたのは87年、シングル「GET WILD」の大ヒットをきっかけに、「レジスタンス」、「セヴン・デイズ・ウォー」と立てつづけに大ヒットを連発。90年にはTMNと改称し、歌謡ロック・サウンドから脱却、デジタル・ビートがもたらすミニマルかつアグレッシヴなリズムに主眼をおいたサウンドを目指していった。改名直後に発表されたアルバム『リズム・レッド』は、そんな音楽的变化が如実に反映された快作。以降も、リズムのヴァリエーションがもたらすグルーブ感を楽しむような楽曲を次々と発表。

## 概要

小室を中心とした3人組であり、作曲と編曲は小室がそのほとんどを手がけ、いわゆるTMサウンドを編み出している。また、木根尚登が書く繊細なメロディは定評があり、特にバラードは「木根バラ」と呼ばれ親しまれている。

1980年代末よりシンクラヴィアを導入し、現在では一般化されたハードディスクレコーディングを行うといった点も時代を先取り。

デビューアルバム『RAINBOW.』は、デビュー前にEPICソニーに持ち込んだデモテープからの曲がほとんどで、1985年の2ndアルバム『CHILDHOOD'S END』、『TWINKLE NIGHT』までは当時洋楽の主流とされたニューロマンティックの影響が色濃くみられた。1986年の『GORILLA』で、FUNK（ファンク）、PUNK（パンクロック）、FANS（ファン）の要素を組み合わせた「FANKS」という造語を全面に打ち出し楽曲スタイルに変化がみられたが、それでもヒットには繋がらなかった。4thアルバム『Self Control』の頃には小室の楽曲にオリジナル性が確立され、全国ネットの音楽番組に出演するなどしたがそれでもまだヒットと呼べるにはほど遠く、ディレ

クター小坂洋二をはじめとするスタッフ間で「売れるシングルを」との協議のすえ誕生したのが1987年のシングル『Get Wild』だった。この曲のヒットによりTM NETWORKの方向性が確信的なものとなり、シンセポップの名盤『human.』が誕生。同年リリースの『CAROL』ではブリティッシュロック色を全面に打ち出したコンセプトアルバムとして小説やアニメなどのメディア展開もされ、アコースティック志向なアルバムとなった。

1990年、TMNリニューアル後の『RHYTHM RED』ではシンセサイザーをフィーチャーしたプログレッシブ・ロックの流れを汲みハードロック路線を全面に打ち出したが、当時のファンの間では急激な変化と捉える声もあり、賛否が分かれた。1991年の『EXPO』では、テーマを「月とピアノ」と題して、ハウスミュージックを主体としつつも、フォークソング、ハードロックなど様々な音楽性を取り入れTMNのサウンドポテンシャルの広さを実感できるアルバムとなったが、同時にTMN名義としては最後のオリジナルアルバムともなる。

TM NETWORK復活後にリリースしたシングルはテクノ、クラブミュージックの要素が強い。

2000年にインディーズよりリリースした『Major Turn Round』は1970年代プログレを意識したハードロックとなっており、アナログシンセを中心とした音構成となっている。2004年の『NETWORKTM』では前作の反動からか、トランス要素が非常に強く、収録曲は過去のリメイク曲が多数。

## 来歴

### 1983年

5月、ユニット結成、「TM NETWORK」と命名。

8月、コンテストで『1974』を演奏し、満点の評価を得てグランプリに輝く。

9月10日、Epic/Sonyと正式契約。

### 1984年

4月21日、Epic/Sonyより、1stシングル『金曜日のライオン』、1stアルバム『RAINBOW.』の同時リリースでデビュー。キャッチコピーは「金色の夢を見せてあげる」。

7月21日、2ndシングル『1974 (16光年の訪問者)』リリース。北海道地区で大ヒットする。

### 1987年

4月8日、10thシングル『Get Wild』リリース。オリコンベスト10入りを果たす。

### 1990年

9月1日、TMNとして活動再開。

9月28日、TMN名義初のCDシングル（通算22nd）『TIME TO COUNT DOWN』リリース。

### 1994年

4月21日、デビュー10周年のこの日、突如、朝刊全面広告にてTMNの「終了」を宣言。

### 1997年

小室、TM NETWORKの再活動を宇都宮、木根に提案、受諾。

### 2008年

11月4日、小室が詐欺容疑で逮捕。

TM NETWORK、TMNはある種の独特な音楽感を、提唱し続けてきた。ただしそれは、海外の最

先端の音楽をいち早く吸収し、日本の音楽土壌に合う形で再定義するという形式が一番多い。一番重要な役割を果たしたのはシンセサイザーであった。特にデジタル楽器やMIDIの歩みと一緒にTMも歩みを重ねた。そして彼らの活動は、打ち込みという音楽スタイルを、大衆の音楽として普及させる大きな役割を担うことになった。小室はレコーディングの際のみ、ソフトウェア・シンセサイザーを「楽器として重要な要素であるフィジカルコントロールの面でハードに劣る」として使用していない。小室の良くも悪くもある特徴的な曲のスタイルは、TMの時期に確立されたもの。

主な特徴を箇条書きに。

\*普通ではない転調の存在

\*リフレインの多用

\*かなりの曲で展開パターンが一定

\*インストゥルメンタル（カラオケ）で聞くに堪えうるバックトラックを先に作り、歌のメロディをその上に乗せる

\*ブレス（息継ぎ）のタイミングがわからないメロディと早口

\*4度音程や9thなどのテンションの多用

ちなみに小室が「転調」を多用するようになったのは、1980年代後半のTMのレコーディングのとき、ソフトのバグで機材に誤動作が生じたのが、切っ掛け。

いまはまだ若手だが、先を行く、安室奈美恵、浜崎あゆみに続く、将来の大歌手。中島は、その声に特徴がある。柔らかでエモーショナル、そしてときに低め、ときにドラマティックな歌唱の世界。

手を振るあなたの影 そっと夕闇に溶けてく はしゃいでた季節(とき)が終わること---誰かを愛すること それは悲しみに似ている 痛いほど私の全てがこわれてく つめたい独りの夜---

(収録プロフィール)

中島 美嘉(なかしま みか、1983~)は、日本の女性歌手、女優。鹿児島県日置市出身。小生意気な雰囲気と、ハスキーなヴォーカルが魅力だ。また、時おり見せる少女っぽさも。

\*01年、TVドラマ『傷だらけのラブソング』のヒロイン役に3000人の中から大抜擢。11月には、このドラマの主題歌「STARS」で、念願かなって歌手デビューを果たす。ニューソウルっぽいサウンドが光る同曲はビッグ・セールスを記録。02年の1stアルバム『TRUE』はチャート1位に輝く。まさに彼女は、胸が張り裂けそうなエモーションを称えたその歌唱で、スターの座を射止めた。

03年には、スタンダードなバラードからアーバン・クラブ・ジャズやラヴァーズ・ロックなど多彩なサウンドをバックに“愛”を唄ったコンセプトアルバム『LOVE』(ミリオン達成)を発表し、レコード大賞など数々の賞を総なめにする。そして04年2月よりスタートした初の全国ホール・ツアーでは大成功を収め、05年3月に多彩なジャンルを吸収した彼女の野心的な作品となった3rdアルバム『MUSIC』を発表。

8月には矢沢あい原作映画『NANA』の大崎ナナ役に抜擢され、同映画主題歌である『GLAMOROUS SKY』をリリースし大反響を呼ぶ。

07年2月に発売したシングル「見えない星」は“冬の終わり”に向けて贈るラブ・バラードの最高傑作として評されている。ポップ・シンガーとしてのきらめきと、アーティストとしての深みを日々増してゆく中島美嘉、やはり希代の歌姫である。

ひとりで向かい合っていると本当に心のとんでもなく深いところまで届く歌声だということが再確認できるシングル。

ラバーズ・ロック。しなやかな裏打ちのビートを中心としたトラックの中で、甘く、切なく、憂いを帯びたヴォーカリゼーションと「地上の楽園」をテーマにしたリリックがゆったりと舞う。切なさが満ちる前半から希望が感じられる後半へと展開する陰影のあるサウンドが特色。

ケツメイシのRYOJIが作詞・作曲した美メロが心に響く。「FEVER」はジャズ・ベーシストの神様、ロン・カーターをフィーチャーしたジャジィな曲。同時発売のアルバムでソウルやR&Bにどっぷり漬かった片鱗がここにも表われている。

スロウな旋律と透明感のあるゴスペル風コーラスに癒される、ミディアム・バラード。本領発揮とばかりに、エモーショナル&センシティブな歌声を朗々と聴かせてくれる。カップリングは、尾崎豊の名曲。ストリングスの響きが、神々しい仕上がりとなった。

中島演じる大崎ナナ所属バンド「ブラスト」の世界観が刻まれた、ミステリアスでパンキッシュなサウンド・アプローチが魅力。HYDE制作「GLAMOROUS SKY」やTAKURO制作「一色」をはじめ、企画だけに終わらない快作。

ゴスペルやブルースなど多彩な音楽ジャンルに取り組む彼女が挑戦するのはソフト・レゲエ。甘酸っぱいフレーズを艶やかなヴォーカルでささやいて、既存のレゲエよりもずっと愛らしくスタイリッシュな仕上がりになった。

## 来歴

### 1996年

中学2年生の時に鹿児島市内に転校。転校先ではイジメを受けた。

### 1998年

鹿児島市立天保山中学校卒業後、高校には進学せず約1年間地元のファーストフード店などを中心にアルバイトをした。

### 1999年

福岡県福岡市に出てアパートの一室で集団生活。福岡と鹿児島を行き来することが多かった。この間、多くのオーディションを受ける。当初は歌手ではなくモデルをしていた。

### 2001年

レコード会社に送ったデモテープがきっかけとなり“ソニーオーディション”に合格。フジ系ドラマのヒロインに抜擢され、主題歌『STARS』でCDデビューも果たしヒットを記録。

### 2002年

フジ系ドラマ「天体観測」の主題歌として歌った『WILL』がヒット。これが1stアルバム『TRUE』の大ヒットに繋がり、オリコン初登場1位・ミリオンセラーを記録した。

数々の音楽新人賞を受賞し、NHK紅白歌合戦にも初出場を果たした。

### 2003年

11月、『雪の華』『FIND THE WAY』など数々のヒットシングルを含んだ2ndアルバム『LØVE』をリリース。発売から1ヶ月経たずにミリオンセラーを記録、累計150万枚以上を売り上げたこのアルバムは、日本だけではなく韓国でもヒットし、日本人で初めてミリオン級セールスを突破している。

### 2005年

3月、シングル『桜色舞うころ』『SEVEN』などを含む3rdアルバム『MUSIC』をリリース。オリコンウィークリーアルバムチャートで2週連続1位を獲得し、ヒットを記録した。

矢沢あいの人気漫画を原作にした東宝系映画「NANA」に主演。映画は大ヒット。

『GLAMOROUS SKY』で年間オリコンシングルチャートに女性で唯一のトップ10入りを果たす。

12月、初のベストアルバム『BEST』をリリース。発売1ヶ月でミリオンセラーを達成した。

### 2006年

12月9日、主演映画「NANA2」が公開。

### 2007年

4月から7月まで、全国ライブツアー「YES MY JOY」を行う。

## 人物

髪型を頻繁に変える。またうたばんで以前中島がバイトしていた店の店長が当時の印象を聞かれ、「会うたびに髪の色が違った。」と答えている。過去の発言によると、好きなブランドはヴィヴィアン・ウエストウッドやヒステリック・グラマー。

猫好きであり、現在ソマリと黒猫を飼っている。かつては、10匹飼っていた時期があったという。趣味はチョウやクモなどの標本集めだが、クモは種類によって好き嫌いがある。また、教会のステンドグラスを鑑賞することが好きである。黒魔術も興味があるという。

好きな食べ物は味噌ラーメン、ご飯、アイスクリーム。また、マヨラーでもあり、カップラーメン、ケーキ、アイスクリームにかけるほど。

## 環境への意識

2006年、レコーディングとビデオ撮影でメンフィス市を訪れた際に、ハリケーン・カトリーナで受けた被害からの復興の手助けをしたいと市長に話したことがきっかけで、アメリカ合衆国テネシー州メンフィス市名誉市民賞を受賞した（日本人としては忌野清志郎に続き2人目の授与）。2006年のニューオリンズ来訪を機に、コンサートなどの公の場において、環境問題や地球温暖化に関心を持ってもらえるよう「マイ箸」やエコバッグの携帯をファンに訴えている。

## 芸能界での交友関係

憧れの人には黒柳徹子と夏木マリ。黒柳とは僕らの音楽で共演を果たす。また、夏木は中島の童話写真集のDVDのナレーションを担当している。かつてはSPEEDのファンであることを公表していた。

## 受賞歴

2002年

第16回 ゴールドディスク大賞 新人賞（『STARS』）

2003年

第45回 輝く!日本レコード大賞 金賞（『雪の華』）／ベストアルバム賞（『LOVE』）

シングル

1st 2001年11月 STARS 作詞：秋元康 作曲：川口大輔

2nd 2002年2月 CRESCENT MOON 作詞：松本隆 作曲：大野宏明

3rd 2002 ONE SURVIVE 作詞：吉田美奈子

作曲：T2ya

4th 2002年5月15日 Helpless Rain 作詞：おちまさと

作曲：shinya（three tight b）

5th 2002年8月7日 WILL 作詞：秋元康

作曲：川口大輔

6th 2003年1月29日 愛してる 作詞：H

作曲：H

7th 2003年4月9日 Love Addict 作詞：中島美嘉

作曲：大沢伸一

- 8th 2003年6月25日 接吻 作詞：田島貴男  
作曲：田島貴男
- 9th 2003年8月6日 FIND THE WAY 作詞：中島美嘉  
作曲：Lori Fine (COLDFEET)
- 10th 2003年10月1日 雪の華 作詞：Satomi  
作曲：松本良喜
- 11th 2004年4月7日 SEVEN 作詞：中島美嘉  
作曲：Lori Fine (COLDFEET)
- 12th 2004 火の鳥 作詞：湯川れい子  
作曲：内池秀和
- 13th 2004 LEGEND 作詞：中島美嘉  
作曲：岡野泰也
- 14th 2005年2月2日 桜色舞うころ 作詞：川江美奈子  
作曲：川江美奈子  
編曲：武部聡志
- 15th 2005年6月8日 ひとり 作詞：Satomi  
作曲：松本良喜
- 16th 2005年8月31日 GLAMOROUS SKY 作詞：矢沢あい  
作曲：HYDE
- 17th 2006年2月22日 CRY NO MORE 作詞：康珍化  
作曲：Linsei
- 18th 2006年6月7日 ALL HANDS TOGETHER 作詞：中島美嘉&SOUL OF SOUTH  
作曲：Lori Fine (COLDFEET)
- 19th 2006年7月26日 MY SUGAR CAT 作詞：中島美嘉  
作曲：五島良子
- 20th 2006年11月29日 一色（ひといろ） 作詞：矢沢あい  
作曲：TAKURO
- 21st 2007年2月21日 見えない星 作詞：長瀬弘樹  
作曲：長瀬弘樹
- 22nd 2007年3月14日 素直なまま 作詞：RYOJI  
作曲：RYOJI
- 23rd 2007年8月22日 LIFE 作詞：高柳恋・ヒロイズム  
作曲：JUNKOO
- 24th 2007年10月3日 永遠の詩 作詞：宮沢和史  
作曲：Sin  
編曲：森俊也
- 25th 2008年3月12日 SAKURA～花霞～ 作詞：MONA・長瀬弘樹

作曲：長瀬弘樹

26th 2008年7月23日 I DON'T KNOW 作詞：中島美嘉・Lori Fine

作曲：Lori Fine

オリジナルアルバム

1st 2002年8月28日 TRUE オリコン1位獲得

ミリオン達成

2nd 2003年11月6日 LØVE オリコン1位獲得

ミリオン達成

3rd 2005年3月9日 MUSIC

NANA 2006年12月13日 THE END

NANA starring MIKA NAKASHIMAとして

4th 2007年3月14日 YES

映画

偶然にも最悪な少年（2003年9月公開、東映）-佐々木由美 役

NANA（2005年9月公開、東宝）-大崎ナナ 役

NANA2（2006年12月公開、東宝）-大崎ナナ 役

元気で明るいイメージ。ヒット曲も、その路線のものが多い。本当の彼女はどうかは、よく分からないが、見た限りではイメージ通りだ。この曲は、爽やかで明るく、小さな悩みなら、吹き飛ばしてくれそうだ。

(詞・亜伊林 曲・藤井宏一)

ほどけた靴ひも そのままでいたい夜---二人は違う人間だから 一緒にいられるの そばにいてもね 別々の夢見られるよ ずっとずっとねエこんな風にしてね---

(収集プロフィール)

永井 真理子 (ながい まりこ、1966-) はミュージシャン・歌手。静岡県御殿場市出身。麗澤瑞浪高等学校、日本女子体育短期大学保育科卒業。

近年、隆盛を誇る“爽やかガールズ・ポップス”のさきがけ的シンガー。現在も安定した支持を獲得している彼女だが、80年代後半から90年代前半にかけての人気は尋常でなかった。ボーイッシュかつキュートなルックス/(意外にも)姉御肌なパーソナリティ/澆刺としたヴォーカル/ポジティブ・マインドあふれる詞世界でヤングのハートをがっちりキャッチ! 「ファイト!」(88年)、「ミラクル・ガール」(89年)、「ZUTTO」(90年)などのヒット・ナンバーは、当時ティーンエイジ・アンセムとして機能していたようだ。

サラリと歌っているようでいて、その実、骨太で安定感のあるヴォーカルが彼女の魅力。押しつけ感はなく、自然と聴き手を取り込んでしまうところに実力のほどを見せる。2年ぶりのアルバムでは、厚みのある演奏に乗って、彼女の存在感をあらためて実感させられる唄声が出る。

すっきりした雰囲気が出ているのに驚く。歌声も力強く繊細。まさに「大人」のためのポップ・ロック。頼もしい。

聴く者を優しく、温かい気持ちにさせる癒し系ヴォイスを最大に生かした、ハート・ウォーミングなバラードだ。

決して派手に着飾ることなく、でもシンプルすぎずに生き方を主張していく彼女。いわゆるスルメ的な、聴けば聴くほど彼女の感性が伝わってくる自叙的な作品だ。

元気印を絵に書いた様なエネルギーと、純な女心の微妙なバランスが彼女の魅力、と思うのだが。ファンの皆さん、彼女と心のキャッチ・ボールを。

来歴・人物

1987年にファンハウス(現: BMG JAPAN)より『oh,ムーンライト』でデビュー。1980年代後半から1990年代前半にかけ、ボーイッシュな雰囲気でも人気を得て、『ミラクル・ガール』(1989年)、『ZUTTO』(1990年)など多くのヒットを生んだ。

1993年にツアーバンド「Hysteria Mama」のギタリスト・廣田コージ(COZZI)と結婚し、1996年に長男を出産。1997年、東芝EMIに移籍。現在は自主レーベルBLUE TONGUEにて活動中。夫、長男と共にオーストラリア・シドニーに在住。御殿場にある実家は、美容室を営んでいることで有名。

シングル

oh,ムーンライト（作詞：亜伊林／作曲：谷口守／編曲：根岸貴幸）（1987.07.22）  
瞳・元気（作詞：只野菜摘／作曲：辛島美登里／編曲：根岸貴幸）（1987.11.25）  
Brand-New Way（作詞：川田多摩喜／作曲：藤井宏一／編曲：根岸貴幸）（1988.04.01）  
ロンリイザウルス（作詞：亜伊林／作曲：北野誠／編曲：根岸貴幸）（1988.07.01）  
自分についての嘘（作詞：亜伊林／作曲：谷口守／編曲：根岸貴幸）（1988.09.27）  
Fight!（作詞：亜伊林／作曲：辛島美登里）（1988）  
Ready Steady Go!（作詞：亜伊林／作曲：前田克樹）（1989）  
TIME（作詞：亜伊林／作曲：馬場孝幸／編曲：根岸貴幸）（1989）  
ミラクル・ガール（作詞：亜伊林／作曲：藤井宏一／編曲：根岸貴幸）（1989）  
White Communication～新しい絆～（作詞・作曲：佐野元春／編曲：根岸貴幸）（1990.03.01）  
23才（作詞：永井真理子・浅田有理／作曲：前田克樹）（1990.06.20）  
ZUTTO（作詞：亜伊林／作曲：藤井宏一）（1990.10.24）  
ハートをWASH!（作詞：浅田有理／作曲：北野誠）（1991.04.24）  
愛こそみんなの仕事／私の中の勇氣（作詞：亜伊林／作曲：前田克樹／編曲：根岸貴幸）／（  
作詞：永井真理子／作曲：前田克樹）（1991.08.21）  
やさしくなりたい（作詞：亜伊林／作曲：北野誠）（1991）  
YOU AND I（作詞・作曲：陣内大蔵）（1992）  
泣きたい日もある（作詞・作曲：遠藤京子／編曲：根岸貴幸）（1992.07.17）  
Chu-Chu（作詞：永井真理子／作曲：永井真理子・廣田コージ）（1992.10.14）  
大きなキリンになって（作詞：永井真理子／作曲：永井真理子・廣田コージ）（1993）  
HYSTERIC GLAMOUR2（作詞：永井真理子／作曲：永井真理子・廣田コージ）（1993）  
We are OK!（作詞：永井真理子／作曲：永井真理子・廣田コージ）（1993）  
my sweet days（作詞：永井真理子／作曲：永井真理子・廣田コージ）（1993）  
Cherry Revolution（作詞：永井真理子／作曲：永井真理子・廣田コージ）（1994）  
日曜日が足りない（作詞：永井真理子／作曲：永井真理子・廣田コージ）（1994）  
きれいになろう（作詞：永井真理子／作曲：永井真理子・廣田コージ）（1994）  
おいでよSmile World（作詞：永井真理子／作曲：永井真理子・廣田コージ）（1995）  
KISS ME（作詞：永井真理子／作曲：永井真理子・廣田コージ）（1995）  
飛べないBig Bird（作詞：永井真理子／作曲：永井真理子・廣田コージ／編曲：廣田コージ）  
（1995.07.21）  
真夏のイブ（作詞：永井真理子／作曲・編曲：中村正人）（1997）  
私を捜しにゆこう（作詞：永井真理子／作曲：廣田コージ／編曲：成田忍）（1997）  
うた（作詞：永井真理子・村野耕治／作曲：COZZi）（1998）  
かたちのないものが好き（作詞：松本隆／作曲：西川進・小林孝至／編曲：西川進）  
（2000.07.19）  
あなたのそばにいて（作詞・作曲：遠藤響子／編曲：重実徹）（2000）  
同じ時代（作詞・作曲：遠藤響子／編曲：十川知司）（2002）

## アルバム

### 上機嫌(1987年)

ときめくハートビート / One Step Closer / Oh, ムーンライト / Donnani / 心が風邪をひいた / Slow Down Kiss / Higher In The Sky / ミッドナイト・ウイルス / Good Luckが目にしみる / 夕闇にまぎれて

### 元気予報(1987年)

Mind Your Step / 親友 / So Bad / Brand-New Way / 瞳・元気 / Karma Karma / 3D Nightへおいで / Mariko / いつもセレナーデ / 黄昏のストレイシープ

### Tobikkiri(1988年)

Fight! / 自分についての嘘 / Pepper And Salt / 20才のスピード / ロンリイザウルス / コンタクトレンズ・スコープ / 御飯食べてる? / Why Why Why / Dear My Friends / Change

### Miracle Girl(1989年)

TIME-Song For GUNHED- / プリティ・ロックンロール / そよ風のチャンピオン / 50/50 / 秘密の宝物 / Ready Steady Go! / 市場へ行こう / Bicycle Race / 悲しまないで / Keep On "Keeping On"

### Catch Ball(1990年)

23才 / あの頃、哀しさは1/6 / White Communication -新しい絆- / Way Out / ありがとうを言わせて... / 好奇心 / ミラクル・ガール / ガリレオによろしく / キャッチ・ボール / 今、君が涙を見せた / レインボウ

### WASHING(1991年) オリコンチャート1位獲得

Keep On Running / ワイルドで行こう / 愛こそみんなの仕事 / ハートをWASH! / 私の中の勇気 / こんな人生もありよ / 夏のはじまり / Say Hello / ピンクの魚よ / 揺れているのは

### AIR(2004年)

やさしい空気 / 蒼のまま / 私の一日の真ん中で / 天国の島 / ふたつの心 / You Rock / 光に向かって / Tobujikandesu / 風が吹く時 / 私を救う薬 / おやすみ

### Sunny Side up(2006年)

Paper Plane / 空へつづく階段 / ミエナイアシタ / Northbridge / BlueのVespaで / story / TRAIN / このころ / fortune smile on me / small history of love / ひかりの粒

## メモ

辛島美登里とは同じレコード会社に所属していた（ファンハウス→東芝EMI。所属時期は異なる）事から、かつては親密だった。辛島は所属事務所も永井が所属していたエムエス・アーティスト・プロダクツ（MSAP）に移籍して一緒になっている。

辛島は「瞳・元気」の曲提供がきっかけで、1989年に当時の永井の担当プロデューサーである金子文枝によって歌手デビューした（実際はそれ以前にも歌手活動はしているが、公式には89年デビューとされている）。

1988年発売のPCエンジンCD-ROM2用RPG「天外魔境 ZIRIA」に声優として参加。

1992年8月2日、日本人女性アーティストとして初の横浜スタジアムでのライブ開催。

1993年7月31日、「BIG OPEN ZOO」LIVEを横浜スタジアムで2年連続の開催。公演中2回目のア

ンコールの際、ステージ上で廣田コージと婚約したことを発表した。このライブの様子はWOWOWで生中継された。当時、永井真理子の人気は絶頂期であった。

1994年にエッセイ「野望の大陸」を集英社から発売した。

ファンの間では評価が高い「Karma Karma」という曲はLPシングルとしてアメリカで発売されたことがある。

中学・高校と剣道をやっていたこともあり、運動神経はかなり良い。過去にコンサートでバック転を披露したこともある。

TBS系ドラマ「タイヨウのうた」で沢尻エリカが演じる雨音薫が劇中で歌うStay with meの歌詞を書いた。

NHKFM、初のラジオライブ（JAPAN LIVE'91）の第1回目のアーティストとして熱唱した。アンコールで流れた「One Step Closer」は多くの永井真理子の音源の中で1,2を争う感動のアレンジである。

宇崎が率いる、ダウン・タウン・ブギウギ・バンド。このグループがメジャー・デビューした当時、やはり「糞して一服」というフレーズにビックリして、困惑した。そして全体に、ぶっさら棒な、投げやりのような歌詞。私の周囲の人達の反応も、ほぼ同じだった。そして、耳に残る、このようなフレーズは、従来の歌謡曲にはないスタンスである。大衆音楽が、一歩先へ踏み出した感じを受けた。

「絶対絶命」(詞・阿木耀子 曲・宇崎竜童 1997・山口百恵への提供曲を、セルフカバー)

夕暮れせまるカフェテラス その人は白いハンカチを噛む---人間模様の 絶対絶命 さあさあ  
さあさあ はっきり形をつけてよ はっきり形を---

(収集プロフィール)

宇崎 竜童(うざき りゅうどう、1946-)は、ミュージシャン、作曲家、俳優、映画監督。京都府京都市出身。明治大学法学部卒業。夫人は作詞家の阿木耀子。

ダウン・タウン・ブギウギ・バンドに始まり、竜童組やR.U.コネクションなどでの演奏活動。山口百恵の「横須賀ストーリー」に代表されるヒット・メイカーとしての作曲家活動。さらにはTV/映画で俳優として活躍するなど、華麗としか言いようのない経歴を誇る。もちろんメインは音楽なのだが、その音楽性にしても1つのスタイルに収束するようなものではなく、ロックンロールに歌謡曲、演歌にラテンに民謡と、実に多種多様。コワ面なルックスとは裏腹にひじょうに器用な音楽家なのだ。最近ではルーツに帰り、アコースティック弾き語りによる東海道五十三次ツアーを行い、改めて歌手としての魅力もアピール。

とにかく、歌謡曲がJポップと佇まいを変えても、ジャパニーズ・ミュージック・シーンの重鎮であることには変わりがない。顔と名前だけで仕事ができる大物だ。

\*骨太のロック/ブルース・サウンドで新録したデビュー30周年記念アルバム。キャリアを重ねても、宇崎のツッパリ・スピリットは健在で、ムンムンするような紫煙と酒と夜の街の匂いをまき散らしている。

\*湯川れい子、伊集院静と名手たちが描く渋い人生のひとコマや滋味豊かな言葉たちを、宇崎は陽気にコミカルに、そして常に温かなまなざしで歌いあげている。従来の日本のR&Bとは一線を画す、バーボン片手に大人が酔える甘く切ないバラード集。

\*最近は何やら訳わかんない人だったけれど、気の合う仲間と作り上げた本作は中年男の悲哀を適度に枯れたヴォーカルで切々と歌い上げおり、若者言葉で言うならめっちゃシブってやつだ。太鼓を叩くのもいいけれど、やっぱりこの人には歌って欲しい。

40代の間人がロックンロールへのときめきを歌い、置き忘れてきたものを取り戻せと歌うのは、頼もしいかぎり。

#### 人物・概要

明治大学時代は吹奏楽部に所属し、トランペットを担当していた。

エドワーズ、ホットミルク(アイスマルク)、松崎しげるなどのマネージャーをしながら、グループサウンズのジュリーとバロンで作曲家としてデビュー。マネージャー時代にドサ周り営業中

にステージに乱入・トランペットを吹いて肝心の商品（歌手）より目立ってしまうというエピソードもある。1973年にダウン・タウン・ブギウギ・バンドを結成。シングル『知らず知らずのうちに』でデビューするも全くヒットせず。1975年に出した「スモーキン・ブギ」がヒットし、つなぎルックと共に脚光を浴びる。そうこうしてるうちにアルバム中の『港のヨーコ・ヨコハマ・ヨコスカ』が人気となりシングル用に再録音してリリースしたところ大ヒット。曲中のセリフが流行語にもなった。また、この曲をもとに映画まで作られた。

1980年にバンド名を「ダウン・タウン・ファイティング・ブギウギ・バンド」に改名、翌年解散。

ソロ活動は解散以前から山口百恵等に作曲家として曲を提供したり、映画『曽根崎心中』（1979年）、『TATOO（刺青）あり』（1982年）に主演するなどしていたが、解散後はさらにドラマ出演、映画・舞台音楽や監督など多方面に進出。

1984年には今までにない新しい音楽にチャレンジするために「竜童組」を結成。（1990年活動休止。）

1993年には元ザ・スパイダースの井上堯之と共に大人のロックバンドを目指すため、「どちらかが死ぬまで続けよう」との約束で「宇崎竜童 & RUコネクション with 井上堯之」を結成。1998年に活動休止するが、二人の約束は今でも続いている。

ラブ・ポーションのデビューの際は推薦者として名代となる。（Diana Ross Presents Jackson Fiveのような感じで、ハロプロにおけるつんく的作用）

サザンオールスターズの曲『Hey! Ryudo!』のモデルであり、『ごめんねチャーリー』の歌詞にも登場する。

過酷な作曲、演奏活動の末に難聴を患い、音楽活動を控えた時期もあった。現在は補聴器を使用しながら作曲などをこなしている。

\*リーゼントヘアとつなぎのイメージが強い為、いわゆる横浜銀蠅のようなヤンキーロックン・ローラーと思われがちであるが、明治大学を卒業しており、性格も至って真面目で礼儀正しく親切である。未だにこのギャップを知り驚く人がいる。（但し、例に挙げた横浜銀蠅も本当の不良出身者ではなく、大学卒業者が多い）

同様にルックスから暴走族出身やもしくはバイク好きのように思われているが、実際にバイクの免許を取得したのはこのイメージが出来上がってから随分後である。一時は数々のレースに出場したり、友人の風間深志、高橋伴明、根津甚八らとツーリングチームを結成するほどバイク熱が高まっていたが、生来の飽き性のためバイクもあっさり興味を薄れてしまい、現在はバイクよりも自転車を使用する方が多いという。

\*やはりルックスから酒に強そうなイメージを持たれていることが多いが、実はまったくの下戸であり、大の甘党である。特に饅頭やケーキなどには目がない。

これもまた見た目のイメージだけで、スポーツ好きと思われる傾向があるが、実際には極度のスポーツ嫌い。

主な曲

ダウン・タウン・ブギウギ・バンド

知らず知らずのうちに (1973.12)

スモーキン'ブギ (1974.12)

カッコマン・ブギ/港のヨーコ・ヨコハマ・ヨコスカ (1975)

商品には手を出すな! (1975)

裏切者の旅 (1976)

涙のシークレット・ラヴ (1976)

沖縄ベイ・ブルース (1976)

サクセス (1977)

身も心も (1977)

乾いた花 (1978)

欲望の街 (1979)

主な提供曲

五木ひろし：蝉時雨

内藤やすこ・思い出ぼろぼろ

山口百恵：横須賀ストーリー・夢先案内人・I CAME FROM 横須賀・イミテーション・ゴールド  
・乙女座宮・プレイバックPart2・絶体絶命・美・サイレント・愛の嵐・しなやかに歌って・謝  
肉祭・ロックンロール・ウィドウ・さよならの向う側

シングル

Don't look back/亡きジョン・レノンとヨーコ夫人に捧ぐ (1981)

炎の女/九月の冗談クラブバンド (1981)

愚かしくも愛おしく/Love is End (1982)

地平線/DAY DREAM (1983)

絶体絶命/横須賀ストーリー (1997)

森は生きてる。(1997年) 非売品

BABY/Remember (1998年11月26日)

欲望の街/Hushaby Seagull/サクセス (2003)

知らず知らずのうちに/200X/生きてるうちが花なんだぜ (2003)

I'm proud of you/幻の通販生活/I'm proud of you (just guitar just vocal) (2004)

アルバム

『Blossom - 35』 (1981年5月)

01.無風地帯/02.Rock'n Roll Widow/03.川崎-Blossom/04.My Soul Town/05.One Night ララバ  
イ/06.Don't Look Back/07.Tell Me Truth/08.夜光虫/09.ロック魂/10.悲しきJ.O.Y 亡きジョン  
・レノンとヨーコ夫人に捧ぐ

『R.U / Debut』 (1982)

01.Slash/02.B級パラダイス/03.炎の女/04.Southern Wind/05.雨の殺人者/06.ハッシャバイ  
・シーガル/07.Pretender/08.Tattooあり/09.Together Again/10.Japanese 01.知らず知らずの  
うちに/02.恋のかけら/03.裏切者の旅/04.沖縄ベイ・ブルース/05.涙のシークレット・ラヴ

／06.身も心も／07.鶴見ハートエイク・エブリナイト／08.愚かしくも愛おしく／09.Hushaby Seagull／10.新宿レイニーナイト／11.アダムな夜／12.GOD BLESS TOKYO／13.紅蓮（新曲）／港のヨーコ・ヨコハマ・ヨコスカ（21世紀バージョン 都はるみ、小林幸子がコーラス参加）  
01.ALL THE WAYHOME／02. 悪女その一／03.200X／04.ベスト・メッセンジャー／05.誰もいない八月／06.無沙汰／07.幻の通販生活／08.ピエロ達の季節／09.GIFT～山口百恵さんに感謝をこめて／10.沙々美 My LOve／11.千の憧れ 千の恋唄／12.悪女その後／13.生きてることが花なんだから／14.Se Va 切なくて／15.ピカレスク／16.MAN／17.プロスペロー 愛のテーマ

#### 映画

港のヨーコ・ヨコハマ・ヨコスカ（1975年）

トラック野郎 御意見無用（1975年）

曽根崎心中（1978年 映画初主演）

駅 STATION（1981年・東宝 日本アカデミー賞助演男優賞）

TATOO<刺青>あり（1982年）

上海バンスキング（1984年 日本アカデミー賞助演男優賞）

どら平太（2000年）

#### 監督

魚からダイオキシン

ROCK is SEX さらに相棒

#### 音楽

学校の怪談4

社葬

生きてるうちが花なのよ死んだらそれまでよ党宣言

海燕ジョニーの奇跡

少年ケニヤ

カムイの剣

晴れ、ときどき殺人

ミスター・ミセス・ミス・ロンリー

TATOO<刺青>あり

駅～STATION

曽根崎心中

港のヨーコ・ヨコハマ・ヨコスカ

嗤う伊右衛門

秘密

不気味で、暗く不可解な世界。コリンズやデュ・モーリア、クラフトをはじめ、それに現代性を加味したパトリシア・ハイスミスなどに通じる世界。日本のホラーとは、基本的に違う感じがあるが、不可思議で残酷で妖しい世界。この所、ゴスロリの原点として、再評価されはじめたバンド。

(詞・Gackt 曲・KoZl)

何かに導かれ 森の中を歩いていた幼い僕は 不思議にもただ---光を放ち彼を待つ少女の人形と互いに見つめ合う 綺麗な夜だから哀しい夜だから---

(収集プロフィール)

MALICE MIZER (マリスミゼル) は、1992年8月結成のヴィジュアル系バンド。2001年12月31日をもって活動を休止中。

バンド名は「悪意と悲劇」から作られた造語。人間の喜怒哀楽を表現することを目指し数々の曲を発表。

中世ヨーロッパを彷彿させるきらびやかな衣装、宝塚、いや紳士淑女たちが集う舞踏会のごとく荘厳かつ大仰なステージ、メンバーの強烈な個性。日本音楽シーンにおいて、唯一無比のアイデンティティを誇ったロック・バンド、それがマリス・ミゼルだ。

92年、MANA(g&syn)とKOZl(g&syn)を中心に結成。ヴィジュアル系ライブハウスの目黒鹿鳴館を拠点に活動、「悲劇の晚餐」と銘打たれたイベント・ライブが好評を博し、着実にファンを獲得していく。94年には新ヴォーカリストとしてGacktが加入し、最強の布陣となった。97年、シングル「ヴェル・エール～空白の瞬間の中で～」にて満を持してのメジャー・デビュー。シーンに熱狂的に迎えられる。翌年には、1stアルバム『merveilles』をリリースし、オリコン・チャート第2位を記録する。ゴシック・ロック風の刹那的で哀愁に満ちたサウンド、中世地中海の香り漂う耽美的な詞世界は、聴くものに猛烈なノスタルジーを呼び起こす。さらに、全国ツアーにおいてもすべての会場が即日ソールド・アウト。しかし、順風満帆であるかに見えた矢先の99年、Gacktが脱退、さらに追い討ちをかけるかのように、Kami(dr)が急病によりこの世を去る。

グループの存続が危ぶまれるなか、99年11月、シングル「再会の血と薔薇」で見事復活。00年にはKlahaをヴォーカルに迎え、作品制作にライブ、映画出演と活躍をみせる。――が、01年をもって活動停止することを発表した。

言わずもがな、Gacktがヴォーカルを務めていた伝説のバンド、97～98年発表のシングルを完全網羅。メルヘンか妖艶か、歓喜か憂いか、包容か攻撃か、相反する表情を併せ持った、唯一無二のドラマティックな世界感は、今なお新鮮かつ刺激的といえる。

いつもながらのゴージャスで耽美な世界にどっぷりと浸りたい。

究極のビジュアル系と言われている5人組。初回限定のブック型ケースを開くと、もはや異形の者と化したメンバーの姿が。音の方はクラシカルなヨーロッパピアノ・お耽美ロック。ビジュアルの幻想世界と比べるとちょっと線が細い。

主なメンバー

Klaha (クラハ) - 3代目ヴォーカル (Klahaとしてソロ活動中)

Mana (マナ) - ギター&シンセサイザー (現在、Moi dix Mois (モワ ディス モワ)として活動中)

Közi (コウジ) - ギター&シンセサイザー (現在、EVE OF DESTINY及びソロとして活動中)

Yu~ki (ユウキ) - ベース

Kami (カミ、旧名：右狂 (ウキョウ/神村右狂)、1999年6月21日に逝去) - ドラム&パーカッション  
過去に在籍したメンバー

TETSU (テツ) - 初代ヴォーカル

Gackt (ガクト、神威楽斗) 2代目ヴォーカル&ピアノ

GAZ (ガズ) - ドラム

#### 略歴

1992年8月、前身のバンド「摩天楼」を脱退し、アルバイト先で知り合った、リーダーManaとKöziが、結成。

1993年3月にドラムのGAZ(現：Knueklid Romance)脱退後、神村右狂(後に右狂→Kamiと改名)がサポート加入し、6月20日、正式メンバーとして、神村右狂が加入し活動開始。

同年『BRAIN TRASH』『SPEED OF DESPERATE』『SANS LOGIQUE』『SADNESS』音源リリース。

1994年7月24日、『memoire』をシリアルナンバー入り3000枚限定6曲入りでリリース、予約で完売となる。

12月10日、第2期ラインナップ (Gackt、Mana、Közi、Yu~ki、Kami) での初音源『麗しき仮面の招待状』リリース。

1996年6月9日にはフル・アルバム『Voyage Sans retour』をリリース。

1997年に日本コロムビアと契約し、7月19日にフランスロケを敢行した映像作品を加えた初回限定版シングル『ヴェル・エール～空白の瞬間の中で～』(通常版同年8月6日発売)を発売。

1998年7月28日の横浜アリーナ公演を最後にGacktが失踪、事実上脱退。さらに翌年1999年の6月21日にはKamiがくも膜下出血で急逝。しばらくの間ヴォーカリスト不在のまま残された3人での活動となる。

同年9月に日本コロムビアとの契約を切りMidi:Nette M.†M (ミディネット エーム・クロワ・エーム) を設立し独自レーベルでの活動に戻る。事実上のインディーズからの再スタート。

同年11月3日、6th Single『再会の血と薔薇』はヴォーカル無しの3人となって初のシングルをリリース。

2000年7月26日、8th Single『白い肌に狂う愛と悲しみの輪舞(ロンド)』で異例のヴォーカルのサポートヘルプメンバーとしてKlahaが同曲に参加。7月、Klahaが正式に3代目ヴォーカリストとして加入。

2001年12月31日、メンバーそれぞれの自由な発想により各々の活動を展開しようという考えから2001年いっぱいをもちMALICE MIZER活動停止と発表(発表は同月11日)。

#### 概要

楽曲・衣装・セットの点において、中世ヨーロッパを基軸とした独自の世界観を生み出し、着実

にファンを増やした。メジャーデビューが遅かったせいでLUNA SEAなどの次に出てきた新しい世代の新人バンドと思われがちだが、彼らと同程度の歴史を持つバンドである。

楽曲の大きな特徴はクラシック音楽とロックを巧みに織り交ぜた点にある。これはメンバーの多くが幼少期にクラシック音楽に触れていたことによる。衣装は白塗りの顔に中世ヨーロッパ文化を織り交ぜたものが大半を占めるが、あるメンバーには十二単調の衣装なども存在し、アーティスト写真によっては、各々バラバラのコンセプトととれるような衣装を纏っていたこともあった。

また、ギターのManaはファンから「Mana様」の愛称で呼ばれ、表舞台では徹底して喋らない(因みにトークイベントなどの際には、隣に「通訳」の人員を置き、「耳打ち」によって間接的に発言する。現在のMoi dix Moisとしてのヨーロッパでのイベントの際には、この「耳打ち」の光景に歓声があがるという)。

1998年12月にGacktが突如行方不明になる。1999年1月にファンクラブ広報で正式に脱退を表明。さらに同年6月21日、ドラムのKamiの突然の死と不慮の事態が続く。2001年12月に「各メンバーの自由な活動展開を」との考えから音楽活動を停止した。

シングル

インディーズ

SANS LOGIQUE(1992年10月)(デモテープ)

THE 1TH ANNIVERSARY(1993年10月)(デモテープ)

SADNESS(1993)(デモテープ)

麗しき仮面の招待状(1995)

ma chérie～愛しい君へ～(1996)

再会の血と薔薇(1999)

虚無の中での遊戯(2000)

白い肌に狂う愛と哀しみの輪舞(2000)

Gardenia(2001)

Beast of Blood(2001)

真夜中に交わした約束～薔薇の婚礼～(2001)

Garnet～禁断の園へ～(2001)

メジャー

ヴェル・エール～空白の瞬間の中で～(1997)

au revoir(1997)

月下の夜想曲(1998)

ILLUMINATI [P-type](1998)

Le ciel ～空白の彼方へ～(1998)

アルバム

インディーズ

memoire(1994)(初回版3000枚限定)

memoireDX(1994)

Voyage Sans retour(1996)

薔薇の聖堂(2000)

メジャー

merveilles(1998)

La Collection des Singles -L'édition Limitée-(2004)

La Collection des Singles(2006)

La meilleur selection de MALICE MIZER(2006)

VIDEO/DVD

ヴェル・エール~空白の瞬間の中で~de l'image (1997)

merveilles ~終焉と帰趨~ l'espace (1998/2002)

merveilles-cinq (5) parallele- (1999/2002)

再会の血と薔薇 ~de l'image~

神話 (Kami's MEMORIAL BOX) (2000)(Kamiの遺した作品をメンバーの手で完成させたもの、CD & VIDEO)

薔薇に彩られた悪意と悲劇の幕開け (2000)

sans retour Voyage“derniere”~encore une fois~ (2001)

薔薇の軌跡 (2001)

Beast of Blood~de l'image~ (2001)

薔薇の伝承 序章 (2001)

Cardinal (2002)

薔薇の婚礼 (2002年)(初主演映画)

Sélection de performances live(2007)

映画

薔薇の婚礼 (2001年)

第三期メンバー主演による吸血鬼映画。モチーフは「ドラキュラ

「ガッツだぜ!!」のほうが、一般性があるが、特異な設定でインパクトも強い。このテーマの唄というのは、コミックソングを除いて、あまり例を見ないと言っているだろう。この曲は、キチンとした唄として成立している。サウンドの音楽性、歌唱の引き起こす情景想起や広がり、など。

(詞・曲 トータス松本)

友だちはみんながみんな お前に金を貸すために 背広着たり 机にしがみついたり ヘコヘコしたり してるわけじゃない---エンガチョ寸前 とどめをみまうぜ!

(収集プロフィール)

ウルフルズ (ulfuls) は、日本のロックバンド。1988年に結成。1992年、東芝EMIからシングル『やぶれかぶれ』でデビュー。公式ファンクラブ名は「ウルフルクラブ」である。

「ガッツだぜ」「バンザイ」のメガ・ヒットで一躍国民的人気ロック・バンドとなったウルフルズ。しかし、ソウル/ファンク/R&B/R&Rといったアメリカン・ルーツ・ミュージックをこよなく愛し、そして大衆的ポップ性とリアルな表現欲求との間に発生する「ジレンマ」と常に戦ってきた“生粋のロック・ミュージシャン”であることは忘れてはならない。

90年、シングル「やぶれかぶれ」にてデビュー。コアなロック・ファンの間でのみ高い評価を受け、まさに知るひとぞ知る存在であった彼ら、一般的な認知度はまだまだであった。転機となったのは、伊藤銀次をプロデューサーとして迎えた94年のアルバム『すっとばす』であろう。お得意のソウル・フレイヴァーに関西的な人情/面白テイストを付加——結果、ウルフルズ独自の「ダサカッコいい」お馴染みのスタイルが確立したのだ。そして95年、ディスコ・ビートを大胆に取り込んだ「ガッツだぜ」の大ヒットへと繋がっていった。

99年には人気メンバーであるジョンB.チョッパーが脱退——動向が心配されるなか、同年、男気あふれる会心作『トロフィー』を発表。その健在ぶりに安堵の声があがった。以降も安定した人気を保持していくウルフルズ、01年には坂本九のカヴァー曲「明日があるさ」が久々のビッグ・セールスを記録した。

02年12月には、これまでの集大成とも言える『ウルフルズ10周年5時間ライブ!! ~50曲ぐらい歌います~』を敢行、大盛況を博す。そして、同ライブにも出演したジョンB.チョッパーが03年に正式復帰!

熱さやせつなさを見事に表現しきるヴォーカル、ユニークな歌詞はもとより、貫禄の演奏力と色あせないバンド感がとことん楽しめる。

彼らならではの人間味あふれる詞とメロディは疲れた心を癒し、前に進む力を与えてくれる。温かな風景をイメージさせる、ハートウォーミングな歌声と親しみやすいサウンドが魅力的だ。

情熱のラテン・ビートにのせてトータス松本の哀愁のヴォーカルが炸裂する「両方 For You」、「アリナミン」のCMでもおなじみ、メロディアスで沁みる応援歌として疲れている人の心を潤す「泣けてくる」。

情熱を忘れずに進め、とアピールする人生応援ソングだが、もちろん、それは自らに対して

のメッセージでもあるはず。さすがに説得力が違う。ソウル歌謡の「恋の涙」にも彼らの底力を感じる。

気がつくとなりノリノリになっていたり、胸をキュンとさせられたり、思わずプツと吹き出したり。楽曲そのもののパワーに加え、グイグイと前へ出てくるヴォーカルにあらためて圧倒される。

彼ららしいストレートな「暴れだす」と子供に語りかけるような温かい「大丈夫」からは、彼らの音楽性の深さを感じ取れる。

## 概要

1988年、英語の歌詞を用いたネオ・サイケバンド、D'fで活動していたウルフルケイスケが、大阪・中津のインド喫茶「カンテ・グランデ」（通称：カンテG）のバイト仲間であるトータス松本を何度かセッションに誘ったのち、D'fを脱退。松本らとともにウルフルズを結成。その後、ドラマーが脱退したため、客としてライブに来ていたサンコンJr.を勧誘。バンドに迎え入れた。バンド名は、メンバーお気に入りのLPレコードのジャケットの帯にあった「ソウルフル」が改行のため「ウルフル」と読めたことに由来する。オオカミとは無関係。

1990年6月に東京での初ライブ。1992年5月13日に東芝EMIからシングル『やぶれかぶれ』でデビュー。6月17日ファーストアルバム『爆発オンパレード』をリリース。

1996年、6枚目のシングル『ガッツだぜ!!』、続く7枚目のシングル『バンザイ ～好きでよかった～』、サード・アルバム『バンザイ』をリリース。アルバム『バンザイ』は100万枚を超える累計売上を記録した。同年、NHK紅白歌合戦に初出場。その際「『ガッツだぜ!!』の歌詞の一部が卑猥だ」として歌詞を変えるか否かが問題となり、最終的に一部分のみを変更した。

1999年、ベース担当のジョン・B・チョッパーが脱退し作家に転身。3人編成となる。

2001年、『明日があるさ』をリリース。同年、吉本興業オールスターズとも言えるRe:Japanとのコラボレーションで再び紅白歌合戦に出場した。

2002年『ウルフルズ10周年5時間ライブ!! ～50曲ぐらい歌います～』にジョン・B・チョッパーが出演。2003年6月1日に日比谷野外音楽堂にて行われたフリーライブにて正式に復帰、再び4人編成となった（ジョン・B・チョッパー脱退時、ライブやレコーディングを支えていたベーシストは、順にCHIROPOLYN、上野イチロー、高橋"Jr."知治の3人である。2000年以降2007年現在まで、ライブはキーボードの伊東ミキオを加え、5人で行っている。一部イベントやライブを除く。大々的に一般募集もしたが、かなりの応募があったが適役がいなかったとのこと。

2003年に発売された『ええねん』は関西では「この年の日本シリーズで日本一を逃した阪神タイガースのファンの気持ちを代弁する曲」としても受け入れられたという見方がある。もっとも、この曲が完成したのは阪神タイガースがリーグ優勝を決める2か月近く前のことである。『ええねん』は地元大阪のラジオ局FM802のOSAKAN HOT 100ではJ-POPとしては最長の9週連続1位を記録した。

2007年1月1日にワーナーミュージック・ジャパンに移籍。同時に、2007年に発売するシングル『情熱 A GO-GO』の歌詞を発表した。

## メンバー

トータス松本（ボーカル、ギター）

ウルフルケイスケ (ボーカル、ギター)

ジョン・B・チョッパー (ベース、コーラス)

サンコンJr. (ドラム、コーラス)

シングル

やぶれかぶれ (1992)

マカマカBUNBUN (1993)

世の中ワンダフル (1993)

借金大王 (1994)

すっとばす (1994)

トコトンで行こう! (1995) (MAXI)

大阪ストラット・パートII (1995) (MAXI)

SUN SUN SUN'95 (1995) (MAXI)

ガッツだぜ!! (1995)

バンザイ ~好きでよかった~ (1996)

ブギウギ'96 (ツギハギブギウギ) (1996) (MAXI)

そら (1996年7月3日)

コマソンNo.1 (1996) (MAXI)

それが答えだ! (1997)

かわいいひと (1997)

しあわせですか (1997)

まかせなさい (1998)

あそぼう (1998)

ヤングソウル ダイナマイト (1999)

夢 (1999) (MAXI)

明日があるさ (2001) (MAXI)

ナニワゲノム ~ウルフルズ・メガミックス・メドレー~ (2001) (MAXI)

がむしゃら ~熱くなれ~/事件だッ!! (2001) (MAXI)

笑えれば (2002) (MAXI)

ええねん (2003) (MAXI)

バカサバイバー (2004) (MAXI)

暴れだす/大丈夫 (2005) (MAXI)

サムライソウル (2006) (MAXI)

情熱 A GO-GO (2007) (MAXI)

両方 For You / 泣けてくる (2007) (MAXI)

たしかなこと (2007) (MAXI)

オリジナルアルバム

爆発オンパレード (廃盤 : 1992、再発 : 1994)

すつとばす (1994)

バンザイ (1996)

Let's Go (1997)

ウルフルズA・A・Pのテーマ

ハートに突きさされ

それが答えだ!-Albumバージョン-

おやすみ東京

Give Me,チャンスをくれよ

Let's Go Monday

ツギハギブギウギ'97-Albumバージョン-

反省なんかしない

年齢不詳の妙な女

早いとこ去れ

そら-Albumバージョン-

サンキュー・フォー・ザ・ミュージック (1998年6月17日)

サンキュー・フォー・ザ・ミュージック

まかせなさい

愛してる

かわいいひと

全日本昔話選手権

元気を出して

アタマはカラッポ

アホらしい

やだぜ

しあわせですか

星を見ていた

あそぼう

トロフィー (1999)

ヤングソウル ダイナマイト

メゲメゲ2000

ワルツ!

夢

このままでいよう

ホンキーマン

ユーレイ

心

A・A・P-FUNK ～DO-YA,みんな!～

いくつになっても

小・中・高・大～トロフィーをかかげよう～

ウルフルズ (2002)

事件だッ!

愛撫ガッチュー

笑えれば

ゆーなかれ

ランデブーチョ

オヤジのうた

ツーツーウラウラ

春夏秋冬

がむしゃら～熱くなれ～

バカだから

エンジェル

ええねん (2003)

DISC 1

ええねん

たった今!

愛がなくちゃ

男の中の男

クルマン

手をつないで

アホでケッコー

忘れちまえ

思い出せ

アニマル

おいでよチャチャチャ

そばにいるのは誰

君にささげよう

いっさいがっさい (恋泥棒編)

夕方フレンド

DISC 2 : A John B CD

Sleep John B

風に吹かれている場合じゃない

9 (2005年2月23日)

YOU (2006年3月8日)

ぼくのもの(YOU version)

サムライソウル(Album mix)

Yeah Yeah

39 (サンキュー)

ひとり歩き

外面キング

いやんなる

プリプリベイビー

かわいいひとII

口ぐせ

なんてサイコー

あふれだす

KEEP ON, MOVE ON (2007)

たしかなこと

情熱 A Go-Go

花さかフィーバー

泣けてくる

カッコつけて

あんまり小唄

キーボン節

ムーボン音頭

開けてけ！心のドア

恋の涙

胸の...

両方 For You

四人

「イカ天バンド」の、生き残り。私は、「イカ天」は、60%くらい見ている。勤めていたので、全部は見られなかったのだ。曲としては「夏祭り」の方が、一般性があるが、やはり当時、この曲の新鮮さが、世に与えた刺激とインパクトとは大きい。しかし、ヒステリックなイヤリング、ってどんな物なのだろう。

(詞・曲 破矢ジント)

あなたが私にくれたもの キリンがさかだちしたピアス---あなたが私にくれたもの シャガールみたいな青い夜---あなたが私にくれたもの ボートネックのしまのシャツ---

(収集プロフィール)

JITTERIN'JINN (ジッターリン・ジン) は日本の音楽バンドである。奈良県大和郡山市出身。うた心、に関して言えば、間違いなく日本一のロック・バンド。89年から90年代初頭に放たれた「エヴリディ」「プレゼント」「にちようび」「夏祭り」「相合傘」などの至高の楽曲群。僕らはセンシティブなハートを激しく高ぶらせたものだ。それらはまさに青春のアンセムと呼ぶにふさわしかった。

一度聴いたら耳にこびり付いて離れない強烈なフックを宿したメロディ。歌えるほどキャッチーなギター・ソロ。とびっきりキュートなボーイッシュ・ヴォイスで綴られるドキドキ・ワクワクな恋模様。スカ/ロカビリー/歌謡曲/パンクのフレイヴァーを巧みに取り入れた“粋”なバンド・アンサンブル。CDプレイヤーの再生スイッチを押した瞬間、僕らの眼前に広がるすべての風景は、甘く切ないジッターリン・ジン世界に切り替わるのであった。

また、スカ・パンク・シーンにおいての絶大なるリスペクトに起因してか、近年再評価の波が巻き起こっているようだ。00年には久々のアルバム『TENTASTIC!』をリリース。泣く/踊る/歌う、という彼らの魅力がみっちり詰まった、充実の出来栄である。

結成から16年経ってなお精力的なライブ活動を続けているジッターリン・ジン。1年半ぶりの新作は、パンク、ロカビリー、ナツメロ歌謡、ガール・ポップなど色とりどりのサウンドが詰まったジェリービーンズみたいな一枚。その瑞々しさに敬服することしきり。

デビューから10年を経ても自分たちのスタイルを変えることない、マイ・ペースさがサウンドにも表われている。一曲一曲の趣が伝わってきて、気がつくとき口ずさんでしまうような心温まる曲ばかりだ。

「イカ天」に端を発したバンド・ブームの象徴ともいえるジッターリン・ジンのベストは、デビュー曲をはじめ、今聴くと懐かしい曲ばかり。彼らが人気を博したのはギタリスト&コンポーザーの破矢ジントの類まれなセンスがあればこそである。

ストレート過ぎるうたいかた。一本気過ぎるアレンジ。これ全編そんな調子。なのにせつなくなる。ワクワクできる。彼らは今作で「出来ることしか出来ない」というごくごくシンプルなスタンスをもって、音楽の持つ抜本的な力をさらけだしてくれた。

休業中の時期にリリースされたジッターリン・ジンのベスト。いつも思うんですけど、この人達のビジュアルスタッフは凄い。今回もジャケットが本気。あのぶっきらぼうな歌とシンプルな演奏

の持つ、無意識のリアリティは貴重だったような気がする。

顕著なジャパニース・ノスタルジーが売りの彼らだけにビジュアルも凝る凝る。セルフプロデュース能力に長けた人達ではある。音の方は御存知究極のシンプル。

#### 来歴

1986年に結成。1989年から東京、名古屋、大阪を中心にライブ活動し、同年にはシングル「エヴリデイ」でメジャーデビューし、アルバム『DOKI DOKI』を発表。1989年5月20日、人気オーディション番組『三宅裕司のいかすバンド天国』に出場。5代目イカ天キングとなっていたRABBITを倒して6代目キングとなった。（しかし翌週にはセメントミキサーズに倒され、キングに在位したのは1週だけであった。）

1990年、「プレゼント」「にちようび」「夏祭り」などが大ヒット。「にちようび」はオリコン初登場1位を記録した。

その後、ベースパートのメンバーの脱退、加入を繰り返し、現在はベースにサポートメンバーを迎えインディーズで活動中。

2000年には『夏祭り』をWhiteberryがカバーし、再ヒット。

2008年には、同年秋公開予定の映画『青空ポンチ』の挿入歌と主題歌に『夏祭り』と『恋のルアー』が起用され、「青空ポンチの本」に春川と破矢のインタビューが掲載された。

また、2008年6月頃からオンエアされている「SANKYOフィーバー大夏祭り」のCM曲に『夏祭り』が起用され、7月21日から着うたと着うたフルが配信されている。レコ直ランキング、着うたWeeklyチャートで10位を獲得した（7月30日付け）。

#### 現在

春川玲子（1968～ 、ボーカル・アコーディオン・ハーモニカ・ギター担当）

好きなお笑いはダウントウン。

破矢ジンタ（1965～ 、ボーカル・ギター担当）

入江美由紀（1965～ 、ドラム・パーカッション・オルガン担当）

ハヤト（ベース担当・サポートメンバー）

#### 脱退

浦田松蔵（1964～ 、ベース担当） - 1998年5月脱退

ヒジカタタクミ（ベース担当） - 浦田の後を引き継ぐが、2001年8月脱退

Shinji Yamada（ベース担当） - 2004年頃脱退

#### シングル

##### 一般販売

『エヴリデイ』（1989年10月）

『プレゼント』（1990）

『にちようび』（1990）

『夏祭り』（1990）

東京ヤクルトスワローズのチャンステーマ

CRフィーバー大夏祭りのCMソング

『帰っておいで』（1991）

『サヨナラ』（1992）

TBS系列のテレビドラマ『キレイじゃないぜ』のオープニングテーマに

『プリーズ キス ミー マイ サンタクロース』（1992）

『恋をしようよ』（1995発売）

7インチアナログ盤

『やけっぱちのドンチャラミー（シングル Ver.）』（2000）

『青いカナリア』（2000）

『サムライガール』（2001）

特殊流通販売

『おじいちゃん』（1994）

ファンクラブ入会特典

『サツキマスの唄』（1995年度）

ファンクラブ入会特典

『夏の終わり』（1996年度）

ファンクラブ入会特典

『Listen to me!』（1996年12月発売）

フェリシモ「Santa Book」応募者特典・非売品CD

『浜昼顔』（1997年度）

ファンクラブ入会特典

『ボンボン時計』（1998年度）

ファンクラブ入会特典

『福の神』（1999年度）

ファンクラブ入会特典

『君とどこまでも』（2000年度）

ファンクラブ入会特典

『こいのぼり』（2001年度）

ファンクラブ入会特典

『遊びにおいで』（2002年度）

ファンクラブ入会特典

『大好き』（2003年度）

ファンクラブ入会特典

『猫娘』（2004年度）

ファンクラブ入会特典

『追跡』（2005年度）

ファンクラブ入会特典

『ゲッコーストラット』（2006年度）

ファンクラブ入会特典

『恋のルアー』（2007年度）

ファンクラブ入会特典

オリジナルアルバム

一般販売

『DOKIDOKI』（1989年11月）

1曲目の『アニー』がバラエティ番組『さんまのまんま』テーマソングに

『Hi-King』（1990年2月21日発売）

『パンチアウト』（1990）

初回限定盤は「特製ジッタリンジンボックス」入りで「ジッタリンジン遊戯盤」が付属

『Moonlit Lane』（1993）

『Chick-A-Biddy』（1995）

『here, rattler, here!』（1998）

『TENTASTIC!』（1999）

デビュー10周年記念オリジナルアルバム

『Banzai Attack』（2000）

『Wang Dang Doodle』（2002）

『CARAMBA!』（2008）

通常版(収録曲はツアー会場・ファンクラブ限定販売と同内容)

特殊流通販売

『JINGLE BELLY』（1996）

ファンクラブ限定販売

『CARAMBA!』（2003）

ツアー会場・ファンクラブ限定販売

映像作品

『エヴリデイ』（1989年10月19日発売）

『プレゼント〜ドキュメント11.22』（1990）

『ジッタリン・アワー』（1990）

『ビデオ・アルバム』（1990）

野球の応援歌

高校野球では『夏祭り』がよく演奏される。

『プレゼント』

元千葉ロッテマリーンズ、青柳進のテーマ

『黄金の夜明け』

オリックス・バファローズの三三七拍子・攻撃開始時のテーマ

言葉遊びのような、羅列が楽しい。こういった、ストーリーが希薄で、無内容な曲は、昔からときどき発表されるが、ナンセンス・ソングというのだろうか。聴いていると、意味は無いが、楽しく元気が出てくる。

\*ELOに影響された、きらめくような曲調と不可解な(ナンセンス、無内容)歌詞を持つこの曲は極めて高い音楽性と普遍性、何より気さくなユーモアを備えており、それをジーンズにTシャツ姿のパフィーが「自然体」「脱力系」等と評された、力みのない、しかし計算されたパフォーマンスで表現した。これは、当時Jポップシーンを席卷していた小室ファミリーの緊張感や露骨な向上心の対極に位置するものであり、わずかな市場の隙間かと思われたそのニッチは実はかなり大きなものであった。“小室系”に馴染めない、あるいは飽き足りないリスナーによる支持が生んだ『アジアの純真』のミリオン・ヒットという形で示された。

(詞・井上陽水 曲・奥田民生)

北京 ベルリン ダブリン リベリア 東になって 輪になって イラン アフガン 聴かせて  
バラライカ 美人 アリラン ガムラン---

(収集プロフィール)

PUFFY 大貫亜美、吉村由美の2人から成る女性歌手コンビ。「パフィー声」と称される、ふたりの声が渾然一体となった独特のユニゾン唱法を用いるのが特徴。CD上でのハーモニーは、実際にはその多くで2人がユニゾンで歌うハーモニー・パートを多重録音しており、2人がそれぞれ違うパートを歌うデュオとは異なる。当初は奥田民生プロデュースによる一曲限りのユニットの予定であった。

\*そのイージー・ゴーイングぶりがたっぷりの脱力感をさらに増長。アジアやアメリカなどにおける注目度の高さから見ても、彼女たちから得られる奇妙な心の弛緩は、万国共通に欲されているものだという気がする。まるで一卵双生児のようなヴィジュアルもインパクト強い。

\*「日和姫」椎名林檎が作詞・作曲を手がけたポップかつエッジなナンバー。アニメ『源氏物語千年紀 Genji』のオープニングに起用。

\*「マイストーリー」PUFFYの2008のシングル。作曲をスウェーデンのアーティスト、The Merrymakersが手がけたナンバーで、疾走感たっぷり。

現在

2005年、EPICからKi/oonレーベルへ移籍した。これはソニーM.E内の配置転換である。また、この年「Dream Power ジョン・レノン スーパー・ライヴ」に出演し、ビートルズの「エブリボディーズ・ゴット」などを歌った。

2006年1月、米国での活躍を認められ、日本へ1000万人の外国人旅行者をと言う『ビジット・ジャパン』の米国に於ける観光親善大使に、国土交通大臣より任命された。6月にアルバム『Splurge』を発表し、兵庫慎司の全曲解説が。このアルバムでは、PUFFY自身ソロ名義も含めて6曲を作詞している。同年結成10周年を迎えた。曰く「こんなに続くとは思わなかった」。デビュー10周年を迎えた2006年以後、2枚のベストアルバムがリリースされた。また、『Splurge

』以降の音楽性は、嘗ての様に複数の作曲者から作品の提供を受けるといった傾向に戻っている。

2008年には、アヴリル・ラヴィーンの東京ドーム公演にゲストとしてライブ出演。シンディ・ローパーやSNUFFのトリビュート盤に参加。2009年7月、アルバム「Bring it!」でフランスデビューを果たし、パリで行われたJapan Expoにてライブ参加。

作品（初期略）

19th 2005年11月 Hi Hi 作詞：PUFFY・作曲：アンディ・スターマー

20th 2006 モグラライク 作詞・作曲・編曲：奥田民生

21st 2006 Tokyo I'm On My Way 作詞・作曲：デクスター・ホーランド

22nd 2006 働く男 作詞・作曲：奥田民生

23rd 2007 Boom boom beat/お江戸流れ星IV 作詞：PUFFY・編曲・作曲：アンダース・ヘルグレン、デビッド・マイアー

24th 2007 オリエンタル・ダイヤモンド/くちびるモーション 作詞：井上陽水・作曲・編曲：奥田民生

25th 2008 All Because Of You 作詞・作曲：ブッチ・ウォーカー、アヴリル・ラヴィーン 最高位34位

26th 2008 マイストーリー 作詞：PUFFY・作曲・編曲：アンダース・ヘルグレン、デビッド・マイアー

27th 2009 日和姫 作詞・作曲：椎名林檎 最高位38位

28th 2009 誰かが

彼女の個性は、どこか空々しく、どこか蓮っ葉で、頭の回転が速く、それでいて、どこか間が抜けていて、憎めない。現代の求めるアイドル像に、うまく嵌るのであろう。実力は、見かけよりも、はるかにある。この曲は、佳曲の多い彼女のなかでも、ベスト10に入るクオリティであろう。

あれから半年の時間がながれて やっと笑えるわ 毎日 忙しくしているわ 新しい人生を私なりに歩いている あなたに逢いたくて 逢いたくて 眠れぬ夜は---

(収集プロフィール)

松田 聖子 (まつだ せいこ、1962-) は歌手、女優である。福岡県出身。

世間の妬みやバッシングすらも栄養素にして輝く"ストロングな女"は、文句なしにカッコいい。いつだって自身の欲求に忠実で、時として破天荒。けれど女としての幸福もしっかりと掌握しつつ、自分をまっとうしているような。海の向こうではまっさきにマドンナやコートニー・ラヴあたりが思い浮かぶが、日本ではまがうことなく松田聖子だろう。

80年に「裸足の季節」でデビュー。続く「青い珊瑚礁」のミリオンヒットで一躍トップアイドルへ。恋そのものが息づいているような透き通った歌声、かの"聖子カット"、リボンとフリル満載のコスチュームは、男子のみならず女子をも巻き込んだ一大現象となった。そして、なんといってもアイドル時代の彼女への楽曲提供陣は錚々たる顔ぶれだ。「白いパラソル」以降、一連のヒット・シングルの作詞を手がけた松本隆に加えて、大滝詠一、細野晴臣、鈴木茂といった、「はっぴいえんどフリーク」を狂喜させる面々。呉田軽穂を筆頭とした財津和夫、尾崎亜美、原田真二、南佳孝、来生たかおなどのニューミュージック界の超実力派たち。そういった強力なブレーンに支えられて、松田聖子は名シングル/アルバムを生み出し続け、80年代終わり以降はついにセルフ・プロデュースへと邁進していった。

憧れのスターだった郷ひろみとのロマンス成就→別離→すかさず神田正輝と結婚→出産→ブティック経営→全米デビュー→金髪碧眼青年との浮名→離婚→年下の歯科医とビビビ再婚→再び離婚と、彼女のライフ・ストーリーは、すべての婦女子の羨望を浴びるほどゴージャスだ。時にはマイナス要因があるのも否めないが、どうあろうとも「可愛らしさ」はこれっぽっちも失われない。そして何よりスゴいのは、デビュー20周年を超えた今でも声の透明度になんらかわりがないことだろう。

00年9月には郷ひろみとのデュエット「True Love Story」をリリースして、世間をのけ反らせた。

## 概要

### 1980年代を代表するアイドル

松田聖子は1980年代を代表するアイドル歌手の一人であった。1970年代を代表するアイドル（スター誕生）だった山口百恵が引退した1980年に「サンデーズ」より「裸足の季節」でレコードデビュー。間もなくヒット曲を連発し、髪型や生き方に関しても話題を集めた。大宅壮一文庫創設以来の人名索引総合ランキングでは「松田聖子」が1位（2007年2月）となっており、「雑誌

にもっとも頻繁に登場した著名人」とされている。（参考：2位「長嶋茂雄」3位「田中角栄」4位「山口百恵」5位「皇太子（浩宮）」）。

#### アイドル歌手としての松田聖子

歌手としては1980年の「風は秋色」から1988年の「旅立ちはフリージア」まで24曲連続でオリコンシングルチャート1位を獲得。

楽曲の制作に錚々たるメンバー（松本隆、財津和夫、呉田軽穂、大瀧詠一、大村雅朗、細野晴臣、南佳孝、尾崎亜美、矢野顕子、佐野元春、玉置浩二など）が関与していたのもさることながら、“キャンディ・ボイス”といわれる松田聖子ならではの歌声と表現力が多くの人を魅了してきた。他に、大江千里、小室哲哉、米米クラブといった当時のソニー系若手ミュージシャンたちも作曲に起用されている。

アイドル時代の人気は圧倒的であり、様々な伝説を残した。当時の人気の高さを端的に示す言葉としては「聖子ちゃんカット」と「ぶりっ子」が挙げられる。聖子ちゃんカットとはその名の通り、彼女の髪型を真似た髪型であり、当時の女性の間で大流行した。

ちょっと物憂げでアダルトな味わいを増した声が、浮かれた春一色に染まらぬ、個性的な「聖子ワールド」を繰り広げる。

松田聖子は不世出のポップ・シンガーなのだなあ、と感服。80年代後半からはAOR化が顕著になります、それもまたいいのだ。

#### 音楽家としての松田聖子

1990年代に入ると、作詞、作曲やアルバムのプロデュースにも自ら取り組むようになり、アイドル歌手ではなく、いわゆる「アーティスト」としての活動を展開してゆく。

1990年代のアルバム『1992 ヌーベルバーグ』から『FOREVER』までの6枚はセルフ・プロデュース、全曲作詞作曲が基本となり、シングル曲でも「大切なあなた」「輝いた季節へ旅立とう」などをヒットさせる。特に、1996年発表の「あなたに逢いたくて～Missing You～」は、彼女自身シングルで初めてミリオンセラー。

作詞家としては、極めて個人的な感情を赤裸々にさらけ出す歌詞、あるいは非常に前向きな歌詞を書くことが多い。その一方、作曲家としては長調の曲を好む傾向がある。また、同主調や平行調、あるいは属調や下屬調などの近親転調をアクセントに使う。

現在に至るまで芸能界の一角に確固たる地位を築いている。

#### 松田聖子の生き方

最初はアイドル歌手、そして音楽家として活動を続ける松田聖子であるが、デビューから四半世紀を過ぎ、結婚、出産、二度に渡る離婚を経てもなお、「アイドル」というスタンスを保ち続けている稀有な存在である。

#### 略歴

1962年

3月10日、福岡県久留米市荒木町に、柳川市出身で公務員（厚生省の事務官）の父親と、八女市の農家出身の母親の長女として生まれる。8歳年上の兄がいる。

カトリック系の久留米信愛女学院高等学校に入学する。

1979年

高校3年の時に「サンミュージック」に所属。歌手デビューのため上京し、堀越高等学校に転校。日本テレビ系ドラマ『おだいじに』に「松田聖子」役で出演。

1980年

7月3日、「裸足の季節」で、TBS『ザ・ベストテン』の「スポットライト」コーナーに初登場（11位）。

8月14日、「青い珊瑚礁」で、TBS「ザ・ベストテン」に初ランクイン（8位）。

1981年

8月13日、「白いパラソル」が、TBS「ザ・ベストテン」で番組史上初となる「初登場第一位」を獲得（9072点）。

1984年

父親が公務員を定年退職したことを機に両親を九州から呼び、以降、両親と共に暮らす。

1989年

独立し、個人オフィスの「ファンティック」を設立。

米国進出のため、全米デビューアルバム『Seiko』を発売。米国での歌手活動のため、しばらくニューヨークに住む。元恋人を名乗る外国人による暴露本が出版され、便乗本や報道が相次ぐこととなる。スキャンダル報道を通じて、「永遠の少女」とは異なる「大人の女」のイメージも定着していく。

1996年

再び全米進出を目指すため、デビュー以来所属したソニーレコードを離れ、「ユニバーサル」に移籍する。移籍第1弾「あなたに逢いたくて」が8年ぶりのオリコンシングルチャート1位。

1997年

1月に神田正輝と離婚。離婚のニュースは、芸能報道を越えて各局とも一般ニュース枠でも報じ、号外が出された。

12月、父親が死去（葬儀は、菩提寺である柳川市の良清寺で行われた）。

1998年

5月に6歳年下の歯科医と交際2か月で結婚。会った瞬間「ビビッと来た」というコメントが流行語になる。

2000年

9月にかつての恋人で劇的な別れをした郷ひろみとのデュエット曲「True Love Story」の話があり受諾、発表し世間の度肝を抜く。

2007年

松田聖子を取り上げたドキュメンタリー『松田聖子～女性の時代の物語』（NHK総合）が放映される。視聴率は9.3%（ただし同放送の平均視聴率は5～6%前後とされる：ビデオリサーチ調べ）だった。3月、歌手活動について古巣の「サンミュージック」と業務提携契約を締結。

11月20日、沖縄で24年ぶりの公演（ディナーショー）。

高校時代（久留米信愛女学院）は、明るく快活な横顔の女の子。

歌手志望を口にし両親を説得するにあたり、母親は最初は半信半疑ながらも仕方なく同意。しかし公務員で厳格な父親は娘の芸能界入りには猛反対であり、父親の説得に約1年半を要した。そのため松田聖子のデビューはアイドルとしてはやや遅い（女優デビューは高校3年時、歌手デビューは高校卒業後）。

デビュー後の人気沸騰に伴う殺人的スケジュールの影響か、喉を痛めたと見る向きも多い。

デビュー直後の数曲は声を張りパワフルに歌い上げているが、1981年あたりからややかすれた声質に変わり、可憐さを強調するようなしっとりとした歌唱になっている。

1990年のアメリカでの歌手デビューのために徹底的に英語を学び、CNNのインタビューその他で堪能な英会話力を示し、また2005年の台湾におけるコンサートなどでは北京語も披露している。

1990年代後半は全米デビュー以外にもハリウッドデビューも考えており積極的にオーディションを受け、幾つか端役も得ている。

## シングル

裸足の季節（1980年4月）

作詞：三浦徳子、作曲：小田裕一郎、編曲：信田かずお

青い珊瑚礁（1980年7月）

作詞：三浦徳子、作曲：小田裕一郎、編曲：大村雅朗

風は秋色/Eighteen（1980）

作詞：三浦徳子、作曲：小田裕一郎

チェリーブラッサム（1981）

作詞：三浦徳子、作曲：財津和夫

夏の扉（1981）

作詞：三浦徳子、作曲：財津和夫

白いパラソル（1981）

作詞：松本隆、作曲：財津和夫

風立ちぬ（1981年10月7日）

作詞：松本隆、作曲：大瀧詠一、編曲：多羅尾伴内

赤いスイートピー（1982）

作詞：松本隆、作曲：呉田軽穂、編曲：松任谷正隆

渚のバルコニー（1982）

作詞：松本隆、作曲：呉田軽穂

小麦色のマーメイド（1982）

作詞：松本隆、作曲：呉田軽穂

ガラスの林檎/SWEET MEMORIES（1983）

作詞：松本隆、作曲：細野晴臣

瞳はダイヤモンド/蒼いフォトグラフ（1983）

作詞：松本隆、作曲：呉田軽穂

あなたに逢いたくて（1996）

作詞：松田聖子、作曲：松田聖子・小倉良、編曲：鳥山雄司

I'll Be There For You (1996)

作詞・作曲 Robbie Nevil

哀しみのボート (1999)

作詞：松本隆、作曲：大久保薫、編曲：岡本更輝

上海ラヴソング (2000)

作詞：矢野顕子、作曲：原田真二

素敵な明日 (2002年6月5日)

作詞：松田聖子、作曲：小倉良、編曲：鳥山雄司

逢いたい (2004)

作詞：松田聖子、作曲：原田真二

真夏の夜の夢 (2007年8月1日)

作詞・作曲：松田聖子、編曲：船山基紀

クリスマスの夜 (2007年11月21日)

作詞・作曲：松田聖子、編曲：船山基紀

花びら舞う季節に (2008年3月19日)

作詞・作曲：松田聖子、編曲：Kei Yoshikawa

Love is all (2008年6月25日)

作詞・作曲：松田聖子、編曲：Sachiko Miyano

#### 映画

野菊の墓 (1981年、東映)

プルメリアの伝説 天国のキッス (1983年、東宝)

夏服のイブ (1984年、東宝)

カリブ・愛のシンフォニー (1984年、東宝)

千年の恋 ひかる源氏物語 (2001年、東映)

Shanghai Baby (2007年、ドイツ作品)

火垂るの墓 (2008年) 雪子 (清太の母) 役

2000年発売。イメージ的には、かつてそこに実在したホテルなのだろうが、消え行くもの、滅び行くもの、に掛けて、刹那的に燃えあがった、激しく短い恋を唄っている。心地よいリズム、高揚を促すメロディー。珍しく、お遊びのない、完結する世界。

(収集プロフィール)

サザンオールスターズは、日本の音楽バンド。「SAS」と略記されることもある。文法/文脈がグチャグチャで語感の気持ちよさだけを追求したような歌詞を、まるで英語のような巻き舌で歌う桑田佳祐の破天荒さは、当時の日本では非常にアナーキーであった。ビートルズ、ボブ・ディラン、リトル・フィート、そしてグループ・サウンズといった洋・邦楽を消化したサザン節とも言うべき「歌謡ロック」を威風堂々と展開。78年にラテン・アレンジの「勝手にシンドバット」でデビューし、永遠の名曲「いとしのエリー」でその人気を確かなものにした。

「茅ヶ崎」「えぼし岩」「江ノ島」といった地名・名所を盛り込んだ歌詞は、〈海岸/夏/太陽〉などのイメージを強烈に喚起させ、「湘南サウンド」なるブランド名で呼ばれるようになった。

メンバー

桑田佳祐/リードボーカル、ギター（リーダー）

関口和之/ベース、コーラス、ボーカル

松田弘/ドラム、コーラス、ボーカル

原由子/キーボード、ボーカル、コーラス

野沢秀行/パーカッション、コーラス

大森隆志/リードギター、ボーカル（2001年8月独立）

シングル曲など殆どを桑田が作詞曲を担当。

活動再開～小林とのコラボ、黄金期へ

1988年6月、デビュー10周年の日にシングル『みんなのうた』を発売し、サザンとしての活動を本格的に再開した。ここで初めてサザンに小林武史がアレンジ面、プロデュース業に加わり、それまでのサザンには無い斬新な仕上がりで、その後のサザンライブの定番曲となった。

翌年にはシングル『さよならベイビー』でデビュー11年目にして初のオリコンシングルウィークリーチャート1位を獲得した。桑田は映画『稲村ジェーン』の監督も手掛け、その主題歌『真夏の果実』は売り上げ的に大ヒットにはならなかったが、現在では夏をイメージさせるJ-POPの定番曲となるほどの人気を博している。

1991年には関口が病気療養で休養に入るが、1992年、7月21日に『シュラバ★ラ★バンバ／君だけに夢をもう一度』『涙のキッス』を2枚同時発売。

1993年には『エロティカ・セブン』がフジテレビ系ドラマ「悪魔のKISS」の主題歌に起用され再びミリオンを超える大ヒットを記録。そんな中、1994年には桑田がソロ活動を再開、サザンの活動は約1年間休止となった。

セルフアレンジ時代へ

「危ないヤツ」という表現は、人間性を否定しているものではなく、アレンジャーやミュージシャンとしての才能を存分に評価し、バンドであるはずのサザンのメンバーを差し置いて、小林に頼りすぎてしまうという意味で発言したものである。

1995年、関口が長期の休養から復帰し、5月22日にシングル『マンピーのG★SPOT』で活動を再開。

しかし、1997年あたりからサザンのイメージである「夏」「爽やか」などの売れ線系路線の曲とは程遠い、ハードロックなどを意識した曲を多くリリースするようになり、ライトファン離れが加速。

#### 『TSUNAMI』記録的ヒット

1999年9月26日、27日、ファンクラブシークレットライブ「'99 SAS事件簿 in 歌舞伎町」を行う。桑田曰く「ファンの空気に触れて刺激を受けた」とのこと、その当時レコーディングしていた曲も、方向性がガラッと変わり明るくなったという。翌2000年、1月26日にシングル『TSUNAMI』を発売。この曲は前述のイベントから生まれた曲であり、「売れるものを作った」などと桑田自身も語っている。このヒット以降、サザンはある程度保守的な方向性へとシフトチェンジしていく。

当時大人気だったTBS系バラエティ番組『ウンナンのホントコ!』のコーナー『未来日記III』のテーマソングとなり、名曲「栞のテーマ」を思わせるかのような切ないラブバラードのこの曲は、日本音楽史上記録的な大ヒットとなる。

一方、そのライブが終了した直後大森が休養を発表し、翌2001年には正式に独立を発表しメンバーから脱退した。その前後から桑田らは再びソロ活動を開始。シングル「波乗りジョニー」「白い恋人達」がそれぞれミリオンを超える大ヒット。

#### 25周年での活動再開、再びの活動休止へ

7月、シングル『涙の海で抱かれたい～SEA OF LOVE～』をリリースし活動再開。ただ、ファンの間からは「復活以降のシングルは売れ線ばかり」「『さくら』の頃のようなロックな曲が聞きたい」などとの声も上がっている。2005年には『KAMAKURA』以来の2枚組オリジナルアルバム『キラーストリート』を発売し、『Young Love』以来のミリオンを記録する。2006年にはTHE夢人島Fes.を開催し、サザンオールスターズとしてもプロモーションのため精力的に活動したが、2007年4月には桑田佳祐のソロ活動再開に伴い再び休止することとなった。

#### 現在

デビューシングル「勝手にシンドバッド」から28年以上経った現在でも、老若男女問わず高い人気を集める、まさに日本の“モンスターバンド”である。活動期間が30年近くに渡りながらも、今も尚音楽チャートで1位を獲得したり、オリジナルアルバムがミリオンセラーを記録するバンドはこれまで登場しておらず、四半世紀以上第一線で活躍する唯一無二のバンドである。

デビュー当時こそ“コミックバンド”として扱われていたが、ヒットアルバムの『KAMAKURA』は、日本音楽界の歌謡曲からポップミュージックへの転換を決定付け、『世に万葉の花が咲くなり』などに見られる日本語への拘り、また、軽い楽曲の中にも様々な形で社会風刺を織り込むなど、バンドの方向性も大きく成長した。一部には「似たような売れ線の曲が多い」との批判もあ

るが、イントロを聞いただけでサザンの楽曲であることが分かるような、そんな予定調和的な部分を多くのファンが望んでいることも事実である。実際にヒット曲のいくつかは、そうしたファンのニーズに沿って作成されたものであるが、しかしアルバム収録の曲を例にとれば分かるように、そうした“売れる曲”ばかりがサザンの音楽ではない。数多くの洋楽のエッセンスやパロディを取り入れたコアな音楽もまた、ファンをも引き付ける要因となっている。現在の最新作は、2006年発売の『DIRTY OLD MAN ～さらば夏よ～』となっている。

## 来歴

### 1989年

4月12日、25thシングル『女神達への情歌 (報道されないY型の彼方へ)』発売。

6月7日、26thシングル『さよならベイビー』発売。シングル初のオリコンチャート1位を獲得する。

7月21日、初のベストアルバム『すいか SOUTHERN ALL STARS SPECIAL 61SONGS』を限定発売。西瓜を模した缶に4枚のCDと西瓜模様のトランクとパンティーが入っている。尚、トランクとパンティーは共にサイズや素材等が実用的でない。

11月21日、27thシングル『フリフリ'65』発売。

12月31日、『縁起者で行こう』以来のカウントダウンライブ『いっちゃえ'89 サザンde'90』を横浜アリーナで開催。サザンの曲も演奏したが、エルヴィス・プレスリーやビートルズ等の洋楽のカバーが大半を占めた、試行錯誤が垣間見えるライブだった。

### 1990年代

#### 1990年

7月25日、28thシングル『真夏の果実』発売。

9月7日、桑田の監督作品『稲村ジェーン』公開。

12月31日、年越しライブ『歌うサザンに福来たる』開催。TBS系にて全国ネットで生放送。

#### 1991年

7月10日、29thシングル『ネオ・ブラボー!!』発売。

#### 1992年

7月18日、30thシングル『シュラバ★ラ★バンバ／君だけに夢をもう一度』、31stシングル『涙のキッス』を同時発売。

9月12・13日、コンサート『南天群星 北京で会いましょう』開催。

10月14日、全国アリーナツアー『歌う日本シリーズ 1992～1993』スタート。ツアー初日、アンコールの『夕方HOLD ON ME』で、暫く休養中だった関口和之が登場しタンバリンを叩きながら共に唄い、不仲説や脱退説などの噂を吹き飛ばした。

12月31日、『涙のキッス』で第34回日本レコード大賞。

11月20日、34thシングル『クリスマス・ラブ (涙のあとには白い雪が降る)』発売。

#### 1994年

2度目の活動休止期間に入り、桑田のみがソロ活動を行う。

12月のAAAにサザンとして出演。休養中だった関口も登場し、久々に6人揃った姿をファンに見

せた。

1995年

5月22日、35thシングル『マンピーのG★SPOT』発売、本格的に活動再開。

7月17日、36thシングル『あなただけを』発売。3作目のミリオンシングルとなる。

8月5・6日、サザン復活を記念する野外イベント『スーパーライブ in 横浜 ホテル・カリフォルニア』横浜みなとみらいにて開催。

1996年

5月20日、37thシングル『愛の言霊』発売。4作目のミリオンシングルとなる。

1998年

2月11日、41stシングル『LOVE AFFAIR ～秘密のデート～』発売。

6月25日、デビュー20周年を記念してベストアルバム『海のYeah!!』発売。

7月29日、42ndシングル『PARADISE』発売。

8月8・9日、20周年記念野外ライブ『スーパーライブ in 渚園 モロ出し祭り ～過剰サービスに鰻はネットリ父ウツトリ～』、静岡県・浜名湖畔「渚園」にて開催。

1999年

3月25日、43rdシングル『イエローマン ～星の王子様～』発売。

2000年代

2000年

1月26日、44thシングル『TSUNAMI』発売。シングル・アルバム通しての自己最高セールスを記録。サザン最大のヒット曲に。

7月19日、45thシングル『HOTEL PACIFIC』発売。

11月1日、46thシングル『この青い空、みどり ～BLUE IN GREEN～』発売。

12月31日、『TSUNAMI』で初の日本レコード大賞を受賞。

2002年

大森独立の影響で一時バンド活動休止。主に桑田がソロ活動を行う。

2003年

7月23日、47thシングル『涙の海で抱かれたい ～SEA OF LOVE～』発売。本格的に活動を再開する。

2004年

4月14日、48thシングル『彩 ～Aja～』発売。

7月21日、49thシングル『君こそスターだ／夢に消えたジュリア』発売。

11月24日、50thシングル『愛と欲望の日々／LONELY WOMAN』発売。

2005年

7月20日、51stシングル『BOHBONo.5／神の島遙か国』発売。

2006年

8月9日、52ndシングル『DIRTY OLD MAN ～さらば夏よ～』発売。オリコン初登場1位を獲得、シングル通算TOP10入り週数が240週となり、山口百恵を抜き歴代単独1位となる。

2007年

4月、桑田のソロ活動決定が発表され、再びバンドでの活動を休止。

今年の6月だったろうか、渋谷からの帰り、人混みのなかを、地下へ地下へと歩いていると、なぜか眼の端に、反対方向を歩いている、どセンスな渋茶のレインコートを着て、黒い鞆をさげ、浮いている背の高いオジジの姿が。梅雨に近い時期だったが、その日はときに小雨ていどで、周囲の人たちは、ほとんどコートなど着ていないのに。はじめは、それで眼についたのは確かだが、私はすぐにハッと気づいた。このオジジは、私が勤めていた団体の、ほかの部署にいた人。すでに6年も過ぎていて、特に親しかった2、3の人以外は、私も忘れはじめていた。覚えていたのは、毎年、異動・昇格の時期がくると、私を色々なアテ馬に引っ張り出しては、いつも苦しめていた、オジジたちのひとりだったからだ。不用意に注視したせいか、相手もハッと気づいたようだった。私は、前を向き、何事もなかったかのように、歩き出した。けれど、心の中では「この、クソジジイ!!」と、怒鳴りつけたい気分だった。

この名曲のように、切なく美しく、浪漫ちっくな回想は、私には縁遠いことを再確認させられた感じ。何だか、とても切ない、ではないか。

見覚えのある レインコート 黄昏の駅で 胸が振るえた はやい足どり まぎれもなく 昔愛してた あの人のね---

(収集プロフィール)

竹内 まりや (たけうち まりや、1955年3月～) は、日本のミュージシャン。自称「シンガーソング専業主婦」。ペンネームはMiyabi。曲を提供する際に用いている。夫は山下達郎で、一女がいる。デビューがアイドル不在の時期と重なったため、当初はそのルックスも相まって、アイドル歌手のような役割を担わされた。

#### 略歴

元大社町長で出雲大社近くの老舗温泉旅館「竹野屋」主人・竹内繁蔵の娘。世界で通じるようにとの父の考えから「まりや」と名付けられる。島根県立大社高等学校在学中に、アメリカ・イリノイ州ロックフォールズ(Rock Falls)高校に1年間留学。この留学は、AFS (高校生の交換留学団体) の交換留学制度で行ったものである。

慶應大学文学部に進学する。在学中に音楽活動 (杉真理の所属する「ピープル」旧リアル・マッコイズ) を始める。このサークルで竹内は鈴木慶一の従妹の宮悦子、現在は料亭で女将業の中山ゆき子らとともにバックコーラスグループもやっていた。このサークルは第8回ポップコン関東・甲信越大会 (1974年9月7日中野サンプラザ) に「踊りに行こう」という曲で参加しているが、同大会には別グループとして佐野元春 (バックレイン元春セクション)、庄野真代、桐ヶ谷仁 (フェードイン。現在は松任谷正隆の経営する音楽学校講師) も参加していた。1978年11月25日にRCA/RVCよりシングル『戻っておいで・私の時間』、アルバム『BEGINNING』でデビュー。大学では英文科に進んだが、厳しいことで有名な唐須教光のゼミと音楽活動の両立ができなくなり中退。のち、1979年のシングル『SEPTEMBER』、1980年のシングル『不思議なピーチパイ』などがヒットする。デビュー当初は、安井かずみ・加藤和彦夫妻や松本隆などが提供するアイドルソング的な曲を歌っていたが、これに飽き足らず間もなく自ら作詞・作曲を手がけるようになった

。

この頃アレンジャーとして彼女の前に登場したのが、後に公私共に良きパートナーとなる山下達郎である。もっとも、デビュー以前からまりやはシュガー・ベイブや達郎のライブを見に行っていたと語っており、特に自らのデビューライブ直前に見た達郎のライブには大きなインパクトを受けたという。

竹内まりやの結婚前の作品は、山下達郎をはじめ、加藤和彦、細野晴臣、告井延隆（センチメンタル・シティ・ロマンス）、大貫妙子、林哲司、伊藤銀次、杉真理、安部恭弘、浜田金吾（濱田金吾）といった作家が提供している。

1981年、彼女のルックスによるアイドル的な活動へのオファーと自身の希望する活動とのギャップから一時休業を宣言。その後1982年に山下達郎と結婚。同時に専業作詞作曲家として活動を開始し、河合奈保子の『けんかをやめて』などのヒットを放つ。しかし、1982年に山下がRVCから独立した小杉理宇造の設立したアルファ・ムーンに移籍したことから「記念に一枚」のつもりで、1984年にシングル『もう一度』、そして全曲を彼女自身が作詞・作曲したアルバム『VARIETY』をリリースし、最終的には30万枚以上のヒットになった。

その後は育児との両立が難しいこともあり、ライブ活動からは退いたものの、アレンジャー・プロデューサーを務める夫のサポートを受けながら、シンガーソングライターとして活動を続け、ロングセールスを記録したアルバム『REQUEST』（1987年）や、シングル『駅』（1987年）、シングル『シングル・アゲイン』（1989年）、シングル『告白』（1990年）、シングル『家（うち）に帰ろう（マイ・スイート・ホーム）』（1992年）などのヒット作をリリース。1992年にはアルバム『Quiet Life』が発売と同時にミリオン・セラーとなり、1994年のベストアルバム『Impressions』は売り上げ300万枚を超えるヒットを記録。

作詞・作曲家としては薬師丸ひろ子の『元気を出して』（1984）、中山美穂の『色・ホワイトブレンド』（1986）、広末涼子の『MajiでKoiする5秒前』（1997）など、多くのヒット作を生んだ。

。

90年代初め、中国系の歌手・林羽萍（Lín Yǔpíng, 英語名 Jessica）がアルバム『久別重逢』の中で『元気を出して』を『清醒之後』としてカバーしている。中国詞は「王中言」で、作曲者は本来「竹内まりや」とすべきところが「熊天龍」という全く違う名前になっている。

2000年7月、約18年ぶりの本格的なライブ（それ以前にも縁故のあるミュージシャンのライブのサプライズゲストに登場し数曲洋楽カバーを歌うことはあった）を東京（11日、12日）・大阪（31日）で行う（ライブ・アルバム『Souvenir～Mariya Takeuchi Live』収録）。その後もアルバム『Bon Appetit!』（2001年）、カバーアルバム『Longtime Favorites』（2003年）などをリリース。2004年には夫のシングル『忘れないで』の作詞を担当など、マイペースながらも着実に活動を続けている。子育てや夫・達郎の作品制作が一段落したことから2006年からリリースを積極的に行うようになり、2007年には6年ぶりにオリジナルアルバム『Denim』を発表。『Denim』はオリコンチャート1位入りを果たし、現在でも根強い人気を保っていることを証明した。

楽曲は、OLの何気ない日常に焦点を当てた歌などが多いが、本人がやや自嘲気味に言っているように不倫を題材にした曲も多い。竹内の作品でこの不倫ソング路線が本格的に現れたのは、中森

明葉の1986年のアルバム『CRIMSON』のテーマに沿う形で提供した楽曲群においてだったが、提供した5曲中2曲をアルバム『REQUEST』で竹内がセルフカバーした（さらにもう1曲のセルフカバーが『Denim』の初回特典CDに収録されている）。これらが高評価を得たことによって、竹内自身のパブリックイメージのひとつとして定着した。

シングル「チャンスの前髪」にはサザンオールスターズの前由子がゲストボーカルとして参加している。

デビュー30年を迎える2008年に、今までの発表曲を集大成したCD3枚組（初回のみボーナスディスク入りの4枚組）のベストアルバム『Expressions』が発売された。このベストアルバムの選曲にあたり、公式HPにて楽曲のファン投票を行い、NHK「SONGS」1周年記念特番にて発表した。2008年9月から放送が開始された、竹内の故郷である島根県を舞台としたNHK連続テレビ小説『だんだん』では、主題歌とナレーションを担当している。その縁で、Mr.Childrenと同様に2008年の紅白歌合戦に初登場するかと思われたが、「生放送での歌唱に難色を示した」という理由で出演は叶わなかった。

2008年12月28日、大阪フェスティバルホールで開かれた山下達郎のフェスティバルホール最後の公演に、「私も、フェスティバルホールにさよならをさせて欲しい。」との意向でアンコールのサプライズゲストとして出演。『人生の扉』『September』を披露。またダブルアンコールで『LET IT BE ME』（山下達郎とのデュエット）も披露した。

2010年8月14日に北海道で行われた野外フェス「RINSING SUN ROCK FESTIVAL 2010 in EZO」に山下達郎が出演した際、バックコーラスの一人として全曲に参加。

2010年12月4日、10年振りの本格的なライブである「souvenir again」の初日にピアノ弾き語り『いのちの歌』を披露した。

シングル

1st 1978年11月 戻っておいで・私の時間

2nd 1979 ドリーム・オブ・ユー～レモンライムの青い風～

3rd 1979 SEPTEMBER

4th 1980 不思議なピーチパイ

5th 1980 二人のバカンス

6th 1980 SWEETEST MUSIC

7th 1981 イチゴの誘惑

8th 1981 SPECIAL DELIVERY～特別航空便

9th 1981 NATALIE／アップル・パップル・プリンセス

10th 1984 もう一度／本気でオンリーユー（Let's Get Married）

11th 1984 マージービートで唄わせて

12th 1985 PLASTIC LOVE(EXTENDED CLUB MIX)／PLASTIC LOVE(NEW RE-MIX)

13th 1986 恋の嵐

14th 1986 時空の旅人

15th 1987 夢の続き

- 16th 1987 AFTER YEARS／駅
- 17th 1988 元気を出して
- 18th 1989 シングル・アゲイン
- 19th 1990 告白
- 20th 1992 マンハッタン・キス
- 21st 1992 家に帰ろう (マイ・スイート・ホーム)
- 22nd 1993 幸せの探し方
- 23rd 1994 明日の私
- 24th 1994 純愛ラブソディ
- 再発 1994 本気でオンリー・ユー／Forever Friends
- 25th 1995 今夜はHearty Party
- 26th 1996 ロンリー・ウーマン／TELL ME, TELL ME
- 27th 1998 カムフラージュ／Winter Lovers
- 28th 1999 天使のため息／ソウルメイトを探して
- 29th 2001 真夜中のナイチンゲール
- 30th 2001 毎日がスペシャル
- 31st 2001 ノスタルジア
- 32nd 2006 返信／シンクロニシティ (素敵な偶然)
- 33rd 2006 スロー・ラヴ
- 34th 2007 明日のない恋
- 35th 2007 チャンスの前髪／人生の扉
- 36th 2008 幸せのものさし／うれしくてさみしい日 (Your Wedding Day)
- 37th 2008 縁の糸
- 38th 2010 ウイスキーが、お好きでしょ